

社會醫學並統計

結核患者家庭ノ一面

京都市立宇多野療養所(所長 三月時雄)

小川吾七郎

目次

序	ヘ 患者並ビニ其家族員が共ニ所得ヲ有スル世帯數
第一節 患者	ト 患者が唯一ノ所得者タル世帯數
一 料金別患者數	チ 無所得患者
二 性別患者數	乙 所得額
三 年齢別患者數	リ 總患者ノ所得額
四 婚姻ニ關スル事項	ヌ 有所得患者ノ所得額
イ 婚姻別患者數	1 性別
ロ 料金別婚姻別患者數及男女數	2 料金別
ハ 婚姻別年齢	ル 總世帯數及家族員ノ平均所得額
五 職業	オ 料金別世帯所得額
第二節 患者ノ家族	ワ 有所得患者ノ所得額ト其世帯所得額トノ比
一 家族員數	カ 患者以外ノ家族員ノ所得額
二 患者ノ同胞數	コ 患者が唯一ノ所得者タル世帯ノ所得額
三 子女數	タ 患者並ビニ家族員が共ニ所得ヲ有スル世帯ノ所得額
四 患者ノ子ノ死亡率	レ 無所得患者ノ世帯
第三節 感染關係	ソ 年齢別患者所得狀態
一 家族中ノ結核患者數	1 人數
二 夫婦間ノ關係	a 十七歳未満ノ患者
三 親子間ノ關係	b 十八歳乃至二十一歳ノ患者
甲、乙、丙、丁	c 二十二歳乃至五十九歳ノ患者
第四節 生計狀態	d 六十歳以上ノ患者
一 所得	2 所得額
甲 人員	二 疊數
イ 概要	第五節 患者ノ轉歸
ロ 所得別患者	第六節 參考諸表
ハ 性別患者數	第七節 要綱
ニ 料金別患者數	
ホ 患者外有所得家族員ノ有無別世帯數	
1 所得有無別	
2 患者ノ性別ニ從ヘル患者外有所得家族員ヲ有スル世帯數	

序

國民ノ大多數ヲ占ムル無産階級ニ於ケル結核狀

態ハ、國民保健ノ觀點ヨリスレバ社會構成上極

メテ危険ナル一斷層ト斷ゼザルヲ得ズ。蓋シ長期ノ安靜療養ヲ必要トスル結核ニ對シテ彼等ハ自療ノ資ヲ有セザルニ拘ラズ救療亦普及セザルヲ以テ、此階級ニ於ケル多數患者ガ數年間生産無能力者トシテ徒食シ、且其ノ死前約2ケ年半(Bräuning)開放性患者トシテ國民ノ間ニ互スルハ、國家産業上竝ニ次代國民ノ體質問題トシテ重要ナル研究題目タルベキ者ナリ。加之彼等ガ結核ニ對スル一般智識ト、僅少ニテ足ルベキ治療資材ヲ有セザル爲ニ恰適ノ治療時機ヲ失スル不幸ハ人道トヨリ見テ遺憾一堪ヘザル者アリ。本邦ニハ不幸ニシテ結核家族ノミヲ對照トシテ調査セル信頼スベキ世帯調査ナキヲ以テ、余ハ大正9年6月ヨリ昭和10年6月ニ至ル15年間ニ京都市立宇多野療養所へ入所セル患者中ノ申告ノ信憑スベキ者2815名ヲ選ビテ其家庭狀態ヲ統計的ニ調査シ一ノ參考資料ト爲ス一足ルベキ者ヲ得タルヲ以テ、茲ニ其一端ヲ報告セントスル者ナリ。

本療養所ハ法律「結核豫防法」ニ準據シテ設置セラレタル者ニシテ、大正9年6月ヨリ患者收容ヲ開始シ昭和2年迄ハ入所申込者中ヨリ療養ノ途ナキ者100名ヲ選ビテ無料收容セルモ、後年内務省ハ結核豫防法第一條ヲ廣義ニ解釋シ、「有產者ト雖モ自宅ニ於テ療養ニ必要ナル施設ヲ有セザル者ハ之ヲ收容シ得」トセルヲ以テ、當所モ亦昭和3年4月病舎ヲ増築シ收容定員ヲ200名トセル際ニ其内30名ノ有料患者ヲ收容スルニ至レリ。余ガ本市ノ各階級ノ市民ニ對シテ當市

ニ存スル唯一ノ國家施設ヲ利用シ得ベキ機會ヲ與ヘタルハ機宜ヲ得タル方法ト言フベシ、爲一本篇中偶然ニモ有產者ト無產者トヲ比較スル機會ヲ得タルヲ悦ブ者ナリ。猶本統計表中へ年齢ハ通俗ノ觀念ヲ人ニ與ヘ易キヲ以テ日本流ノ呼稱ニ從ツテ1—10、11—20、21—30等トセルモ、之ハ滿年月ニ從ヘバ殆ド0—9、10—19、20—29等ニ相當スルヲ以テ統計専門家等ニ向ツテモ實際的ニハ不便ナルベキヲ信ズル者ナリ。又年齢、所得額、在所日數等ニ關スル統計中數値ヲ數學的ニ算出スベキハ勿論ナレドモ、一般ニ理解セラレ易キ事ヲ期スルト共ニ余ノ目的モ亦之ニテ充分達セラル、ヲ以テ、茲ニハ簡單ナル舊來ノ方法ニヨリテ平均値及比率ヲ擧ゲタリ。

第一節 患者

一、料金別患者數。(第1表)

調査材料タル患者總數2815名中有料患者ハ288名10%、無料患者ハ2527名90%ナリ。當所規定ニヨル有料制度ハ昭和3年以降ニシテ其以前ハ無料患者ノミナルヲ以テ統計材料トセル有料患者數ハ當所ノ規定ト一致セズ。

二、性別患者數。(第1表)

總患者2815名ハ男1762名63%、女1053名37%ニシテ兩者ノ比ハ約3:2ナリ。男女ノ各ナリ有料無料別トスレバ、男患者中有料ノ88名ノ11%(總患者ノ7%、有料全患者ノ65%)無料1574名89%(總患者ノ56%、無料全患者ノ62%)、女患者中有料100名9%(總患者ノ4%、有料全患者ノ35%)、無料953名91%(總患者

第1表 料金別及性別患者數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
患 者 數	188	100	288	1574	953	2527	1762	1053	2815
料金別患者數ニ對スル%	65.28	34.72	100.00	62.29	37.71	100.00			
性別患者數ニ對スル%	10.67	9.49		89.33	90.51		100.00	100.00	
總患者數ニ對スル%	6.68	3.55	10.23	55.91	33.86	89.77	62.59	37.41	100.00

ノ34%、無料全患者ノ38%)ナリ。

三、年齢別患者數。

總患者2815名ノ平均年齢ハ27歳ニシテ、男ノミ1762名ノ平均年齢ハ27歳、女ノミ1053名ノ

第2表 婚姻別患者数及び其等患者ノ平均年齢

婚姻別		未 婚			既 婚			合 計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
有 料	数	155	44	199	33	56	89	188	100	288
	平均年齢	23	21	22	39	32	34	26	27	26
無 料	数	1109	526	1635	465	127	892	1574	953	2527
	平均年齢	23	20	22	38	33	36	27	26	27
計	数	1264	570	1834	498	483	981	1762	1053	2815
	平均年齢	23	20	22	38	33	35	27	26	27

第3表 子女ノ有無別既婚患者数及び其等患者ノ平均年齢

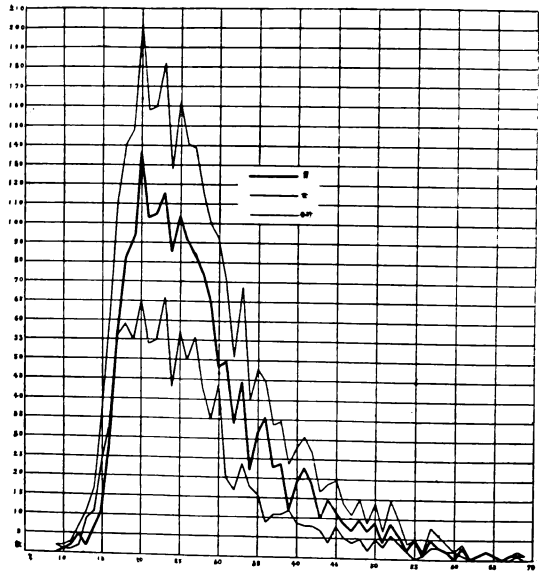
子女ノ有無		有			無			合 計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
有 料	数	25	39	64	8	17	25	33	56	89
	平均年齢	40	32	35	36	30	32	39	32	34
無 料	数	323	310	633	142	117	259	465	427	892
	平均年齢	37	32	35	39	33	37	38	33	36
計	数	348	349	697	150	134	284	498	483	981
	平均年齢	38	32	35	39	33	36	38	33	35

第4表 年齢別患者数

性別及計	年 齢 別			百 分 比		
	男	女	計	男	女	計
10歳以下	1	3	4	0.06	0.28	0.14
11歳—20歳	421	316	737	23.89	30.01	26.18
21歳—30歳	875	503	1378	49.66	47.77	48.95
31歳—40歳	297	147	444	16.85	13.96	15.77
41歳—50歳	121	56	177	6.87	5.32	6.29
51歳—60歳	37	26	63	2.10	2.47	2.24
61歳以上	10	2	12	0.57	0.19	0.43
種別合計	1762	1053	2815	100.00	100.00	100.00

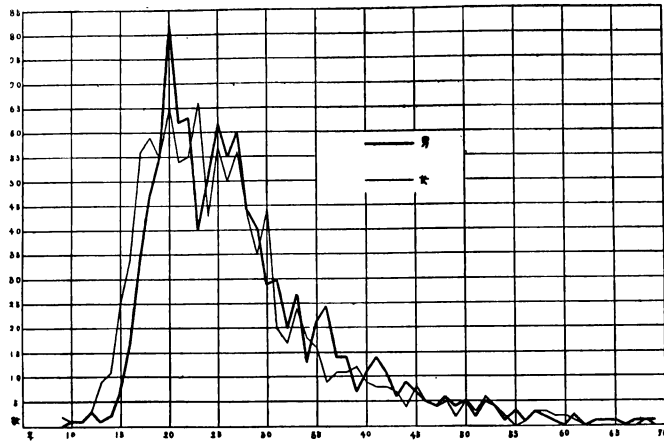
平均年齢ハ26歳ナリ(第2表)。男ノ最高年齢ハ68歳、最低ハ10歳、女ノ最高68歳、最低9歳ナリ。總患者ニ付イテハ21歳乃至30歳ノ者最モ多クシテ約49%ヲ占メ次イデ11—20歳ノ者26%ニ達シ、最モ少キハ10歳以下ノ0.1%ニシテ30歳以上ニテハ年齢ノ増加ト共ニ患者數ヲ漸減ス(第4表)。之ヲ曲線ヲ以テ示セバ第1圖ノ如ク、又男女ノ患者數ハ異ナルヲ以テ其各ヲ各年齢界ニテ百分比ニ換算シ曲線ヲ作レバ第2圖ノ如シ。即チ兩曲線ハ殆ド一致シテ、年齢別ニ見タル男女ノ罹患率ハ全く相同ジク、共

第 1 圖



ニ20歳前後ニ於テ最高ヲ示シ、11歳乃至20歳間ニテハ女ハ男ニ比シテ罹患率稍ク高シ。之ヲ統計局ノ全國統計(昭和8年)⁽¹⁾、簡易保險局發表ニヨル簡易保險加入者⁽²⁾及び京都市昭和9年

第 2 圖



ノ年齢別結核死亡者表⁽⁵⁾等ニ比スレバ當所患者ノ年齢別ノモノト大差ナシ。

四、婚姻ニ關スル事項

(1) 婚姻別患者數(第 5 表)

總患者 2815 名中未婚者 1834 名 65%、既婚者 981 名 35%、即兩者ノ比ハ約 2:1 ナリ。之ヲ男女別トスレバ未婚者 1834 名ノ中男 1264 名 69%、女 570 名 31%、兩者ノ比ハ約 2:1 ナレドモ既婚者ニテハ、其總數 981 名中男ハ 498 名 51

%、女 483 名 49%ニシテ其比ハ約 1:1 ナリ。即チ未婚者中ノ男ハ女ノ倍數ナレドモ既婚者ニテハ男女殆ト同數ナリ。

或ハ總患者中ノ男 1762 名中未婚者 1264 名 72%、既婚者 498 名 28%、兩者ノ比 5:2 ニシテ、女患者 1053 名中未婚者 570 名 54%、既婚者 483 名 46%、兩者ノ比ハ 2.3:2 ナリ。即チ男ノ未婚者甚多シ。

(ロ) 料金別婚姻別患者數及男女數(第 6 表)

第 5 表 婚姻別性別患者數

婚 姻 別	未 婚			既 婚			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	1264	570	1834	498	483	981	1762	1053	2815
婚姻別計ニ對スル%	68.92	31.08	100.00	50.76	49.24	100.00			
各合計ニ對スル%	71.74	54.13	65.15	28.26	45.87	34.85	100.00	100.00	100.00
總患者數ニ對スル%	44.90	20.25	65.15	17.69	17.16	34.85	62.59	37.41	100.00

第 6 表 料金別婚姻別患者數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	未 婚	既 婚	計	未 婚	既 婚	計	未 婚	既 婚	計
數	199	89	288	1635	892	2527	1834	981	2815
料金別計ニ對スル%	69.10	30.90	100.00	64.70	35.30	100.00			
各合計ニ對スル%	10.85	9.07	10.23	89.15	90.93	89.77	100.00	100.00	100.00
總患者數ニ對スル%	7.07	3.16	10.23	58.08	31.69	89.77	65.15	34.85	100.00

總患者 2815 名ヲ料金別トスレバ既記ノ如ク有料 288 名 10%、無料 2527 名 90%ナリ。其各

ヲ未既婚者ニ分ツ時ハ有料患者中未婚者 199 名 69%、既婚者 89 名 31%、無料患者中未婚者

1635 名 65%、既婚者 892 名 35%ニシテ、配偶者ノ有無ニ關シテハ有料無料患者ノ間ニ於テ殆ト相近キ比率ヲ示シ、有料無料共ニ未婚者ノ數ガ既婚者ニ約 2 倍スルヲ見ル。
然ルニ此各ヲ更ニ男女別ニスル時ハ(第 7 表)、有料未婚者 199 名中男 155 名 78%(有料全患者ノ 54%、女 44 名 22%(有料全患者ノ 15%)、有

料既婚者 89 名中男 33 名 37%(有料全患者ノ 11%)女 56 名 63%(有料全患者ノ 19%)ニシテ、無料未婚者 1635 名中男 1109 名 68%(無料全患者ノ 44%)女 526 名 32%(無料全患者ノ 21%)、無料既婚者 892 名中男 465 名 52%(無料全患者ノ 18%)、女 427 名 48%(無料全患者ノ 17%)ナリ。

第 7 表 料金別婚姻別性別患者數

料金別婚姻別 性	有 料 未 婚			有 料 既 婚			無 料 未 婚			無 料 既 婚		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	155	44	199	33	56	89	1109	526	1635	465	427	892
各計ニ對スル%	77.89	22.11	100.00	37.08	62.92	100.00	67.83	32.17	100.00	52.13	47.87	100.00
料金別患者數(第 6 表)ニ對スル%	53.82	15.28	69.10	11.46	19.44	30.90	43.88	20.82	64.70	18.40	16.90	35.30
總患者數(第 6 表)ニ對スル%	5.51	1.56	7.07	1.17	1.99	3.16	39.40	18.68	58.08	16.52	15.17	31.69

患者ノ料金別婚姻別性別的ニ比較スレバ、有料未婚男ノ數高率ナルハ多數ノ青年學生生徒ガ勉學又ハ運動等ノ爲一、又未婚女ニテ無料ノ率ガ有料ヨリ高キハ無料階級ノ女ハ勞役ニ從フ者多キガ爲一、此兩者ニ發病ノ機會多キ事ヲ示ス。

(ハ)婚姻別年齢(第 2 表)

總患者中未婚者 1834 名ノ平均年齢ハ 22 歳、其中男 1264 名ノ平均年齢ハ 23 歳、女 570 名ノ平

均年齢ハ 20 歳ナリ。次ニ既婚者 981 名ノ平均年齢ハ 35 歳ニシテ、其中男 498 名ノ平均年齢ハ 38 歳、女 483 名ノ平均年齢ハ 33 歳ナリ。既婚者 981 名中子ヲ有スル者 697 名 71%ニシテ其中男 348 名ノ平均年齢ハ 38 歳、女 349 名ノ夫ハ 32 歳ナリ。有料ト無料患者トノ間ニ本項ニ關シテハ表ニ明カナルガ如ク、何等ノ差違ヲ認メズ。

第 8 表 職業別患者數

職業(中分類)	人 數			百 分 比		
	男	女	計	男	女	計
農 耕 = 従 事 ス ル 者	11	2	13	0.62	0.19	0.46
漁 業 = 従 事 ス ル 者	1	0	1	0.06	0	0.04
窯業、土石加工ニ從事スル者	36	3	39	2.04	0.28	1.38
金屬、工業、機械、器具製造、造船、運搬用具製造ニ從事スル者	54	4	58	3.06	0.38	2.06
精 巧 工 業 = 従 事 ス ル 者	12	0	12	0.68	0	0.43
化學製品ノ製造ニ從事スル者	1	0	1	0.06	0	0.04
紡 織 工 業 = 従 事 ス ル 者	281	155	436	15.95	14.72	15.49
被服、身裝品製造ニ從事スル者	93	50	143	5.28	4.75	5.08
紙 工 業 印 刷 = 従 事 ス ル 者	64	6	70	3.63	0.57	2.49
皮革、骨、羽毛品類製造ニ從事スル者	4	0	4	0.23	0	0.14
木竹草蓆類ニ關スル製造ニ從事スル者	35	3	38	1.93	0.28	1.35

飲食品、嗜好品製造ニ従事スル者	25	7	32	1.42	0.67	1.14
土木建築ニ従事スル者	37	0	37	2.10	0	1.31
瓦斯、電氣、水道業ニ従事スル者	24	0	24	1.36	0	0.85
其他ノ工業的職業	10	1	11	0.57	0.10	0.39
商業的職業	352	40	392	19.98	3.80	13.92
金融保險ニ従事スル者	23	0	23	1.30	0	0.82
接客業ニ従事スル者	49	50	99	2.78	4.75	3.52
運輸ニ従事スル者	77	3	80	4.37	0.28	2.84
通信ニ従事スル者	31	15	46	1.76	1.42	1.63
官吏、公吏、雇傭員	58	6	64	3.29	0.57	2.27
陸海軍現役軍人	1	0	1	0.06	0	0.04
教育ニ従事スル者	19	11	30	1.08	1.05	1.07
宗教家	7	3	10	0.40	0.28	0.35
醫療ニ従事スル者	10	29	39	0.57	2.75	1.38
書記的職業	95	18	113	5.39	1.71	4.01
記者、著述家、藝術家、遊藝家	66	2	68	3.74	0.19	2.42
其ノ他ノ自由業	4	1	5	0.23	0.10	0.18
家事使用人	13	88	101	0.74	8.36	3.59
其ノ他ノ有業者	31	3	34	1.76	0.28	1.21
其ノ他ノ無業者	238	553	791	13.51	52.52	28.10
合計	1762	1053	2815	100.00	100.00	100.00

五、職業。(第 8 表)

統計局制定ノ中分類職業別ニ從ヘバ總患者ノ 2815 名ノ職業ハ第 8 表ニアルガ如ク、無業者最モ多ク 751 名 28%、次イデ紡織工業ニ従事スル者 436 名 15%、商業的職業 392 名 14%等ニシテ、其他ノ自由業ハ甚ダ少ク僅ニ 5 名 0.2%、

更ニ漁業、化學製品従事者、陸海軍現役軍人ハ最モ少ク各 1 名ナリ。而シテ畜産、林業、採炭、採鐵、石油鑛業、土石採取、製鹽等ノ従事者ハ地理的關係上全ク無シ。

第二節 患者ノ家族

一、家族員數(第 9 表)

第 9 表 患者ノ家族員數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
世帶數(患者數ニ同シ)	176	90	266	1290	769	2059	1466	859	2325
患者ヲ含ム家族員總數	937	484	1421	5167	3162	8329	6104	3646	9750
一戸當リ家族員數	5.33	5.38	5.34	4.00	4.11	4.05	4.16	4.24	4.19

總患者 2815 名中本項ノミニ關シ詳細ナル申告ヲ徵シ得タル者 2325 名ヲ選ビテ調査スルニ、其等ノ家族員總數ハ患者ヲ加ヘテ 9750 名、即チ一世帶當リノ家族數ハ平均 4.19 名ナリ。此數ハ戸籍面ノ數ニシテ使用人ヲ含マズ。京都市人口ハ昭和 7 年 10 月 1 日現在ニテ 1001700 名、其世帶數 213309 戸ニシテ一世帶平均人口數(此場合ニハ眞ノ家族數以外ニ雇人等ヲ包含ス) 4.69 名

ナルヲ以テ、當所患者ノ平均家族員數ハ市民ノ一戸平均人員數ヨリ半人少シ。

之ヲ患者ノ料金別トスレバ、有料 266 世帶 1421 名、無料 2059 世帶 8329 名ニシテ、一世帶ノ平均家族數ハ前者 5.34 名、後者 4.05 名ナリ。此ヲ上記ノ京都市ノ平均數 4.69 人、昭和 5 年 10 月 1 日國勢調査ニ依ル内地一世帶平均 5.1 名、昭和 2 年東京市ノ特定區域ニ關スル調査ニヨル

4.24名⁽⁶⁾、大正10年10月内務省社會局ノ細民生活狀態調査ニ於ケル4.34名⁽⁷⁾及ビ京都府學務部社會課調査ニヨル昭和7年6月10日現在ノ少額生活者ノ一戸平均人口4.3名⁽⁸⁾等ニ比ス

レバ、當所有料患者ノ平均家族員數ハ是等諸種調査ニヨル平均數ヨリ多ク、無料患者ノ平均家族數ハ上記諸調査ニヨル平均數ヨリ稍マ少シ。

二、患者ノ同胞數(第10表)

第10表 患者ノ同胞數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
患 者 數	188	100	288	1574	953	2527	1762	1053	2815
患者ヲ含ム患者ノ同胞數	993	518	1511	7746	4610	12356	8739	5128	13867
患者一人當リ同胞數	5.3	5.2	5.2	4.9	4.8	4.9	5.0	4.9	4.9

總患者2815名ノ同胞數合計ハ患者ヲ合シテ13867名、即チ人平均4.9約5名ナレドモ、此中一ハ死亡セル同胞ヲ含ムヲ以テ現存數ハ此ヨ

リ少シ。此點ニ關シ有料ト無料トノ間ニ特別ノ差ヲ見ズ。

三、子女數(第11表、第12表)

第11表 有子既婚患者數

料 金 別	男			女			合 計		
	有料	無料	計	有料	無料	計	有料	無料	計
數	25	323	348	39	310	349	64	633	697
性別計ニ對スル%	7.18	92.82	100.00	11.17	88.83	100.00			
各合計ニ對スル%	39.06	51.03	49.93	60.94	48.97	50.07	100.00	100.00	100.00
有子患者數697ニ對スル%	3.59	46.34	49.93	5.59	44.48	50.07	9.18	90.82	100.00
既婚患者數981(第5表)ニ對スル%	2.54	32.93	35.47	3.98	31.60	35.58	6.52	64.53	71.05
總患者數2815(第5表)ニ對スル%	0.89	11.17	12.36	1.39	11.01	12.40	2.28	22.48	24.76

第12表 患者ノ子女數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
子ヲ有スル患者數	25	39	64	323	310	633	348	349	697
患者ノ子女總數	60	97	157	772	715	1487	832	812	1644
子ヲ有スル患者一人當子女平均數	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.4	2.3	2.4
既婚者數(子ノ無キ者アリ)	33	56	89	465	427	892	498	483	981
既婚者一人當子女平均數	1.8	1.7	1.8	1.7	1.6	1.7	1.7	1.7	1.7

既婚患者981名中697名71%ハ現存死亡ヲ合シテ合計1644名ノ子女ヲ有セリ。之ヲ總既婚者ニ付イテ平均スレバ一人ノ有スル平均子女數ハ1.7名ナレドモ、實際ニ子供ヲ有シ又ハ有シタルコトアル上記697名ニ付イテ平均スレバ一人當リノ子女數ハ2.4名ナリ。當所ヘ夫婦ニシテ同時ニ入所セル者ハ一回ノミナルヲ以テ上記ノ子女數ハ重複セル者ナシ。猶是等子女ハ殆ド全部

未丁年者ナリ。

四、患者ノ子ノ死亡率(第13表)

前項子女ノ總數1644名中263名16%ハ死亡者ナリ。結核疾患ニヨル死亡率ハ總員1644名ニ對シテ90名5.5%、總死亡者263名ニ就テ實ニ34.2%ナリ。昭和9年京都市ノ總死亡者ノ6847名中結核ヲ死因トスル者ハ2449名、即チ14.5%ナルヲ以テ上記34%ハ恐ルベキ高率ト

第 13 表 患者ノ子女ノ死亡率

料 金 別	有 料	無 料	合 計
患者ノ子女總數	157	1487	1644
子女ノ死亡者數	12	251	263
子女總數ニ對スル%	7.64	16.87	16.00
結核性疾患ニヨル子女ノ死亡者數	4	86	90
子女ノ死亡者數ニ對スル%	33.33	34.33	34.22
子女總數ニ對スル%	2.55	5.78	5.47

言ハザルベカラズ。又料金別トセル患者ノ子ノ總死亡率ハ有料患者ニテ 7.6%、無料患者ニテ 16.9%、結核疾患ニヨル死亡率ハ前者ニテ 2.6%、後者ニテ 5.8ナリ。即チ無料患者ニテハ其子女ノ結核死亡ハ正ニ有料患者ノ夫ニ 2 倍ス。

第三節 感染關係

一、家族中ノ結核患者數(第 14 表)

第 14 表 近親者(親子、兄弟、夫婦)ノ結核患者數

料 金 別	有 料	無 料	合 計
患 者 數	288	2527	2815
近親者ニ結核患者ヲ有スル患者數及其等ノ種別全患者數ニ對スル比	101(35.1%)	1050(41.6%)	1151(40.9%)
近親者中ノ結核患者總數	155	1654	1809
近親者ニ結核患者ヲ有スル患者一人當リ近親者ノ結核患者數	1.5	1.6	1.6
各種別全患者一人當リ近親者ノ結核患者數	0.5	0.7	0.6

患者ト同一家庭内ニ居住スル者ノ範圍ヲ親子兄弟夫婦ニ限定シテ、患者ガ嘗テ自己ノ周圍ニ結核患者ヲ有セシカ、又ハ現在有スルカヲ入所時ノ患者ノ陳述ニ基キテ調査スルニ、患者 2815 名中近親者ニ結核ヲ有セシ者ハ 1151 名 41%ナルヲ以テ患者ノ四割ハ家庭内感染者ト認メ得ベシ。嘗テ Langréze 及ビ Orlovitch⁽⁹⁾ハ同一事項ヲ調査シテ 35%ト報告セルニ比スレバ余ノ例ハ稍々高率ナリト言フベシ。是等 1151 名

ノ患者ノ家庭内ニテ是等 1151 名以外ニ結核患者タリシ總數ハ 1809 名ナルヲ以テ、是等 1151 名ハ一人當リ、其周圍ニ 1.6 名ノ患者ヲ有セシナリ。

若シ患者ヲ料金別トスレバ有料 288 名中 101 名 35%、無料 2527 名中 1050 名 42%ノ患者ハ其家庭内ニ自分以外ノ結核患者ヲ有セシ者ニシテ、有無料兩者間ニ約 7%ノ差ヲ見ル。

二、夫婦間ノ關係(第 15 表)

第 15 表 配偶者ノ結核患者

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
既 婚 患 者 數	33	56	89	465	427	892	498	483	981
配偶者ノ結核患者數	1	3	4	29	28	57	30	31	61
既婚患者數ニ對スル配偶者ノ結核患者數ノ%	3.03	5.36	4.49	6.24	6.56	6.39	6.02	6.41	6.22

配偶者間ノ結核感染問題ハ既ニ論議ヲ盡サレタル如キ觀アルモ所論ハ未ダ歸一セズ。多クノ學者ハ夫婦間ノ結核感染ヲ以テ今日迄ニ想像セラ

レタルヨリハ遙カニ少キ者ナリト認ムルガ如シ。例之 Koopmann⁽¹⁰⁾ハ 7.7%、Keller⁽¹¹⁾ハ 3%、Arnould⁽¹²⁾ハ 1%、Schaefer⁽¹³⁾ハ

10%ト報告セリ。余ノ統計ニテハ既婚男498名中其妻ガ結核ナル者ハ30名6%、既婚女483名中其夫ガ結核患者ナル者ハ31名6.4%ニシテ、總既婚患者981名中其配偶者ガ結核ナル者ハ61名即チ6.2%ナリ。次ニ有料患者ト無料患者トヲ比較スルニ前者ハ4.5%、後者ハ6.4%ナリ。

三、親子間ノ關係

第16表 患者ノ子女ノ結核患者數

料 金 別	有 料	無 料	合 計
子ヲ有スル患者數	64	633	697
子 女 總 數	157	1487	1644
結 核 子 女 數	4	104	108
子女總數ニ對スル 結核子女數ノ%	2.55	6.99	6.57

甲、(第16表)親子間ノ感染關係ヲ見ル場合一、家庭内ニテ親ガ患者ナル場合ニモ其子ノ感染若クハ發病ガ必ズシモ親ニ原因セズシテ或ハ同胞トリ得ル機會アルコトヲ否定スルヲ得ザレドモ、當所ヘ入所スルガ如キ家族員少キ家庭ニテハカ、ル有リ得ベキ凡テ疑ハシキ場合ヲ考慮セズシテ、單ニ親子間ニテ感染スル者ト見做シテ兩者ノ關係ヲ論ズルモ不當ナラザル事ヲ信ズ。今患者ノ陳述ノミニ基キテ親ガ結核ナル場合子供ニ幾何ノ結核患者ヲ生ゼシヤヲ見ルニ、子女ヲ有スル患者697名ガ當初ヘ入所スル以前ニ有セシ子女ノ總數ハ1644名ニシテ、其中108名6.6%ガ結核發病セリ。或ハ有料患者ニテ2.6%、無料患者ニテ7.0%ナリ。

第17表 結核親ヲ有スル患者數

料 金 別		有 料	無 料	合 計
總	患 者 數	(288)	(2527)	(2815)
	數	37	410	447
結 核 親 ヲ 有 ス ル 患 者	料 金 別 患 者 數 及 ビ 合 計 ニ 對 ス ル %	12.85	16.22	15.88
	父 親 ガ 結 核 ナ ル 患 者 數	14	195	209
	結核親ヲ有スル料金別患者數及ビ合計ニ對スル%	37.84	47.56	46.76
	料 金 別 患 者 數 及 ビ 合 計 ニ 對 ス ル %	4.86	7.72	7.42
	母 親 ガ 結 核 ナ ル 患 者 數	21	178	199
	結核親ヲ有スル料金別患者數及ビ合計ニ對スル%	56.76	43.41	44.52
	料 金 別 患 者 數 及 ビ 合 計 ニ 對 ス ル %	7.29	7.04	7.07
	兩 親 ガ 結 核 ナ ル 患 者 數	2	37	39
	結核親ヲ有スル料金別患者數及ビ合計ニ對スル%	5.40	9.03	8.72
	料 金 別 患 者 數 及 ビ 合 計 ニ 對 ス ル %	0.69	1.46	1.39

乙、(第17表)前項ニ反シテ子ヨリ親ヲ見ルニ即チ當所ヘ入所セル總患者2815名中其親ガ結核患者若クハ患者タリシ事ヲ證明シ得タル者ハ447名即チ15.9%ナレドモ、患者ノ親ハ父母ノ2人ナルヲ以テ此率ハ半減セラレテ8%トナル。次ニ患者ヲ有料無料ニ分テバ此關係ハ有料患者ニテ6.5%、無料患者ニテ8.1%ナリ。是等ノ數字ハ凡テ前項ノ數字ニ近クシテ、共ニ其數ノ意外ニ小ナルニ驚クモ之ハ唯素人タル患者等ガ認メ得タル程度ノ少年少女等ノ重症結核發病者ノ數ヲ示ス者ト言フベク、或ハ又當所ヘ入

所スルガ如キ家庭ニテ若シ親ガ患者ナレバ其等ノ子ノ6.6%乃至8%ハ必ズ結核發病スル者ト言ヒ得ベシ。故ニ既記ノ如ク家庭内ノ感染ト認ムベキ者ハ約4割ナル故、親ヨリスル感染ト認ムベキ此1割弱ヲ除キタル殘餘ノ3割強ハ同胞夫婦關ノ感染ナリト認メ得ベキガ如シ。

丙、(第18表)今若シ前項(乙)ニ舉ゲタル447名ノ當所ヘ入所セル確實ナル肺結核患者タル者等ガ有スル同胞ヲ算スルニ、患者ヲ加ヘテ2038名ナリ。患者ノ陳述ニ從ヘバ是等2038名中ヨリ當所ヘ入所セル447名ノ患者ヲ加ヘテ747名

第 18 表 結核親ヲ有スル患者ノ同胞數及ビ其同胞中ノ結核患者數

料 別		有 料	無 料	合 計	
總者 患	數	(288)	(2527)	(2815)	
	同 胞 數 (患 者 ヲ 含 ム)	(1511)	(12356)	(13867)	
結核親 ヲ有スル 患者ノ 同胞	數 (患 者 ヲ 含 ム)	182	1856	2038	
	料金別患者全同胞數及ビ其ノ合計ニ對スル%	12.04	15.02	14.70	
	父 親 が 結 核 ナ ル 者	59	840	899	
	結核親ヲ有スル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%	32.42	45.26	44.11	
	料金別患者全同胞數及ビ其ノ合計ニ對スル%	3.90	6.80	6.18	
	母 親 が 結 核 ナ ル 者	112	819	931	
	結核親ヲ有スル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%	61.54	44.13	45.68	
	料金別患者全同胞數及ビ其ノ合計ニ對スル%	7.11	6.63	6.71	
	兩 親 が 結 核 ナ ル 者	11	197	208	
	結核親ヲ有スル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%	6.04	10.61	10.21	
	料金別患者全同胞數及ビ其ノ合計ニ對スル%	0.72	1.59	1.49	
	數 (患 者 ヲ 含 ム)	66	681	747	
	結核親 ヲ有スル 患者ノ 同胞中 ノ結核 患者	結核親ヲ有スル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%	36.26	36.69	36.65
		料金別患者全同胞數及ビ其ノ合計ニ對スル%	4.37	5.51	5.39
父 親 が 結 核 ナ ル 者		21	308	329	
父親が結核ナル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%		35.69	36.67	36.60	
結核親ヲ有スル料金別及ビ其ノ合計患者同胞中ノ結核患者數ニ對スル%		31.82	45.23	41.04	
結核親ヲ有スル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%		11.54	16.59	16.14	
料金別患者全同胞數及ビ其ノ合計ニ對スル%		1.39	2.49	2.37	
母 親 が 結 核 ナ ル 者		42	299	341	
母親が結核ナル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%		37.50	36.51	36.63	
結核親ヲ有スル料金別及ビ其ノ合計患者同胞中ノ結核患者數ニ對スル%		63.64	43.89	45.66	
結核親ヲ有スル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%		23.08	16.11	16.73	
料金別患者全同胞數及ビ其ノ合計ニ對スル%		2.78	2.42	2.46	
兩 親 が 結 核 ナ ル 者		3	74	77	
兩親が結核ナル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%		27.27	37.56	36.73	
結核親ヲ有スル料金別及ビ其ノ合計患者同胞中ノ結核患者數ニ對スル%	4.55	10.87	10.31		
結核親ヲ有スル料金別患者全同胞數及其ノ合計ニ對スル%	1.65	3.99	3.78		
料金別患者全同胞數及ビ其ノ合計ニ對スル%	0.20	0.60	0.56		

36.7%ノ結核死亡者若クハ結核患者ヲ算シ得タルヲ以テ、子ノ3割7分ハ其親(及同胞)ヨリ感染シテ發病セリト言ヒ得ベシ。
 唯茲ニ注意スベキハ子ガ親ヨリ感染シテ發病スルニハ親ノ疾患經過期間、子ノ年齢、接觸狀態等ニテ大ナル相違ヲ生ズルヲ以テ、前項ト本項トノ數字ヨリ重大ナル結論ニ達スル事ヲ避ケテ余ハ唯親ガ結核患者ナル場合其子等ノ7分乃至3割7分ハ發病シ得ル程度ニ其親(及同胞)ヨリ感染シ得トノ感染概念ヲ得タル者トシテ満足セ

ントスル者ナリ。

次ニ結核親ヲ有スル上記747名(内447名ハ當所へ入所セリ)ノ結核發病セル子女ヲ、父母ノ何レカガ患者タル場合及ビ兩親共ニ患者ナル場合ニ分ツ時ハ、夫々329名44.0%、341名45.7%、77名10.3%ナリ。

Korányi⁽¹⁴⁾ハ嘗テ結核患者ヲ有セシ578家庭ニ就イテ其等家庭内ノ13歳以下ノ子供1273名ノ診察ヲ行ヒ實ニ603名47.4%ニ上ル結核兒ヲ證明セシガ、其中440名73%ハ實ニ親ヲ傳

染源トセル者ニシテ更ニ之ヲ細別スレバ、傳染源ヲ父親ト認ムベキ子供152名34%、母親ト認ムベキ者224名51%、兩親ノ場合64名15%ノ事ヲ報告セリ。

本項ニ關シテ患者ノ料金別ヨリ見レハ子供ノ結核發生率ニ就イテハ其間何等差異ヲ發見セザルモ、若シ之ヲ更ニ親ノ性別トスレバ有料66名中父親ヲ傳染源トスル者21名32%、母親ヲ傳染源トスル者42名64%、兩親共ニ結核ナル者3名5%ニシテ母親ヲ傳染源トスル者ハ父親ノ夫ニ2倍スルモ、無料681名ニテハ順次ニ夫々308名45%、299名44%、74名11%ニシテ、傳染源トシテ子ニ對スル危險程度ハ無料ニテハ父母共一殆ド同一ナルハ有料ト異ル點ナリトス。唯材料トナシ得タル有料患者ノ少キヲ遺憾トス。

丁、(第18表)前項(丙)ニ記セシ結核ヲ有シ若シクハ有セシ子供2038名中、結核父親ヲ有シ若シクハ有セシ者899名44%、結核母親ヲ有シ若シクハ有セシ者931名46%、兩親共ニ結核ナル者若シクハナリシ者208名10%ナリ。是等各群ノ子供中ヨリ結核發病セル者ハ順次ニ夫々329名36.6%、341名36.6%、77名36.7%ニシテ三者トモ同一ナルヲ以テ、下層階級ニテハ子ニ對スル親ノ危險程度ハ親ノ性ニ無關係ナル事ヲ知り得ベシ。之ハ本邦人ノ住居及生活様式ニテハ、父ト母トニヨリ子ニ接觸スル頻度ノ相違ハ結核發病ニハ無關係ニシテ、父母ノ何レカガ患者ナレハ其子ハ容易ニ發病シ得ル程度ニ感染セシメラル、事ヲ示ス者ト言フベシ。然レドモ疾患經過ハ感染濃度ニ、感染濃度ハ接觸ノ頻度ニ關係シ、頻度ハ親ノ性ニ依ツテ異ルベキ事勿論ナルガ故ニ、發病セル子供ノ轉歸ハ親ノ性ニ從ツテ異ナル者アラシキ事ヲ想像シ得ルヲ以テ、若シ轉歸別ヨリ此關係ヲ觀察スレバ異ル結論ニ到達スル事ナキヲ保セザルモ、不幸ニシテ余ハ其調査ヲ遂グルヲ得ザリシヲ遺憾トス。本項ニ關シテハ料金別ヨリ見ルモ殆ド差違ヲ認メズ。

第四節 生計狀態

一、所得

甲、人員

(イ)概要、總患者2815名中所得申告ニ關シ幾分ノ疑點ヲ有スル者ヲ省キテ1652名ヲ選ビ、其等ノ所得ニ關スル必要統計ヲ試ミタリ。猶所得額ハ患者發病前ニ於ケル本人若シクハ一家ノ總所得額ヲ基礎トセリ。

邦人多數階級者ノ生活、教養等ノ現状ヨリ見レハ、結核ノ感染及ビ發病等ニ關シテ少許ノ資産差違ハ無關係ナリト考ヘラル、モ、治癒ノ一點ニ至リテハ或ハ兩階級ノ間ニ多少ノ差違ナキヲ保シ難キヲ以テ、茲ニ少數ナレドモ當所ノ有料患者ヲ對照トシテ觀察ヲ下スコト、セリ。

當所ノ有料患者ハ入所料ヲ6ヶ月間以上繼續納入シ得ル者ヲ資格標準トシ、其定員29名ハ1圓14名、2圓7名、3圓8名ニシテ、無料患者定員171名ノ資格標準ハ「不動産ヲ有セザル者ニシテ月收100圓以下ノ者」トセリ。故ニ無料患者ノ間ニモ其所得ニ關シテハ相當ノ階段ヲ存シ又之ガ爲ニ有料無料間ノ分界點ハ急激ナル段落ヲ成サザルガ如キ觀アルモ、當所ニテハ僅少ノ入所料ヲ納入シテ入所シタル者ガ直ニ無料患者ニ變格ヲ申出デ、長期待機中ノ正直ナル眞ノ無料申込患者ヲ越ヘテ無料ノ優先權ヲ獲得セシメザランガ爲ニ、一旦有料患者トシテ入所セル者ヲ無料患者ニ變格セザルガ故ニ、最下級ノ有料患者ト雖モ資産トシテノ彈力性ハ無料患者ニ遙ニ優越セル事明カナルヲ以テ、兩者ヲ區別シテ觀察ヲ下スモ不當ノ結論ニ到達セザルベキヲ信ズ。

未丁年ノ有料患者ニシテ收入ヲ有スル者ハ極メテ少キモ、無料患者ニテハ未丁年者ノ64%ハ若干ノ收入ヲ有スルハ奉公人タルガ爲ナリ。又無料患者ニテハ一家ノ主長トシテ相當ノ收入ヲ有セシ者モ發病セルガ爲ニ一家ノ忽チ無收入狀態トナレル者多シ。之ニ反シ往々ニシテ、家長ノ收入ハ大ナラザルモ家族内ニ勞働力ヲ缺ク老幼者ヲ有セズシテ青壯年者ノミテ家ヲ成スガ

如キ者ニテハ世帯トシテノ所得合計ハ相當ノ額ニ達スベシト認メ得ベキガ如キ者アレドモ、カカル所得ハ當所ノ調査員一申告セラレザル事多ク、又斯カル家庭ニテハ主長ガ發病スルモ一家ノ收入ガ杜絶スルガ如キ事ナシ。猶殆ト全部ノ患者ハ發病スレバ先ヅ開業醫ノ下ニテ治療ヲ蒙ルヲ常トシ、施療機關等ヲ第一ニ訪問スルガ如キ者無キモ其生計漸ク難澁トナルニ至リ始メテ

種々ノ施療機關ヲ訪ヒ又ハ當所へ入所ヲ申込ムヲ以テ、入所申込後入所ニ至ル迄ノ3ヶ月乃至6ヶ月間ニハ其生計ハ愈々窮迫シ隣癪ヲ廢セル者アリ。又屢々其生計ハ窮迫セズンテ隣癪ヲ廢セル者モ亦多ク、其等ノ者ハ通俗療養書又ハ廣告ニヨル藥劑等ヲ信ジテ自己ノ病期ニ不適合ナル自療ヲ繼續セルガ爲ニ病勢ヲ増悪セシメタリト想像セラル、者多シ。

第 19 表 所得性別別患者數

所 得	有 所 得			無 所 得			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	887	224	1111	130	411	541	1017	635	1652
所得別計ニ對スル%	79.84	20.16	100.00	24.03	75.97	100.00			
各合計ニ對スル%	87.21	35.27	67.25	12.79	64.73	32.75	100.00	100.00	100.00
總患者數ニ對スル%	53.69	13.56	67.25	7.87	24.88	32.75	61.56	38.44	100.00

第 20 表 性別所得別患者數

所 得	男			女			合 計		
	有所得	無所得	計	有所得	無所得	計	有所得	無所得	計
數	887	130	1017	224	411	635	1111	541	1652
性別計ニ對スル%	87.21	12.79	100.00	35.27	64.73	100.00			
各合計ニ對スル%	79.84	24.03	61.56	20.16	75.97	38.44	100.00	100.00	100.00
總患者數ニ對スル%	53.69	7.87	61.56	13.56	24.88	38.44	67.25	32.75	100.00

(ロ) 所得患者數(第 19 表) 1652 名ノ患者中自ラ所得ヲ有スル者ハ 1111 名 67%、之無キ者ハ 541 名 33%ナリ。即チ患者ノ 3 分ノ 2 ハ所得ヲ有シ、3 分ノ 1 ハ無所得ナリ。更ニ之ヲ男女別トスレバ有所得者中男 887 名 80%、女 224 名 20%、無收入者中男 130 名 24%、女 411 名 76%ナリ。

(ハ) 性別患者數(第 20 表) 總患者 1652 名ヲ男女ニ分テバ、男 1017 名 62%、女 635 名 38%ナ

リ。男 1017 名中所得有ル者ハ 887 名 87% (總數 1652 ニ對シ 54%)、無キ者ハ 130 名 13% (總數ニ對シ 8%)、女 635 名中有所得者ハ 224 名 35% (總數ノ 14%)、無所得者ハ 411 名 65% (總數ノ 25%)ナリ。本項ヲ前項ト合シテ考フレバ、男ノ 8 割 7 分、女ノ 3 割 5 分ハ有所得者ニシテ、是等ノ家計ヲ支持スル者ノ 8 割ハ男、2 割ハ女ナル事ヲ知り得ベシ。

(ニ) 料金別患者數(第 21 表) 1652 名ノ患者中有

第 21 表 料金別所得別患者數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	有所得	無所得	計	有所得	無所得	計	有所得	無所得	計
數	66	133	199	1045	408	1453	1111	541	1652
料金別計ニ對スル%	33.16	66.84	100.00	71.92	28.08	100.00			
各合計ニ對スル%	5.94	24.58	12.06	94.05	75.42	87.95	100.00	100.00	100.00
總患者數ニ對スル%	4.00	8.05	12.05	63.25	24.70	87.95	67.25	32.75	100.00

料 199 名 12%、無料 1453 名 88% ナリ。有料患者中所得ヲ有スル者ハ 66 名 33% (總患者 1652 名ニ對シテ 4%)、無キ者ハ 133 名 67% (總患者ノ 8%)、無料患者ニシテ所得ヲ有スル者 1045 名 72% (總患者ノ 63%)、無キ者 408 名 28%

(總患者ノ 25%) ナリ。即チ有料患者ノ大多數ガ無所得者ナルハ家族員ナル事ヲ示シ、無料患者ノ大多數ガ有所得者ナルハ家族中ノ戸主又ハ長男等ノ主ナル所得者タル事ヲ語ル者ナリ。之ヲ更ニ男女別スレバ (第 22 表)、(1) 有料有

第 22 表 料金別所得別性別患者數

料金別所得	有料有所得			有料無所得			無料有所得			無料無所得		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	61	5	66	63	70	133	826	219	1045	67	341	408
各計ニ對スル%	92.42	7.58	100.00	47.37	52.63	100.00	79.04	20.96	100.00	16.42	83.58	100.00
料金別患者數(第 21 表)ニ對スル%	30.65	2.51	33.16	31.66	35.18	66.84	56.85	15.07	71.92	4.61	23.47	28.08
總患者數(第 21 表)ニ對スル%	3.69	0.30	3.99	3.81	4.24	8.05	50.00	13.26	63.26	4.06	20.64	24.70

所得者中男 61 名 92% (全有料患者數 199 名ノ 31%、總患者數 1652 名ニ對シ 3.7%)、女 5 名 8% (全有料患者ノ 3%、總患者ノ 0.3%)。 (2) 有料無所得者中男 63 名 47% (全有料患者ノ 32%、總患者ノ 3.8%)、女 70 名 53% (全有料患者ノ 35%、總患者ノ 4.2%)。 (3) 無料有

所得者中男 826 名 79% (全無料患者 1453 名ニ對シ 57%、總患者ノ 50%)、女 219 名 21% (全無料患者ノ 15%、總患者ノ 13%)。 (4) 無料無所得者中男 67 名 16% (全無料患者ノ 5%、總患者ノ 4%)、女 341 名 84% (全無料患者ノ 23%、總患者ノ 21%) ナリ。

第 23 表 患者外ノ有所得家族員ノ有無別世帶數

所 得	有 所 得			無 所 得			合 計		
	有料	無料	計	有料	無料	計	有料	無料	計
料 金 別 數	152	936	1088	47	517	564	199	1453	1652
所得別計ニ對スル%	13.97	86.03	100.00	8.33	91.67	100.00			
各合計ニ對スル%	76.38	64.42	65.86	23.62	35.58	34.14	100.00	100.00	100.00
總世帶數 1652ニ對スル%	9.20	56.66	65.86	2.85	31.29	34.14	12.05	87.95	100.00

(ホ) 患者外有所得家族員ノ有無別世帶數。

1. 所得有無別 (第 23 表)。患者 1652 名ノ世帶ニテ患者以外ニ所得ヲ有スル家族員アル世帶ハ 1088 世帶 66%ニシテ、其中有料患者ハ 152 世帶 14% (有料全世帶數 199ニ對シテ 76%、總世帶數 1652ニ對シテ 9%)、無料患者ハ 936 世帶 86% (無料患者全世帶數 1453ニ對シテ 64%、總世帶數ニ對シテ 57%) ナリ。又家族員ガ所得ヲ有セザル 564 世帶中有料患者ハ 47 世帶 8% (有料患者全世帶數ニ對シテ 24%、總世帶數ニ對シテ 3%) 無料患者ハ 517 世帶 92% (無料患

者全世帶數ニ對シテ 36%、總世帶數ニ對シテ 31%) ナリ。之ヲ以テ見レバ有産階級ヨリハ家族中ノ無所得者タル妻、子女等ガ多ク入所シ無産階級ヨリハ家族中ノ主ナル所得者ガ入所セルヲ推知シ得ベシ。

2. 患者ノ性別ニ從ヘル患者外有所得家族員ヲ有スル世帶數 (第 24 表)。全患者 1652 名中男患者 1017 名ノ家族員ニシテ所得ヲ有スル者アル世帶數ハ 522 戸 51% (總世帶數 1652ニ對シ 32%)、所得者無キハ 495 戸 49% (總世帶數ノ 30%)ニシテ兩者殆ト同數ナリ。女患者 635 名中

第 24 表 患者ノ性別ニ從ヘル患者外家族員ノ所得有無別世帯數

性	男			女			合 計		
	所得	無所得	計	所得	無所得	計	所得	無所得	計
數	522	495	1017	566	69	635	1088	564	1652
性別計ニ對スル%	51.33	48.67	100.00	89.13	10.87	100.00			
各合計ニ對スル%	47.98	87.77	61.56	52.02	12.23	38.44	100.00	100.00	100.00
總世帯數ニ對スル%	31.60	29.96	61.56	34.26	4.18	38.44	65.86	34.14	100.00

第 25 表 有所得患者ノ家族員中ニ有所得者アル世帯數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	16	3	19	376	152	528	392	155	547
料金別計ニ對スル%	84.21	15.79	100.00	71.21	28.79	100.00			
各合計ニ對スル%	4.08	1.94	3.47	95.92	98.06	96.53	100.00	100.00	100.00
總世帯數1652ニ對スル%	0.97	0.18	1.15	22.76	9.20	31.96	23.73	9.38	33.11
患者及其家族員が共ニ有所得ナル全世帯數547ニ對スル%	2.92	0.55	3.47	68.74	27.79	96.53	71.66	28.34	100.00
種別患者全世帯數	(124)	(75)	(199)	(893)	(560)	(1453)	(1017)	(635)	(1652)
種別患者全世帯數ニ對スル%	12.90	4.00	9.54	48.73	27.14	36.34	38.54	24.41	33.11
料金別患者ノ全世帯數ニ對スル%	8.04	1.50	9.54	25.88	10.46	36.34			

前者 566 世帯 89% (全世帯數ノ 34%)、後者 69 世帯 11% (全世帯數ノ 4%) ニシテ 兩者ノ間ニ甚シキ差ヲ見ル。即チ男子ガ發病スレバ其家族ガ收入ヲ有スルト否トニ拘ラス其男子ハ療養ニ就キ易ク、女子ガ發病スレバ其一家生計ハ其女患者以外ノ家族員ノ所得ニヨリテ支持セラル、家庭ナラザレバ容易ニ療養ニ就キ難キヲ語ル者ト言フベシ。

(ハ) 患者竝ビニ其家族員ガ共ニ所得ヲ有スル世帯數(第 25 表)。患者 1652 名中患者及ビ其家族員中ニモ所得ヲ有スル者アルハ 547 世帯 33% ニシテ、是等ノ殆ド全部ハ無料患者ナルヲ以テ無料患者世帯ニテハ其稼ヲ餘儀ナクセラル、者、全數ノ 3 分ノ 1 ニ達スルヲ見ル。今試ニ此等 547 世帯ヲ料金別トスル時ハ、有料患者 19 世帯 3% (有料全患者 199 名ニ對シ 10%、總患者 1652 名ニ對シ 1%)、無料患者 528 世帯 97% (無料全患者 1453 名ニ對シ 36%、總患者 1652 名ノ 32%) ニシテ、此料金別數ヲ更ニ男女別トセバ上記有料患者 19 名中男 16 名 84% (上記

547 世帯ニ對シ 3%) 女 3 名 16% (547 世帯ニ對シ 1%)、無料患者 528 名中男 376 名 71% (547 名ニ對シ 69%)、女 152 名 29% (547 名ニ對シ 28%) ナリ。

(ト) 患者ガ唯一ノ所得者タル世帯數(第 26 表)。總患者 1652 名ノ世帯中、患者ガ其家族中唯一ノ所得者タル者ハ 564 世帯 44% ニシテ、之ヲ料金別トセバ有料患者 47 世帯 8% (有料全世帯數 199 ノ 24%、總世帯數 1652 ニ對シ 3%)、無料患者 517 世帯 92% (無料全世帯數 1453 ニ對シ 36%、總世帯數ニ對シ 31%) ナリ。此各ヲ性別トスレバ、(1) 有料患者 47 名中男 45 名 96% (上記 564 世帯ノ 8%、有料男全世帯數 124 ニ對シ 36%、有料全世帯數 199 ニ對シ 23%) 有料女 2 名 4% (564 世帯ノ 0.4%、有料女全世帯數 75 ニ對シ 3%、有料全世帯數 199 ノ 1%) ニシテ、(2) 無料患者 517 名中男 450 名 87% (564 世帯ノ 80%、無料男全世帯數 893 ニ對シ 50%、無料患者全世帯數 1453 ニ對シ 31%)、無料女 67 名 13% (564 世帯ノ 12%、無料女全世帯數

第26表 家族中患者が唯一ノ所有者ナル世帯數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	性 男	性 女	計	性 男	性 女	計	性 男	性 女	計
數	45	2	47	450	67	517	495	69	564
料金別計ニ對スル%	95.74	1.26	100.00	87.04	12.96	100.00			
各合計ニ對スル%	9.09	2.90	8.33	90.91	97.10	91.67	100.00	100.00	100.00
患者が唯一ノ所有者ナル世帯數合計ニ對スル%	7.98	0.35	8.33	79.79	11.88	91.67	87.77	12.23	100.00
料金別患者ノ全世帯數(第25表)ニ對スル%	22.61	1.01	23.62	30.97	4.61	35.58			
種別患者ノ全世帯數(第25表)ニ對スル%	36.29	2.67	23.62	50.39	11.96	35.58	48.67	10.87	34.14
總世帯數 1652ニ對スル%	2.72	0.12	2.84	27.24	4.06	31.30	29.96	4.18	34.14

560ニ對シ12%、無料患者全世帯數ニ對シ5%ナリ。

又此564世帯ヲ先ヅ患者ノ性別ニ從ツテ分ツ時ハ第26表ニ見ルガ如ク、男患者ニ屬スル者ハ

495世帯88% (全男患者1017名ノ49%、總患者1652名ノ30%)、女患者ニ屬スル者ハ69世帯12% (全女患者635名ノ11%、總患者1652名ノ4%)ナリ。

第27表 有 所 得 孤 獨 者

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	性 男	性 女	計	性 男	性 女	計	性 男	性 女	計
數	8	1	9	144	40	184	152	41	193
料金別計ニ對スル%	88.89	11.11	100.00	78.26	21.74	100.00			
各合計ニ對スル%	5.26	2.44	4.66	94.74	97.56	95.34	100.00	100.00	100.00
種別患者ノミカ有所有者ナル世帯數(第26表)ニ對スル%	17.78	50.00	19.15	32.00	59.70	35.57			
種別患者全世帯數(第25表)ニ對スル%	6.45	1.33	4.52	16.13	7.14	12.66			
料金別患者ノミカ有所有者ナル世帯數(第26表)ニ對スル%	17.02	2.13	19.15	27.85	7.74	35.59			
料金別患者數計(第25表)ニ對スル%	4.02	0.50	4.52	9.91	2.75	12.66			
有 所 得 孤 獨 者 數 193ニ對スル%	4.15	0.52	4.67	74.61	20.73	95.34	78.76	21.24	100.00
患者ノミカ有所有者ナル世帯數564(第26表)ニ對スル%	1.42	0.18	1.60	25.53	7.09	32.62	26.95	7.27	34.22
總世帯數 1652ニ對スル%	0.48	0.06	0.54	8.72	2.42	11.14	9.20	2.48	11.68

第27表ニ示スガ如ク患者が唯一ノ所有者タル上記564世帯中193即チ34% (總患者1652名ノ12%)ハ實ニ患者一人ノ世帯ナリ。是等193

名ノ獨身世帯中有料男8名4% (有料男全患者124名ノ6%、有料全患者199名ノ4%)、有料女1名0.5% (有料女全患者75名ノ1.3%、有

料全患者 199 名ノ 0.5%)、無料男 144 名 74.6% (無料男全患者 893 名ノ 16%)、無料全患者 1453 名ノ 10%)、無料女 40 名 21% (無料女全患者 560 名ノ 7%)、無料全患者ノ 3%) ナリ。

第 28 表 無所得患者數

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
性 數	63	70	133	67	341	408	130	411	541
料 金 別 計 = 對 ス ル %	47.37	52.63	100.00	16.42	83.58	100.00			
無 所 得 全 患 者 數 = 對 ス ル %	11.65	12.94	24.59	12.38	63.03	75.41	24.03	75.97	100.00
料 金 別 全 患 者 數 (第 25 表) = 對 ス ル %	31.66	35.18	66.84	4.61	23.47	28.08			
性 別 全 患 者 數 (第 25 表) = 對 ス ル %	6.19	11.02		6.59	53.70		12.78	64.72	
總 患 者 數 1652 名 = 對 ス ル %	3.81	4.24	8.05	4.06	20.64	24.70	7.87	24.88	32.75

(チ)無所得患者數(第 28 表)。總患者 1652 名中ノ無所得者ハ 541 名 33%ニシテ、其中有料 133 名 25% (有料全患者 199 名ノ 67%)、無料 408 名 75% (無料全患者 1453 名ノ 28%) ナリ。此各ヲ更ニ性別トスレバ、有料無所得者 133 名中男 63 名 47% (無所得全患者 541 名ノ 12%、有料全患者 199 名ノ 32%)、女 70 名 53% (541 名ノ 13%、199 名ノ 35%) ニシテ 無料無所得者 408

名中ノ男ハ 67 名 16% (無所得全患者 541 名ノ 12%、無料全患者 1453 名ノ 5%)、女 341 名ノ 84% (541 名ノ 63%、1453 名ノ 23%) ナリ。又無所得者 541 名ヲ性別トスレバ(第 28 表)、男 130 名 24% (男全患者數ノ 13%)、女 411 名 76% (女全患者數ノ 65%) ナリ。即チ總患者ノ三分ノ一ハ無所得者ニシテ、此等無所得者ノ四分ノ三ハ女ナル事ヲ知り得ベシ。

第 29 表 總 患 者 ノ 所 得 額

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
患 者 數	124	75	199	893	560	1453	1017	635	1652
所 得 總 月 額 (圓)	8842,00	330,00	9172,00	31638,50	4724,00	36362,50	40480,50	5054,00	45534,50
一 人 平 均 所 得 月 額 (圓)	71,31	4,40	46,09	35,42	8,44	25,02	39,41	7,80	27,56

乙、所得額

(リ)總患者ノ所得額(第 29 表)。男女及ビ所得ノ有無ヲ論ゼズ、唯總患者ヲ合シテ求メタル平均所得額等ハ吾人ニ與フル意義極メテ乏シキモ、試ニ之ヲ擧グレバ申告セラレタル患者ノ所得總月額ハ 45534 圓 50 錢ニシテ總患者 1652 名ニ平均スレバ一人ノ所得月額ハ 27 圓 56 錢ナリ。有料患者ノミニテハ 199 名ノ所得月額合計 9172 圓、一人平均額ハ 46 圓 09 錢ニシテ、無料患者ノ 453 名ノ所得月額合計ハ 36362 圓 50 錢、一人平均ハ 25 圓 02 錢ナリ。其各ヲ男女別トスレバ有料男 71 圓 31 錢、有料女 4 圓 40 錢、無料男 35 圓 42 錢、無料女 8 圓 44 錢ナリ。之ヲ略言ス

レバ當所患者中有料男ノ所得ハ無料男ノ夫ニ二倍シ、有料女ノ所得ハ無料女ノ夫ノ半額ナリ。茲ニ擧ゲタル數字ニ就イテハ以下各項ニ記ス所ノ分類セル患者ノ所得額ヲ參照スル必要アリ、(ヌ)有所得患者ノ所得額
1. 性別(第 30 表)、患者 1652 名中所得ヲ有スル者合計 1111 名 67%ノ所得月額合計ハ 45334 圓 50 錢、一人ノ平均月收額ハ 40 圓 99 錢ナリ。此中男 887 名 80% (男全數 1017 名ノ 87%)ノ所得月額合計ハ 40480 圓 50 錢ニシテ一人平均 45 圓 64 錢、女 224 名 20% (女全數 635 名ノ 35%)ノ所得月額合計ハ 5054 圓ニシテ一人平均 22 圓 56 錢ナルヲ以テ、有所得者ノ八割ハ男、二

第 30 表 有所得患者數及其所得額

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
患 者 數	61	5	66	826	219	1045	887	224	1111
所 得 總 月 額 (圓)	8842.00	330.00	9172.00	31638.50	4724.00	36362.50	40480.50	5054.00	45534.50
一 人 平 均 所 得 月 額 (圓)	144.95	66.00	138.97	38.30	21.57	34.79	45.64	22.56	40.99

割ハ女、或ハ男患者ノ約八割七分、女患者ノ三割五分ハ所得ヲ有シ、男ノ所得ハ恰モ女ノ夫ノ二倍スルヲ見ル。此等男女ノ各ヲ有料無料別トスレバ、男ニテハ有料患者61名所得月額合計8842圓、一人平均144圓95錢、無料患者826名ノ所得月額合計31638圓50錢、一人平均月收額38圓30錢ニシテ、女ニテハ有料患者5名ノ所得月額合計330圓、一人平均月收額ハ66圓、無料患者219名ノ所得月額合計4724圓、一人平均21圓57錢ナリ。而シテ患者中最大ノ所得月額ハ有料ニテハ男患者ノ500圓、女1200圓、無

料ニテハ男ノ130圓、女ノ53圓ナリ。
 2. 料金別(第30表)、次ニ有所得者1111名ヲ料金別トセバ、有料患者66名6%(有料全患者199名ノ33%)ノ總所得月額ハ9172圓、一人平均138圓97錢、無料患者1045名94%(無料全患者1453名ノ72%)ノ總所得月額ハ36362圓50錢、一人平均34圓79錢ニシテ、有料患者ノ所得ハ無料患者ニ恰モ四倍スルヲ見ル。又上記括弧内ノ患者數ヲ見レバ有料患者ニテハ其三割三分、無料患者ニテハ其七割二分ガ有所得者ナリ。

第 31 表 總世帯及家族員ノ平均所得額

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
世 帯 數	124	75	199	893	560	1453	1017	635	1652
患者家族ノ總所得月額(圓)	27123.00	20250.00	47373.00	50430.40	30565.00	80995.40	77553.40	50815.00	128368.40
一世帯當リ平均月收額(圓)	218.73	270.00	238.06	56.49	54.58	55.74	76.26	80.24	77.70
患者ヲ含メル家族員數	592	403	995	3318	2279	5597	3910	2682	6592
家族一人當リ平均月收額(圓)	45.81	50.25	47.61	15.20	13.41	14.47	19.83	18.95	19.47

(ル)總世帯及ビ家族員ノ平均所得額(第31表)。所得調査ニ選擇セル1652名即チ1652世帯ノ總所得月額ハ128368圓40錢ニシテ一世帯當リ77圓70錢ナリ。其總家族員ハ患者ヲ合シテ6592名ナルヲ以テ一人當リ所得月額ハ19圓47錢ナリ。此中一世帯最大ノ所得月額ハ有料患者家庭ニテ1000圓、無料患者家庭ニテ180圓(發病前ノ所得額ニシテ患者入所時ニハ此所得ナシ)、最低ノ所得ハ有料患者ニテ5圓(他人ヨリ入所料ノ支給ヲ受クル者ナリ)、無料患者ニテ

3圓ナリ。又患者個人ノ最高所得月額ハ有料患者ニテ500圓、無料患者ニテ130圓、最低所得ハ有料無料共ニ無所得者ナリ。

(ヲ)料金別世帯所得額(第31表)

有料患者199名ノ全家族總所得月額ハ47373圓一世帯當リ238圓06錢、又無料患者1453世帯ノ總所得月額ハ80995圓40錢、一世帯平均55圓74錢ニシテ、前者ハ正ニ後者ニ四倍ス。此等ノ世帯ヲ患者ノ性別ニ從ツテ分テバ、有料男124名ノ一世帯平均所得ハ218圓73錢、有料女

75 名ノ夫ハ 270 圓トナリ、兩者ノ間ニ稍々著シキ差ヲ見ルハ奇ナリト言フベシ。恐ラクハ女ガ家庭外ニテ療養シ得ル爲ニハ收入上可ナリノ餘裕ヲ有セザルベカラザルモ、男ノ場合ニハ入所費ヲ辨ジ得ル最低限度ノ所得ヲ有スル家庭ヨリモ、猶患者ヲ入所セシムル者ト解スベク、即チ男子尊重ノ意義ヲ有スルガ如シ、之ニ反シ無料患者ニテハ男患者 893 名ノ一世帯平均所得ハ 56 圓 49 錢、女 560 名ノ夫ハ 54 圓 58 錢ニシテ、患者ノ性別トセル兩世帯ノ所得ガ殆ト同ジキハ上記有料患者ニ於ケル兩者ノ差ノ著シキニ比シテ甚シク相違スル處ナリ。

以上ノ如キ世帯收入上ノ差ハ之ヲ亦家族一人當リ上ニ見ルヲ得ベク、有料患者ノ總家族員 995 名ハ一人當リ約 47 圓 61 錢、無料患者ノ總家族員 5597 名ノ一人當リ所得額ハ 14 圓 47 錢トナリ、前者ハ後者ノ三倍強ナリ。前述ノ如ク世帯所得トシテハ有料患者ハ無料患者ニ四倍スレドモ家族一人當リトシテハ三倍ニ止マルハ、一ニ有料患者ノ家族員ガ無料患者ノ家族員數ヨリ大ナルガ爲ニシテ、其原因ハ出産數ヨリモ死亡數ニ因スルヲ以テ有料患者家庭ノ幸福ヲ想ハザルヲ得ズ。

(ワ) 有所得患者ノ所得額ト其世帯所得額トノ比

第 32 表 有所得患者ノ所得額ト其世帯所得額トノ比

料 金 別 性	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
有 所 得 者 數	61	5	66	826	219	1045	887	224	1111
有 所 得 者 ノ 所 得 月 額 合 計 (圓)	8842, 00	330, 00	9172, 00	31638, 50	4724, 00	36362, 50	40480, 50	5054, 00	45534, 50
有 所 得 者 一 人 平 均 所 得 額 (圓)	144, 95	66, 00	138, 97	38, 30	21, 57	34, 79	45, 64	22, 56	40, 99
上 記 有 所 得 者 ノ 世 帯 總 所 得 額 (圓)	11058, 00	845, 00	11903, 00	46346, 40	10822, 00	57168, 40	57404, 40	11667, 00	69071, 40
一 世 帯 平 均 所 得 額 (圓)	181, 28	169, 00	180, 35	55, 11	49, 42	54, 71	64, 72	52, 08	62, 17
世 帯 所 得 額 ニ 對 ス ル 有 所 得 患 者 ノ 所 得 額 ノ %	79.96	39.05	77.06	68.27	34.65	63.58	70.52	43.32	65.92

(第 32 表)。上記有所得患者 1111 名ノ總所得月額 45534 圓 50 錢ハ、其世帯所得月額合計 69071 圓 40 錢ノ 66%ニ相當スルヲ以テ、若シカハ所得者ガ發病スレバ其世帯ノ生計ガ直ニ窮迫スベキハ勿論ト言フベク、茲ニ結核豫防問題トシテ、患者ノ救療ハ常ニ其家族ノ生計支持ヲ考慮セザルベカラザル必要ヲ見ル。

患者所得ト其世帯所得トノ關係ニ就テ、男女別料金別等ノ詳細ナル比較ハ第 32 表ニアリ。

(カ) 患者以外ノ家族員ノ所得額(第 33 表)。全患者 1652 名中 1088 名 66%ノ各世帯ニテハ患者以外ノ家族員ガ所得ヲ有シ、此等患者以外ノ有所得家族員ノ所得總月額ハ 82833 圓 90 錢ニシテ、一戸當リ 76 圓 13 錢ナリ。而シテ此 1088 世

帯ノ總家族員ハ患者ヲ合シテ 4992 名ナルヲ以テ、家族一人當リ 16 圓 59 錢ナリ。

上記一戸平均ハ男患者ノミノ世帯ニテハ 71 圓 02 錢、女患者ノ世帯ニテハ 80 圓 85 錢ナリ。又有料無料別トセバ有料患者家庭ニテハ一戸當リ所得月額ハ 251 圓 32 錢、無料患者家庭ニテハ 47 圓 68 錢ナリ。此兩者ヲ更ニ男女別ニ所得月額ヲ見レバ、有料男患者ニ屬スル世帯ノ一戸當リ 231 圓 41 錢、有料女患者ノ世帯ニテ 272 圓 88 錢、又無料男患者ノ世帯ニテ 42 圓 42 錢、無料女患者ノ世帯ニテ 52 圓 42 錢ニシテ、有料無料共ニ女患者ノ家庭ニ於ケル患者以外ノ家族員ノ所得額大ナルハ、其等女患者ガ一世帯内ノ主ナル所得者ナラザル事ヲ語ル者ナリ。

第 33 表 患者以外ノ家族員ニ有所得者アル世帯數及其所得額

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	79	73	152	443	493	936	522	566	1088
其家族總數(患者ヲ含ム)	438	397	835	2011	2146	4157	2449	2543	4992
患者以外ノ家族員ノ所得總月額(圓)	18281,00	19920,00	38201,00	18791,90	25841,00	44632,90	37072,90	45761,00	82833,90
一世帯當リ平均所得月額(圓)	231,41	272,88	251,32	42,42	52,42	47,68	71,02	80,85	76,13
家族一人當リ平均所得月額(圓)	11,74	50,18	45,75	9,35	12,01	10,73	15,14	18,00	16,59

第 34 表 家族中患者ガ唯一ノ有所得者ナル世帯數及ビ其所得額

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	45	2	47	450	67	517	495	69	564
家族員總數(患者ヲ含ム)	154	6	160	1307	133	1440	1461	139	1600
所得總額(圓)	8255,00	205,00	8460,00	20324,00	1687,00	22011,00	28579,00	1892,00	30471,00
一世帯當リ平均所得月額(圓)	183,67	102,50	180,00	45,16	25,19	42,57	57,73	27,55	54,03
家族一人當リ平均所得月額(圓)	53,60	34,17	52,88	15,55	12,68	15,28	19,56	13,61	19,04

(ヨ) 患者ガ唯一ノ有所得者タル世帯ノ所得額(第 34 表)。總患者 1652 名、即チ 1652 世帯中患者ガ唯一ノ有所得者ナル世帯ハ 564 世帯 34%、其家族總數ハ患者共ニ 1600 名ニシテ、其所得總月額ハ 80471 圓ナリ。即チ一世帯當リ 54 圓 03 錢、家族一人當リ 19 圓 04 錢ナリ。之ヲ患者ノ性別トスレバ 564 世帯中男患者 495 名 88%ノ世帯所得總月額ハ 28579 圓、總家族員數ハ 1461 名ナルヲ以テ、一世帯當リ 57 圓 73 錢、家族一人當リ 19 圓 56 錢ナリ。又女患者 69 名 12%ノ其所得總月額ハ 1892 圓、其家族員總數 139 名ナルヲ以テ、一世帯當リ 27 圓 55 錢、家族一人當リ 13 圓 61 錢ナリ。

又上記 564 名ヲ料金別ニ見レバ、有料患者 47 名 8% (有料全患者 199 名ノ 24%)ノ總所得額ハ 8460 圓、其家族員總數 160 名ナルヲ以テ一世帯當リ 180 圓、家族一人當リ 52 圓 88 錢ニシテ、

無料患者ハ 517 名 92% (無料全患者 1453 名ノ 36%)ノ所得總月額ハ 22011 圓、其家族員總數ハ 1440 名ナルヲ以テ一世帯當リ 42 圓 57 錢、家族一人當リ 15 圓 28 錢ナリ。

(タ) 患者並ビニ家族員ガ共ニ所得ヲ有スル世帯ノ所得額(第 35 表)(ハ)項ニ記セル 547 世帯ニ就テ各世帯ノ所得ヲ見ルニ、有料患者 19 世帯ノ平均所得月額ハ 181 圓 21 錢、其總家族員 117 名ニ就テ一人當リ 29 圓 42 錢ニシテ、無料患者 528 世帯ノ平均所得月額ハ 66 圓 58 錢、其總家族員 2359 名ノ所得月額ハ一人當リ 14 圓 92 錢ナリ。

(レ) 無所得患者ノ世帯(第 36 表)。全患者 1652 名中 541 名 32%ハ所得ヲ有セザルモ、其世帯調査ヲ行ヘバ次ノ如キ所得アリ。即チ一戸當リ及ビ家族員一人當リノ平均所得月額ハ、有料ニテ夫々 266 圓 68 錢及ビ 29 圓 40 錢ニシテ、無料ニテ夫々 58 圓 39 錢及ビ 13 圓 25 錢ナリ、之ヲ

第 35 表 患者並ニ其家族員ガ共ニ所得アル世帯數及ビ其所得額

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	16	3	19	376	152	528	392	155	547
家族員總數 (患者ヲ含ム)	103	14	117	1686	673	2359	1789	687	2476
所得總月額(圓)	2803,00	640,00	3443,00	26022,40	9135,00	35157,40	28825,40	9775,00	38600,40
一世帯當リ平均所得月額(圓)	175,19	213,33	181,21	69,21	60,10	66,58	73,53	63,06	70,56
家族一人當リ平均所得月額(圓)	27,21	45,71	29,42	15,43	13,57	14,92	16,11	14,23	15,59

第 36 表 無所得患者ノ世帯數及ビ其所得額

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
數	63	70	133	67	341	408	130	411	541
家族員總數 (患者ヲ含ム)	335	383	718	325	1473	1798	660	1856	2516
所得總月額(圓)	16065,00	19405,00	35470,00	4084,00	19743,00	23827,00	20149,00	39148,00	59297,00
一世帯當リ平均所得月額(圓)	255,00	277,93	266,68	60,96	57,90	58,39	154,99	95,25	109,61
家族一人當リ平均所得月額(圓)	47,96	56,67	49,40	12,57	13,40	13,25	30,53	21,09	23,57

性別トスル時ハ有料男一テ 255 圓及ビ 47 圓 96 錢、有料女一テ 277 圓 93 錢及ビ 56 圓 67 錢ニシテ、無料男一テ 60 圓 96 錢及ビ 12 圓 57 錢、無料女 57 圓 90 錢及ビ 13 圓 40 錢ナリ。

(ソ)年齢別患者所得状態

1. 人數。患者ヲ年齢ニヨリ高等小學校卒業ヲ標準トセル 17 歳未満ノ者 129 名 7.8%、18 歳以上徴兵適齡 (女子ニテハ結婚適齡) 21 歳迄ノ者 355 名 21.5% 及ビ 22 歳乃至 59 歳ノ者 1161 名 70.3% 及ビ 60 歳以上ノ者 7 名 0.4% ノ四階段ニ分ル患者ノ所得状態ハ第 37 表乃至 39 表ニ示セルガ如シ。

a (第 37 表)。17 歳未満ノ者 129 名中男 45 名 35%、女 84 名 65% アリテ總患者 1652 名中男女比ト正ニ逆ナリ。而シテ男 45 名中有所得者 14 名 31%、無所得者 31 名 69% ニシテ有所得者 14 名ハ全部無料患者ナレドモ無所得者 31 名中

ニハ有料患者 8 名 26%、無料患者 23 名 74% アリ。次ニ女 84 名中有所得者 27 名 32%、無所得者 57 名 68% アリテ、有所得者 27 名ハ全部無料患者ナルハ男子ト同ジク、無所得者 57 名ハ有料 7 名 12%、無料 50 名 88% ナリ。之ヨリ見レバ此年齢界一テハ男女ノ有所得者率ハ殆ト相同ジキ事ヲ知り得ベシ。

所得有無ノミニ就テ言ヘバ (第 37 表)、全患者 129 名中有所得者 41 名 32%、無所得者 88 名 68% ナルガ故ニ弱年者ニテハ無料階級ニテモ男女共ニ僅ニ其三分ノ一ガ勞役スルノミ一シテ三分ノ二ハ猶勞役セズ。又有料階級ニテハ此年齢界ノ者ハ勞役シテ所得ヲ有スル者皆無ナル事ヲ知り得ベシ。

b (第 38 表)。18 歳以上 21 歳迄ノ者 355 名中男 215 名 61%、女 140 名 39% アリテ、此年齢界ニ至レバ全患者中ノ男女比ト殆ト同率トナル

第37表 17歳未満患者ノ所得有無別數

種 項 別	男						女						合 計								
	有所得		無所得		再計		有所得		無所得		再計		有所得		無所得		再計				
	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料			
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		
數	0	14	14	8	23	31	45	0	27	27	7	50	57	84	0	41	41	15	73	88	129
所得有無別性別患者數ニ對スル%	0	100.00	100.00	25.81	74.19	100.00	100.00	0	100.00	100.00	12.29	87.72	100.00	100.00	0	100.00	100.00	17.04	82.96	100.00	100.00
性別再計ニ對スル%	0	31.11	31.11	17.78	51.11	68.88	100.00	0	32.14	32.14	8.34	59.59	67.86	100.00	0						
合計ニ對スル%	0	10.85	10.85	6.29	17.83	24.03	34.88	0	20.93	20.93	5.43	38.76	44.19	65.12	0	31.76	31.76	11.63	56.56	69.29	100.00
總患者數1652名ニ對スル%	0	0.85	0.85	0.48	1.38	1.88	2.73	0	1.63	1.63	0.42	3.06	3.45	5.08	0	2.48	2.48	0.81	4.44	5.33	7.81

第38表 18歳乃至21歳患者ノ所得有無別數

種 項 別	男						女						合 計								
	有所得		無所得		再計		有所得		無所得		再計		有所得		無所得		再計				
	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料			
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		
數	3	159	162	27	26	53	215	1	66	67	16	57	73	140	4	225	229	43	83	126	355
所得有無別性別患者數ニ對スル%	1.85	98.15	100.00	50.94	49.06	100.00	100.00	1.49	88.51	100.00	21.82	78.08	100.00	100.00	1.75	88.25	100.00	34.13	65.87	100.00	100.00
性別再計ニ對スル%	1.40	73.95	75.35	12.56	12.08	24.05	100.00	0.72	47.14	47.86	11.43	40.71	52.14	100.00							
合計ニ對スル%	0.84	44.78	45.63	7.61	7.82	14.83	60.56	0.28	14.59	15.87	4.51	16.06	20.57	39.44	1.12	63.38	64.50	12.12	23.38	35.50	100.00
總患者數1652名ニ對スル%	0.18	9.64	9.80	1.64	1.57	3.21	13.01	0.06	4.00	4.06	0.57	3.45	4.42	8.43	0.24	13.62	13.86	2.61	5.02	7.63	21.49

第39表 22歳乃至59歳患者ノ所得有無別數

種 項 別	男						女						合 計								
	有所得		無所得		再計		有所得		無所得		再計		有所得		無所得		再計				
	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料	有 料	無 料			
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		
數	57	651	708	28	17	45	758	4	126	130	47	281	278	408	61	777	838	75	248	323	1161
所得有無別性別患者數ニ對スル%	8.05	91.95	100.00	63.22	36.78	100.00	100.00	3.08	96.92	100.00	16.91	83.09	100.00	100.00	7.28	82.72	100.00	28.22	71.78	100.00	100.00
性別再計ニ對スル%	7.57	86.45	84.02	3.72	2.36	5.88	100.00	0.98	30.88	31.86	11.52	56.62	65.11	100.00							
合計ニ對スル%	4.91	58.07	60.98	2.91	1.17	3.88	61.86	0.34	10.85	11.19	1.05	19.50	23.95	35.14	5.25	66.92	72.17	6.46	21.37	25.83	100.00
總患者數1652名ニ對スル%	3.15	39.31	42.86	1.69	1.08	2.72	45.38	0.24	7.63	7.97	0.67	13.88	16.83	24.70	3.69	47.04	50.13	4.54	15.01	19.55	70.28

點ハ17歳未満ノ者ト異ナル處ナリ。而シテ男215名中有所得者162名75%、無所得者53名25%アリテ、有所得者ハ有料3名2%、無料159名98%ニシテ、無所得者ハ有料27名51%、無料26名49%ナリ。又女140名中有所得者67名48%、無所得者73名52%アリテ、有所得者ハ有料1名1%、無料66名99%ニシテ、無所得者ハ有料16名22%、無料57名78%ナリ。即チ此年齢界ニ至レバ男女兩群中ノ各有所得者ノ比75%及ビ48%ハ約3:2トナリテ男子ノ有所得者ハ女子ヨリ増加スルノミナラズ、前年齢界ニ於ケル男子ノ有所得者率31%ニ對シテ、此處ニテハ75%ヲ示スニ至レルハ此年齢界ニ於ケル男子ノ就職率ハ急激増加ヲ語ル者ナリ。又有料階級ニテモ男2%、女1%ノ有所得者ヲ見ルニ至ルハ就職者ヲ生ズルガ爲ナリ。

所得有無ノミニ就イテ言ヘバ(第38表)、全患者355名中有所得者229名65%、無所得者126名35%トナリ、此年齢界ノ者ノ三分ノ二ハ就職者トナレル點ハ前年齢界ト甚ク異ナル點ナリ。

c(第39表)。22歳乃至59歳ノ者1161名ハ男753名65%、女408名35%ニシテ、總患者中

ノ男女數ノ比ト甚似タルモ男ノ數稍々多シ。男753名ハ有所得者708名94%、無所得者45名6%ニシテ、有所得者中ノ有料患者ハ57名8%、無料患者651名92%、無所得者中ノ有料ハ28名62%、無料17名38%ナリ。女408名ハ有所得者130名32%、無所得者278名68%ニシテ、有所得者中有料4名3%、無料126名97%、無所得者中有料47名17%、無料231名83%ナリ。

所得有無ノミニ就テハ(第39表)、全患者1161名中有所得者838名72%、無所得者323名28%ナリ。

之ヨリ見レバ當所ノ患者ニシテ丁年以上ノ者ノ中、男子ノ94%即チ殆ド全部ハ職業ヲ有シテ有所得者タルモ、女子ハ32%即チ三分ノ一ノミガ有所得者ナリ。之ヲ丁年以下ノ患者ニ比スレバ甚ク相違ト言ハザルベカラズ。又此等丁年以上ノ有所得者ノ大部分ハ無料患者ニシテ有料患者ノ數少ナク、總患者中ノ有料無料患者數ノ比ヨリ遙カニ低キハ有料患者中ニ多數ノ男學生及ビ妻タル者ヲ含ムガ爲ナリ。

d、60歳以上ノ者ハ男3名女4名7計名ニシテ少數ナルヲ以テ茲ニ統計的ニ言及セズ。

第 40 表 年齢別有所得患者數及其所得額

料 金 別	有 料			無 料			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
17歳未満	0	0	0	14	27	41	14	27	41
其所得總月額(圓)	0	0	0	202,00	327,00	529,00	202,00	327,00	529,00
一人平均所得月額(圓)	0	0	0	14,42	12,11	12,90	14,42	12,11	12,90
18至21歳	3	1	4	159	66	225	162	67	229
其所得總月額(圓)	109,00	30,00	139,00	3073,50	1333,00	4406,50	3182,50	1363,00	4545,50
一人平均所得月額(圓)	63,33	30,00	34,75	19,33	20,19	19,58	19,64	20,34	19,84
22至59歳	57	4	61	651	126	777	708	130	838
其所得總月額(圓)	8718,00	300,00	9018,00	28263,00	3064,00	31327,00	36981,00	3364,00	40345,00
一人平均所得月額(圓)	152,94	75,00	147,83	43,41	24,31	41,18	52,23	25,87	48,14

2. 所得額(第40表)。上記年齢別ニヨル患者ノ所得額ハ次ノ如シ。

17歳未満ニシテ所得ヲ有スル者ノミノ一人平均所得月額ハ12圓90銭ニシテ、男ノミニテハ

14圓42銭、女ノミニテハ12圓11銭ナリ。

又18歳乃至21歳間ニテハ所得ヲ有スル者ノミノ一人平均所得月額ハ19圓84銭ニシテ男ノミニテハ19圓64銭、女ノミニテハ20圓34銭ト

ナリ、女ノ所得額が比較的一大ナルハ此年齢界ニ於ケル勤勞者トシテハ女子ノ社會的需要が大ナルトテ語ル者ナリ。又是等患者ヲ有料無料別ニ見レバ有料患者ノ所得平均ハ34圓57錢、無料患者ハ19圓58錢ナルヲ以テ、有料階級ノ子弟ノ多クハ中等學校卒業生ナリトテ言フ學歷が其所得ニ重大ナル關係アルヲ察セザルベカラズ。

次ニ22歳乃至59歳ノ者ノ一人平均所得月額ハ48圓14錢トナリ、男ノミニテハ52圓23錢、女ノミニテハ25圓87錢トナリ、此年齢界ニテハ男子ノ所得が女ニ二倍スルニ至ルハ一家生計ノ支持者トシテ當然ト言フベシ。又患者ヲ有料無料別トスレバ有料患者一人當り平均所得月額ハ147圓83錢、無料患者ノ人ハ41圓18錢ニシテ、前者ハ正ニ後者ニ約四倍スルヲ以テ兩者生計ノ間ニ著シキ差異ヲ生ズルハ當然ト言フベシ。

第 41 表 患者住宅ノ疊數

料 金 別	有 料	無 料	合 計
患 者 數	242	1781	2023
疊 總 數	6713	20695	27408
一世當疊數	28	11.5	13.5
家族員總數	1350	7752	9102
一家族當疊數	5	2.7	3

二、疊數(第 41 表)

患者住宅ノ採光通風等ニ關スル問題モ亦余ノ興味ヲ引クモノナレドモ、患者ノ多クハ轉々トシテ借家ヲ變ズルヲ以テ發病前ノ住居調査ハ容易ナラザルヲ以テ凡テ之ヲ棄テ、茲ニハ單ニ入所申込時ノ住居内疊數ノ調査ノミヲ擧グルニ止メタリ。蓋シ患者ノ生計調査トシテ一人當リノ疊數ハ其家庭ノ收入ニ對スル支出ヲ如實ニ語ル者トシテ生計調査上極メテ重要ナル基本資料ナリ。本調査ノ性質上奉公人ノ如キハ略スベキモノナルヲ以テ總患者2815名中ヨリ資料ニ適スル2023名ヲ選ビタリ。

患者2023名ニ伴フ總家族員數ハ患者ト共ニ9102名ニシテ、其等ノ有スル住宅内ノ總疊數ハ

27408枚ナルヲ以テ、一戸當り18.5枚、或ハ總家族員一人當り約3枚ナリ。之ヲ有料患者ト無料患者トニ區別スレバ、前者242名ノ總疊數ハ6713枚ニシテ一戸當り28枚、一人當り5枚トナルモ、後者1781名ノ總疊數ハ20695枚ニシテ一戸當り11.5枚一人當り2.7枚ナリ。

茲ニ參考資料ヲ擧ゲシニ、昭和七年京都府ノ調査⁽⁴⁾ニヨレバ方面「カード」第二種ニ準ズル世帯即チ1ヶ月ノ生計費45圓以下ノ8046世帯ノ平均疊數ハ一世界當り8.31枚一人當り1.84枚ニシテ、大正十年内務省社會局ノ細民生計狀態調査⁽⁷⁾ニテハ一戸當り4.5枚一人當り1.0枚、又大正十五年東京府都部不良住宅地區調査概況⁽¹⁵⁾ニヨレバ一戸當り6.4枚一人當り1.55枚、或ハ昭和七年東京市不良住宅地區調査⁽¹⁶⁾ノ一戸當り7.8枚一人當り1.66枚等ナリ。是等ニ比スレバ當所無料患者ハ一般ニ其住宅廣ク且ツ前述ノ如キ所得ヲ有スルトセバ、當所ノ患者ヲ社會ノ最下層階級者ト見做シ得ザルガ如ク、一面ニ於テハ當然存スベキ最下層階級ヘハ結核教育ガ普及セザルガ爲ニ此階級者ニシテ當所ヲ利用スル者少シト斷ゼザル能ハズ。只當所患者中一モ一人當リノ疊數一枚ニ足ラザル者モ多キ事ヲ附記セントス。

第五節 患者ノ轉歸(第 42 表)

茲ニ患者ノ轉歸ニ關スル事項ヲ擧グルニ先ダチテ入所時ニ於ケル病期分類別患者數ニ言及スルヲ可トスルモ、之ハ主トシテ診療上ノ必要事項トナルヲ以テ茲ニハ煩ヲ避ケ只其概略ヲ述ベン、通常財界好況ナレバ入所患者ノ四分ノ一、財界不況ナレバ五分ノ一ガ眞ノ輕症者ニシテ、其他ハ凡テ重症即チ治癒ノ見込無キ者ト言ヒ得ベシ。此等ノ中多少趣ヲ異ニスル者ハ料金高キ有料患者ノ大多數ハ輕症者若クハ慢性結核發生初期ノ者ニシテ其等ノ治癒率ハ甚ダ高キモ、最低料金ノ有料患者ノ殆ト全部ハ最重症者ノミニシテ輕症者ハ殆ト無シ。如上ノ入所患者ノ轉歸ハ次ニ記スガ如シ。

十五年間ニ亙ル總患者2614名ノ轉歸ヲ簡述ス

第 42 表 患者ノ轉歸

		數	計ニ對スル%	性別患者數ニ對スル%	總患者數ニ對スル%	
全 治	性	男	36	70.59	2.23	1.38
		女	15	29.41	1.50	0.57
		計	51	100.00		1.95
	在所日數	最 長	1371			
		最 短	45			
計		16919				
	一人平均	331				
輕 快	性	男	443	64.02	27.47	16.95
		女	249	35.98	24.88	9.53
		計	692	100.00		26.48
	在所日數	最 長	2638			
		最 短	4			
計		273395				
	一人平均	395				
事 故	性	男	204	63.75	12.65	7.80
		女	116	36.25	11.58	4.43
		計	320	100.00		12.23
	在所日數	最 長	1329			
		最 短	1			
計		51202				
	一人平均	160				
死 亡	性	男	930	59.96	57.65	35.58
		女	621	40.04	62.04	23.76
		計	1551	100.00		59.34
	在所日數	最 長	2540			
		最 短	1			
計		322143				
	一人平均	206				
合 計	性	男	1613	61.71	100.00	61.71
		女	1001	38.29	100.00	38.29
		計	2614	100.00		100.00
	在所日數	最 長	2638			
		最 短	1			
計		663659				
	一人平均	253				

レバ全快 51 名 2%、輕快 692 名 26%、事故退所 320 名 12%、及ビ死亡 1551 名 59%ナリ。茲ニ全治ト稱スルハ X 線寫眞像上初感染病竈ノミヲ有スル者ガ短期間ノ療養後全治セルカ若クハ片側肺ニ活動性病竈ヲ有シタル者ヲ人工氣胸其他ノ療法ニヨリ治癒セル者ノミヲ言ヒ其數極メテ少シ。輕快ト稱スルハ殆ド全治ニ準ズルモ

猶直ニ勞働ニ従事シ難キ者ヲ言ヒ、事故退所ノ大多數ハ家庭事情殊ニ家庭ノ悲事若クハ自家營業上ノ都合ニ由リ退所セル者ニシテ其殆ド全部ノ患者ハ停止期ニ在ル者ナリ。

次ニ患者ノ在所日數中ノ輕快患者ノ一人ニ在所日數 4 日ノ者一名ヲ含ムハ、其患者ノ肺所見ガ極メテ輕微ニシテ其當時其患者ニ適合スル病床無

カリシ爲ニ退所セシメタル者ナリ。又事故退所者中ニ在所日數一日ナル者一名ヲ含ムハ、一大學生ガ當所ヲ一ツノ樂園ト誤解シテ入所シタルモ重症者ノ多キニ驚キテ直ニ退所セル爲ナリ。此等二三ノ異例ヲ合シテ總患者ノ在所日數ヲ平均スレバ一人 253 日ナリ。又死亡者總數 1551 人ノ在所平均日數ガ 206 日、治癒患者 743 人ノ夫ハ 363 日ニシテ後者ハ前者ニ二倍ス。即チ此等ノ數字ヨリ見レバ重症患者ト雖モ入所後猶半年餘ヲ生存シ得、輕症者ト雖モ治癒スルニハ平均約一ケ年ノ安靜療養ヲ要スル事ヲ語ル者ト言フベシ。

凡ソ勞働階級ニ於ケル結核患者ハ高熱、頻咳、激痛、喀血等ノ自覺的苦痛ヲ感ジ勞働不可能トナルニ至リ始メテ當所ヘ入所ヲ申込ムモ、申込後數ヶ月ヲ經ザレバ收容セラレザルヲ以テ其間ニ病勢ヲ甚シク増悪セシムガ故ニ、結核治療ノ眞目的ヲ達センガ爲ニハ診療以外ニ先ヅ此等無教育者階級ニ結核ノ初期症候ニ關スル智識ヲ充分ニ與ヘテ自戒心ヲ養成スベキ必要ヲ感ゼザル能ハズ。

又本項ニ關スル參照事項トシテ下記ハ注目スベキモノナランカ。

即チ昭和八年ニ於ケル京都市ノ人口ハ 1026900 名ニシテ同年ノ結核死亡者ハ 2209 人ナリ。昔時結核診斷學ノ猶幼稚ナリシ時代ニ獨逸ノ小村ニテ調査セル處ニヨレバ、醫治ヲ蒙ル結核患者ハ結核死亡者ノ約十倍ナリト言フ報告ニ倣ツテ今當市ノ結核患者ヲ上記ノ結核死亡者數ヨリ推算スレバ約 22000 人ナリ。

醫業ノ實際ニ於テハ醫治ヲ必要トセザル結核患者ガ治療セラル、ト同時ニ、最下階級ニテハ醫治ヲ必要トスル患者ガ醫治ヲ蒙ラザル者多キハ察シラル、處ナルヲ以テ彼此相殺シ得タリトシテ市内ノ結核患者ヲ推算スルニ、京都市内ノ開業醫 870 人中内科及小兒科醫タル者 586 人アリテ、此等ガ上記ノ推定患者 22000 人ヲ診療スル者ト假定スレバ一醫平均 37 人ノ患者ヲ治療セザルベカラズ。此等結核患者ノ平均經過ヲ一年ト想定スレバ患者ガ一年間隔日ニ醫師ヲ訪ヘバ一醫ハ毎日結核患者ノミテ 19 人治療セザルベカラズ、或ハ極メテ實際ニ近キ數字ナランカ。

第六節 參考諸表

1. 昭和八年ニ於ケル本邦ノ結核死亡數ハ内閣統計局ノ調査⁽¹⁾ニヨレバ第 43 表ニ示スガ如ク呼吸器結核 93640 名其他ノ結核 33063 名合計約 127000 人ナリ。
2. 昭和七年内務省ノ調査⁽¹⁷⁾ニ依レバ結核患者ニ使用セラル、病床ハ第 44 表ニ示スガ如ク、公私立合シテ 7557 床ニシテ昭和八年全國ノ結核死亡者 126703 名ノ約 6%ニ過ギズ。
3. 第 45 表ノ如ク、六大都市ノ結核死亡者數ヲ人口ニ對スル比率トシテ五ケ年ニ互リテ比較シ、大ナル者ヨリ記セバ神戸、大阪、横濱、京都、東京、名古屋ノ順位トナリ京都市ハ第四位ナリ。
4. 世界各國ノ結核死亡率ハ第 46 表ノ如ク強國中ニテハ本邦ガ最高率ヲ示スハ遺憾ト言フベシ。是實ニ國富ノ相違ノミニ歸スル能ハザルベシ。

第 43 表 原因別死亡(昭和 8 年)

種 別 項	總 數			呼吸器ノ結核			其ノ他ノ結核			
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	
全 國	實 數	1193987	618496	575491	93640	50222	43418	33063	14381	18682
	各性人口千ニ付	17.76	18.30	17.21	1.39	1.46	1.30	0.49	0.43	0.56
十萬以上ノ市	實 數	238011	126337	111674	29444	16401	13043	9546	4275	5271
	各性人口千ニ付	15.35	15.57	15.10	1.90	2.02	1.76	0.62	0.53	0.71
京 都	實 數	15713	8146	7567	1722			587		
	各性人口千ニ付	15.31	15.29	15.32	1.68			0.57		

第 44 表 結核患者收容病院數及病床數

年次(昭和)	病 院 數				收 容 定 員 數				
	4 年	5 年	6 年	7 年	4 年	5 年	6 年	7 年	
公 立 病 院	80	82	82	87	208	223	256	266	
私 立 病 院	公益法人經營	40	38	43	49	141	146	142	240
	外 人 經 營	9	9	10	10	12	10	10	10
	其ノ他	1930	1986	2060	2292	1092	1183	1276	1364
結 核 病 院	51	54	61	69	4180	4412	4821	5677	
總 計	2110	2169	2256	2507	5633	5974	6505	7557	

第 45 表 六大都市ニ於ケル結核死亡(昭和2年—6年)

市 名	年次(昭和)	總死亡數	肺 結 核 死 亡			肺結核以外ノ結核死亡	
			實 數	總 死 亡 百ニ付	人 口 一 萬ニ付	實 數	總 死 亡 百ニ付
東 京	2	30540人	3222	10.55	15.03	1025	3.36
	4	31007	3233	10.34	10.09	1319	4.25
	5	27350	3312	12.11	16.00	1208	4.42
	6	30576	3332	10.90	15.98	1914	6.26
大 阪	2	43559	4697	10.78	20.78	1745	4.01
	3	41708	4886	11.71	20.94	1843	4.42
	4	45954	4986	10.85	20.70	3199	6.96
	5	41041	4921	11.99	20.06	1924	4.69
京 都	6	46113	5235	11.35	20.78	1827	3.96
	2	13024	1342	10.30	18.71	619	4.75
	3	12802	1182	9.23	16.06	526	4.11
	4	12800	1178	9.20	15.60	456	3.56
名 古 屋	5	12726	1259	9.89	16.45	409	3.21
	6	15975	1452	9.09	14.86	526	3.29
	2	16320	1133	6.94	13.56	150	0.92
	3	17199	1171	6.81	13.46	244	1.42
神 戶	4	16708	1164	6.97	12.87	150	0.90
	5	14685	1174	7.99	12.94	173	1.18
	6	16463	1225	7.44	13.11	272	1.65
	2	12923	1487	11.51	22.56	597	4.62
横 濱	3	12988	1454	11.19	21.81	543	4.18
	4	13124	1676	12.77	22.19		
	5	14212	1724	12.13	21.89	622	4.28
	6	13313	1797	13.50	22.36	617	4.63
横 濱	2	9494	942	9.92	17.80	285	3.00
	3	10119	982	9.70	18.30	280	2.56
	4	12117	1162	9.59	21.36	326	2.69
	5	9986	1055	10.56	17.01	418	4.18
6	10993	1082	9.84	16.89	465	4.23	

第 46 表 各國ニ於ケル結核死亡率

國名	調査年號	人口一萬ニ對スル死亡率		
		呼吸器ノ結核	其ノ他ノ結核	全疾患
獨逸	1932	6.3	1.3	107.8
フィンランド	1930	20.4	3.4	131.2
佛蘭西	1931	13.2	2.0	164.0
英國	1932	6.8	1.6	122.0
伊太利	1931	8.0	2.8	147.7
智利	1933	23.1	2.9	269.9
日本	1931	13.6	5.0	189.8
亞米利加合衆國	1931	6.1	0.8	110.8

第七節 要綱

大正 9 年 6 月ヨリ昭和 10 年 6 月ニ至ル 15 年間ニ京都市立宇多野療養所へ入所セル患者中申告ノ信憑スベキ者 2815 名ニ就キ種々ノ項目ヲ統計ニ調査シタル結果ハ次ノ如シ。

1. 總患者 2815 名ハ男 1762 名 63%、女 1053 名 37%ナリ。又總患者ヲ料金別トスレバ有料患者 288 名 10%、無料患者 2527 名 90%ナリ。
2. 總患者中ノ最高年齢ハ男女共ニ 63 歳、最低年齢ハ男 10 歳、女 9 歳ニシテ其等ノ平均年齢ハ男 27 歳、女 26 歳ナリ。
3. 總患者ヲ 10 歳毎ノ年齢界ニ分ツ時ハ、21 歳乃至 30 歳ノ者最モ多クシテ患者ノ 49%、次イデ 11—20 歳ノ者 26%ニシテ、最モ少キハ 10 歳以下 0.1%ナリ。30 歳以上ニテハ年齢ノ増加ト共ニ患者數ヲ漸減ス。
4. 性別及ビ年齢別トセル患者數ヲ百分比ノ曲線トシテ罹患率ヲ比較スルニ、男女共ニ 20 歳前後ニ最モ多ク、其前後ニ少ク男女ノ曲線ハ殆ド同一ナリ。
5. 總患者ハ未婚者 65%、既婚者 35%ニシテ、各ヲ更ニ性別トスル時ハ未婚者中男 69%、女 31%即チ約 2:1 ノ比ナルモ、既婚者ニテハ男 51%、女 49%ニシテ其比ハ約 1:1 ナリ。而シテ此等ノ平均年齢ハ未婚男 23 歳、未婚女 23 歳、既婚男 38 歳、既婚女 33 歳ニシテ、既婚者中子ヲ有スル者ノ平均年齢ハ男 38 歳、女 32 歳ナリ。

6. 患者ヲ料金別未既婚別性別的ニ分チテ比率トスルニ、有料未婚男ノ最高ナルハ多數ノ學徒ガ含ム爲ニシテ、未婚女ニテ無料ノ率ガ有料ヨリ高キハ若年ナル彼等ノ中ニ勞役ニ從フ者多キガ爲ナリ。

7. 職業分類的ニ患者ヲ見レバ「其他ノ無業者」最モ多ク 28%ヲ算スルハ、當所ノ患者中家庭ノ主婦及ビ木工年ノ家族員多キガ爲ニシテ、次イデ「紡織工業ニ從事スル者」約 16%及ビ「商業的職業」14%ナリ。只「接客業者」4%「教育ニ從事スル者」1%ナルハ稍々意外トスルニ足ル。

8. 家族員數ハ一世帯當リ平均 4.2 名ニシテ、之ヲ料金別トスレバ有料患者ノ夫ハ 5.3 名、無料患者ノ夫ハ 4.1 名ナリ。

9. 患者ノ同胞數ハ患者ヲ合シテ一人當リ平均約 5 名ニシテ有料ト無料トノ間ニ差ヲ見ズ。

10. 既婚者ノ 71%ハ子女ヲ有シ、一人平均 2.4 名ノ子女ヲ有ス。有無料兩者ノ間ニ殆ド差ヲ認メズ。

11. 患者ノ子女ノ總死亡率ハ 16%ニシテ、結核性疾患ニ由ル者ハ 5.5%ナリ。然レドモ死亡者中ノ結核性疾患數ハ 34%ノ高率ヲ示ス。料金別ニヨル患者ノ子女ノ總死亡率ハ有料患者ニテ 7.6%、無料患者ニテ 16.9%ニシテ、結核性疾患ニヨル死亡率ハ前者ニテ 2.6%、後者ニテ 5.9%ナリ。即チ無料患者ノ子女ノ結核死亡率ハ有料患者ノ夫ニ正ニ二倍ス。

12. 親子、兄弟姉妹、夫婦ヲ範圍トセル患者ノ近親者中ニ結核患者ヲ證明シ得タル者ハ 41%ナルヲ以テ之ヲ換言スレバ、患者ノ四割ハ家庭内ニテ感染セリト認メ得ベシ。此等ノ患者ハ一人當リ其同居家族中ニ平均 1.6 人ノ結核患者ヲ有セリ。

13. 既婚者中其配偶者ガ結核ナル者ハ約 6%ナリ。

14. 患者ノ子女ニ結核ヲ證明セルハ其子女數ノ 6.6%ニシテ、之ヲ料金別トスレバ有料患者ニテ 2.6%、無料患者ニテ 7%ナリ。

15. 患者ノ親ガ結核患者若クハ患者タリシ事

ヲ證明シ得タル者ハ 8% ナリ。既記ノ如ク家庭内ノ感染ト認ムベキ者ハ約四割ナル故、親ヨリ感染スルト認ムベキ一割弱ヲ除キタル殘餘ノ三割ハ同胞又ハ夫婦間ノ感染ナリト認ムル事ヲ得ベシ。

16. 現在結核患者ナルカ又ハ嘗テ患者タリシ親ヲ有スル患者ノ總同胞中（結核死亡セル者ヲ含ミテ）結核ヲ發病セル者ハ患者ヲ合シテ 37% ナルハ驚異スベキ數字ナリ。之ヲ患者ノ料金別ヨリ見ルモ大差ヲ認メザルヲ以テ、資産ノ有無ハ子ガ家庭ニテ患者タル親ヨリ感染セシメラルル危險度ニ關シテハ何等影響無キ者ト認メ得。

17. 患者ノ父母ノ何レカ又ハ兩親共ニ結核患者ナル場合ニ其子即チ患者ノ同胞中ニ幾何ノ結核患者ヲ生ズルカヲ見ルニ、夫々 36.6%、36.6%、36.7% ナルヲ以テ、傳染源トシテノ親ガ子供ニ對スル危險度ハ父母共ニ同一ナル事ヲ示ス。

18. 所得調査ニ選擇セル患者 1652 名中有所得者ハ 67%、無所得者ハ 33% 即チ患者ノ三分ノ二ハ所得ヲ有シ、三分ノ一ハ所得ヲ有セズ。之ヲ更ニ男女別トスル時ハ有所得者中男 80%、女 20% ナリ。又全患者ヲ單ニ性別トスレバ男ノ 87%、女ノ 35% ハ有所得者ナリ。上記ヲ綜合シテ家計ヲ支持スル者ノ八割ハ男、二割ハ女ナリト略言シ得ベシ。

19. 患者ヲ料金別所得有無別トスル時ハ有料患者中ノ有所得者 33%、無料患者中ノ 72% ハ有所得者ナリ。之ハ有料患者ニハ少青年若クハ妻等ノ無所得者多キモ、無料患者ニテハ年齢ニ拘ラズ所得ヲ有スル者多キヲ語ル。

20. 患者竝ビニ其家族員ガ共ニ所得ヲ有スル世帯ハ 33% ニシテ、料金別トセバ有料患者ニテハ 10%、無料患者ニテハ 36% ナルヲ以テ、無料世帯ノ三分ノ一ハ共稼ヲ餘儀ナクセラル、者ト認メ得ベシ。

21. 患者ガ唯一ノ所得者タル世帯ハ全患者ノ 34% ニシテ、之ヲ料金別トセバ有料患者ニテ 34%、無料患者ニテ 36% ナリ。

22. 所得調査ニ選擇セル 1652 名即チ 1652 世

帯ノ一世帯平均所得月額ハ 77 圓 70 錢ニシテ、之ヲ料金別トセバ有料患者ノ夫ハ 238 圓 06 錢、無料患者ノ夫ハ 55 圓 74 錢ナリ。即チ有料患者ノ一世帯所得額ハ無料患者ノ夫ニ正ニ四倍ス。各ヲ更ニ性別トセル一世帯平均所得月額ハ有料男 218 圓 73 錢、有料女 270 圓ニシテ、兩者ノ間ニ差ヲ見ルハ有料階級ニテモ家庭内ノ女ヲ家庭外ニテ療養セシムル爲ニハ收入上相當ノ餘裕ヲ有セザルベカラザルモ、男ノ場合ニハ入所費ヲ辨ジ得ル最低限度ノ收入ヲ有スル家庭ヨリモ猶患者ヲ入所セシムル者ト解シ得ベキガ如シ。次ニ無料階級ニテハ男患者ノ一世帯平均所得月額ハ 56 圓 49 錢、女ノ夫ハ 54 圓 58 錢ニシテ兩者ノ間ニ大差ヲ認メズシテ男女共ニ其世帯ノ力ヲ以テシテハ療養ノ手段ヲ有セザル事ヲ知り得ベシ。

23. 既記ノ世帯所得額ヲ家族一人當リトスレバ全患者家族一人當リ平均所得額ハ 19 圓 47 錢ニシテ、有料患者ノ世帯ニテハ家族一人當リ 47 圓 61 錢、無料患者ノ夫ハ 14 圓 47 錢トナリ前者ノ所得ハ後者ニ約三倍ス。

24. 患者自身所得ヲ有スル者ノミノ平均月額ハ 40 圓 99 錢ニシテ、料金別トスレバ有料患者 138 圓 97 錢、無料患者 34 圓 79 錢ナリ。此等患者ノ所得額ハ有料無料ヲ平均シテ世帯所得ノ 66% ニ相當シ、更ニ之ヲ細別スレバ有料患者ニテ 77%、無料患者ニテ 60% ナルヲ以テ、患者及ビ其家族モ共ニ所得ヲ有スルガ如キ世帯ニテモ患者ノ所得ハ世帯所得ノ大半ヲ占ムルガ故ニカ、ル所得者ガ發病スレバ其世帯ノ生計ガ窮迫スベキハ勿論ナリ。

25. 全患者ノ世帯ノ 66% ハ患者以外ノ家族員ガ所得ヲ有シ、其等家族員ノミノ一世帯平均所得月額ハ、男患者ノ世帯ニテ 71 圓 02 錢、女患者ノ世帯ニテ 80 圓 86 錢ナリ。之ヲ料金別トセバ有料患者ニテ 251 圓 32 錢、無料患者ニテ 47 圓 68 錢ナリ。

26. 全患者中患者ガ唯一ノ所得者ナル世帯ハ 34% ニシテ、其患者ノ所得月額ハ一世帯當リ 54

圓08錢、家族一人當リ19圓04錢ナリ。

27. 無所得患者ノ世帯及ビ其等家族一人當リノ平均所得月額ハ、夫々有料男255圓及ビ47圓96錢、有料女277圓93錢及ビ56圓67錢ニシテ、無料男ニテ60圓96錢及ビ12圓57錢、無料女ニテ57圓90錢及ビ13圓40錢ナリ。

28. 患者1652名ヲ高等小學校卒業程度17歳迄、其以上徴兵適齡(若クハ結婚適齡)21歳迄、22歳以上59歳迄及ビ60歳以上ノ四階級ニ分テバ次ノ如シ。17歳未満ノ者129名(7.8%)ニシテ、此中男45名35%、女84名65%ナリ。又18歳乃至21歳ノ者355名(21.4%)ハ男215名61%、女140名39%ニシテ、22歳乃至59歳ノ者1161名(70%)ハ男753名65%、女408名35%ナリ。即チ17歳未満ニテハ男子ハ女子ノ半數ナレドモ、18歳以上ニテハ男子ノ數ハ女子ニ倍ス。60歳以上ノ者ハ總數僅カニ7名(0.4%)ニ過ギズ。

29. 17歳未満ニシテ所得ヲ有スル者ハ41名32%ニシテ此等ハ全部無料患者ナル故、無料階級ニテモ弱年ニシテ勞役スル者ハ三分ノ一ニ過ギズ。而シテ性別トセル有所得者率ハ男31%、女32%ナリ。

30. 18—21歳ノ者ノ内有所得者ハ65%即チ約三分ノ二ガ就職者ナリ。而シテ男女別トセル有所得者率ハ男75%、女48%ナルヲ以テ此年齢界ニ至レバ男子就職者ノ急激ナル増加ヲ察知シ得ベシ。

31. 22歳—59歳間ニテハ有所得者ハ72%ニシテ前年齢界ヨリ更ニ其數ヲ増スヲ見ル。又性

別トセル有所得者率ハ男94%、女32%ナル故此年齢界ノ男子ハ殆ド就職有所得者トナリ、女子ノ有所得者數ニ三倍スルニ至ル。女子ノ有所得者率ガ此年齢界ニ入りテ減ズルハ結婚ニヨリテ職業ヲ離ル、者ヲ生ズルガ爲ナリ。

32. 上記年齢界ニヨル患者ノ平均所得月額ヲ擧グレバ、17歳未満ノ男14圓42錢、女12圓11錢、18歳—21歳ニテハ男19圓64錢、女20圓34錢ニシテ女ノ所得額ガ男子以上ナルハ此年齢界ニ於ケル勤勞者トシテ女子ノ社會的需要ガ大ナル事ヲ語り、又此等患者ヲ料金別トスレバ有料患者ノ平均所得月額ハ34圓75錢、無料患者ハ19圓58錢ニシテ兩者ノ間ニ大差ヲ見ルハ、一ニ有料階級子弟ガ中等學校卒業ナル學歷ヲ有スル者ト解セザル能ハズ。次ニ22歳—59歳ノ者ニテハ男52圓23錢、女25圓87錢トナリ、男ノ所得ガ女ニ二倍シ、之ヲ料金別トスレバ有料患者ノ平均所得月額ハ147圓83錢、無料患者ノ夫ハ41圓18錢ニシテ前者ハ正ニ後者ニ四倍スル所得額ヲ有ス。

33. 患者ノ住宅内疊數ハ全患者ニ就テ一世帯當リ13.5枚、家族一人當リ3枚ニシテ、之ヲ料金別トセバ有料患者ニテ夫々28枚及ビ5枚、無料患者ニテ11.5枚及ビ2.7枚ナリ。

34. 當療養所へ收容セル患者ノ59%ハ死亡シ其平均在所日數ハ206日ニシテ、治癒セル者ハ28%ニシテ其在所日數ハ363日ナリ。

擱筆スルニ臨ミ懇篤ナル御指導ト御校閲ヲ賜リタル所長三戸博士竝ニ種々ノ便宜ヲ與ヘラレタル京大經濟學部夕見教授ニ感謝ノ意ヲ表ス。

主要文獻

1) 死因統計。(昭和九年)内閣統計局。 2) 昭和三年度—昭和五年度簡易生命保險ノ死亡率ニ關スル調査。簡易保險局。 3) 京都市保健施設概要。(昭和九年七月編)京都市保健部。 4) 昭和七年京都市第二十四回統計局。(昭和九年刊行)京都市役所。 5) 京都市保健施設概要。(昭和十年八月編)京都市保健部。 6) 特定區域ニ關スル調査。昭和二年。東京市。 7) 細民生計狀態調査。大正十年。内務省社會局。 8) 少額生活者ニ關スル調査。京都府學務部社會課。 9) Lagréze, L. und. A. Orlovitsch-Wolk. Zeitschr. f. Tbk., Bd. 66. S. 7. (1933). 10) Hans Koopmann, Med. Klin., Nr.

27. S. 1050. (1928). 11) Keller, Prakt. Tbk. Bl. H. 7. S. 107. (1929). 12) Arnould, E., Zeitschr. f. Tbk., Bd. 67. S. 117. (1933). 13) Schaefer, Zeitschr. f. Tbk., Bd. 68. S. 267. (1933). 14) Korányi, Zeitschr. f. Tbk., Bd. 68. S. 267. (1933). 15) 東京府郡部不良住宅地區調査概況。(大正十五年)東京府社會課。 16) 不良住宅地區改良後ニ於ケル地區内居住者。生計調査報告書。(昭和八年)財團法人同潤會。 17) 大日本帝國內務省第四十六回統計報告。(昭和九年刊行)内務大臣官房文書課。 18) 京都市衛生年報。昭和二年乃至昭和六年。

抄 録

結核専門雑誌

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 70. H 3. 1935

流雪中結核菌ノ培養檢出ニ就テノレーウエン
スタイン氏法ニ對スル批判報告

E. Küster u. S. Olbrich: Beitrag zur Kritik der Löwensteinsche Methode der Kulturellen Nachweisses von Tuberkelbacillen aus dem strömenden Blut.

レーウエンスタイン氏法ニ依ル流雪中カラノ結核菌檢出ハ結核性疾患ノミナラズ、原菌不明ナ疾患例ヘハ Schizophrenie 人格分裂症、「ロイマチス」性多發性關節炎、多發性硬化症、等ノ場合テモ 50%モ流雪中カラノ結核菌ヲ證明シテ居ル、而シテ、レ氏ハ從來ノ理學の見解トハ反對ニ是等ノ疾患ニ對シテ、結核菌ガ大キナ基ヲナシテ居ルト信ジテ居ル。

著者ハ之ニ對シテ批判スベク 1931 カラ 1933 年ノ間ニ各地ノ學者カラ皮膚及眼ノ結核性疾患及ビ其他ノ皮膚疾患硬結性紅斑(バザン)皮膚硬化症狼瘡、結節性紅斑、及ビ多發性關節炎及其他ノ肺結核症等ノ患者ノ血液ヲ臨牀的診斷ヲ秘シテ送付ヲ受ケ、自分等ノ組ヲ 2 班ニ分ツテ、其 1 班テハ自分ノ所ト Madsen-Jensen 氏、Lange 氏、Uhlenhuth 氏ノ所ニ夫々 503 例ヲ送ツテ檢出ヲ依頼シタ所ガ 2 例丈ク陽性ヲ得タ。

又 450 例ヲ Speger Hani. Löwenstein Lange. Madsen-Jensen. Uhlenhuth ノ所ニ送ツタ所ガ他ハ皆 1—2%ノ陽性デアアルノニ Löwenstein 氏ハ 11.3%デアアル。

又之ヲ Blut ヲ送ツテ來ル學者ノ各診斷ト照合シテ見ルト、唯、血液中菌檢出ノミカラ其疾患ヲ結核性ト斷定スルコトハ考慮ヲ要スルト考ヘラレタ。

又、結核罹患動物ノ血液ニ就テハ海猿ア 24.6%、家兎テハ 46.2%ノ陽性ヲ見、又結核死ノ屍體血液カラハ 61.9%—62.5%ヲ陽性ニ得タ、是等ノ事實カラ結論シテ著者ハ病理解剖學的ニ結核性病竈ヲ持タヌ疾患ノ結核性デアアルト云フ根據ヲ吾人ハ未ダ知ラヌ。

又一體如何ナル菌血症ト雖モ、敗血症ガ敗血病竈ヲ有スト同様ニ何處カニ原因竈ヲ有シ、之ヲ病理解剖時ニ檢出出來得ル筈デアアル、流雪中ニテ菌ガ繁殖スルトハ考ヘラレナイ。

故ニタマタマ流雪中ニ結核菌ヲ見タ、非結核性疾患ト雖モ、之ハ偶然ト云フ語ニツキルノデアツテ決シテ病因的決斷ハツケラレスト思フト。

(東京市療 太田抄)

肺結核症ノ病竈反應及ビ再活動

A. Albert: Herdreaktion und Reaktivierung der Lungen tuberkulose.

近來佛人 Sergent ハ成人結核症ハ幼時ノ初感染後長期間後「アレルギー」ガ弱ツテ「アネルギー」ニナルト再活動ヲ起スノデアツテ、即チ再活動ニハ「アネルギー」ガ主原因デアアルト説イテキルガ、之ハ Krehl ガステニ「アレルギー」ナルモノハ感染經過ノ結果起ルモノナルコトヲ明ラカニシテキルコトテソコニ「アレルギー」ト再活動トノ間ニハ因果關係ハ存シナイト反對シテ居ル。

又之ニ因果關係ヲ附スルコトハ Ranke ノ學說ニモ反對スルコトニナルト云ツテ居ル、而シテ著者ハ一體「アレルギー」トカ、免疫トカノ語ハコノ語ノ眞ノ語義ヲ先ヅ究メテ後ニ用フ可キモノデアツテ、之ヲ混同セシメテ用フ可キテハナイト云ツテ居ル。

然シテ之ニ Newton ノ重力ノ法則ニ對シテ引力ナル語ヲ用ヒタ時ニ引力ナル語ニ Newton ガ説明スルニ、物體ガ落下スル事實ガアタカモ、地球ノ中心ニ引力ガアルカノ様ニ見エル故ニ、コノニ引力ナル語ヲ用フルノデアツテ、物體落下ノ原因ハ如何ニアルカハ不明ノデアアル、ト云ツタコトヲ引用シテ「アレルギー」免疫等モ之ト同様デアツテ、是等ノ現象ハ即チ再活動トカ病竈反應トカニ對シテノ隨伴現象ト見做スコトハ出

來ルガ、決シテ原因ト見做スコトハ出來ナイ、然ルニ後年是等カ目的論的ニ考ヘラレテ、アタカモ引力ハ落下ノ原因デアリ、「アレルギー」ガ結核病竈ニオコル現象ノ原因デアリト云ヒ、又、過敏性「アレルギー」ガ滲出性病變ヲ免疫性「アレルギー」ガ増殖性病變ソノノス原因デアルト云ハレテ來タノデアル。

次ニ病竈反應ニ就テハアルガ

之ニモ、Ewerts A. Grahamガ肺膿瘍ノ手術テ氣管枝抄孔ヲ生ジタ患者ガ簡單ノ鼻カタルニ於テ、ソノ瘻孔ガ特有ナ發赤腫脹ヲ來スコトヲ證明シテ定型的病竈反應デアルト云ノコトニモ反對意見ヲ示シテ、之ニハ何カ植物神經系ニ依ルモノデアツテ、決シテ之ニ因果關係ヲ結合セシム可キテハナイト云ツテ居ル。

C. C. Fookノ沃度病竈反應ニ就テモ、沃度ニ依ツテ舊病竈ノ磷酸石灰ガ可溶性ノ石灰鹽ニナルガ故ニ時ニ病竈反應ヲ呈スルモノテ、之ハ結核病竈ニ限ツタ現象テハナイト云ツテ居ル。

而シテ著者ハ是等ノ問題ハ定義ノ混亂使用カラ起ルガ故ニ語義ヲ明ラカニ究ムルコトガ第一ニ必要デアルト力説シテ居ル。

(東京市療 太田抄)

肺臟ニ於ケル結核症ト癌原發竈ノ同時出現ニ

就テ

W. Behrendt.: Über gleichzeitige Vorkommen von Tuberkulose u. Primäre Krebs in der Lunge.

活動性結核症ニ癌腫ガ併發スルト云フコトノ頻度ハ各報告ニ依ツテ種々デアル。

Beloghハ1129例ノ癌腫ノ剖檢ニ於テ17例丈ケガ活動性結核症デアツタト云ヒ、其他、KanadaノMc. Jutoshハ1.2%ガ結核ヲ合併シテ居タト云ヒ、Findeisenハ0.1%ト報告シテ居ル。

著者ハ56歳ノ男子テ右鎖骨下ノ空洞性肺結核症ヲ有スル患者ガ其鎖骨下ニニ線検査上、腫瘍ラジイ、病影ヲ認メタト云フ、之ヲ剖檢ニ於テ癌原發竈デアルコトヲ確カメタ、又此ノ癌腫發生ノ原因トシテ著者ハ空洞ノ慢性刺激作用ニ依ルモノト考ヘタ、一體世ニ肺結核症ニ肺臟癌ノ合併ガ報告ノ少イノハ年齡的ニ一方ハ青年者ニ一方ハ壯年以後ニ多イ疾患ナルガ故デアラウト述ベテ居ル。

(東京市療 太田抄)

肺臟内ヘノ「ヨード」油氣管經由注入ノ技術ニ就テ Frances Marangonie: Technik zur intratrachealen Einführung von Jodöl in die Lungen.

著者ハ「ヨード」油ヲ對照劑トシテ氣管及ビ氣管枝ノ

「レントゲン」撮影ガ如何ニ發展シタカラ力説シテ居ル。而シテ氏ノ方法ニ3種ノ存スルコトヲアゲテ居ル。

1. 環狀甲狀軟骨内注入法
2. 聲帶外注入法
3. 直接注入法

1ハ環狀甲狀軟骨膜ヲ彎曲針ヲ以テ破リ、ソコカラ「ヨード」油ヲ注入スル方法デアアルガ、之ハ施行ガ簡單デアアルガ蜂窠織炎ヲ發生シ易イ危險ガアル。

2ハ長イ把ヲ持ツタ注射器ヲ用ノルカ、又ハ消息子ヲ使用シテ聲帶上カラ注入スル方法デアアル。

ソノ方法ハ専ラ行ハレル方法デアツテ容易デアリ、且ツ、損傷ヲ來スコトニ少イ、主ナ難點ハ局所麻痺ヲサセルコトデアアル。

著者ノ見解ニ依レバ此方法ハ「ヨード」油ガ入ツタ氣管像ガ餘リ廣イ範圍ニ行キ互ラヌト云ノ缺點ガアルト思ハレル、然シ之モ熟練ニ依ツテ相當ニ達セラレル。

又局所麻酔ノ藥量ガ多イト中毒スルト云フ危險ガアル、之ハ殊ニ「コカイン」ノ場合、少量ガ過ギレバ危險ヲ伴フ、著者ハ5%ノ「コカイン」溶液ヲ用ヒテ良結果ヲ得テキルト云ヒ、其他ノ詳細ナ注意ヲ記シテ居ル。

3ハ直接「ヨード」油ヲ咽頭カラ注入スル方法テ之ハ餘程熟練シタ者テナイト不可能デアリ、且ツ思フ箇所ニ注入スルコトハ一層困難デアアル。

(東京市療 太田抄)

エムスランドルフニ於ケル結核症検査

F. Redeker. A. Hein Müller: Tuberkulose untersuchung in einem Emslanddorf.

Emsland救濟開發事業ハ1929年行ハレテ、コトニPreussenノ醫學會分科及ビ國立結核豫防會ノ援助ニ依ツテ近來Emslandノ社會衛生狀態視察ガ行ハレテキル、其ノ研究ノ一枝葉トシテG地方ソコハBersenbrück ベルゼンブルック地方ノ北西隅ニ在スル村デアルコノ村落ノ結核問題ヲ取扱ツテ見タノデアアル。

此Bersenbrückハ元來狹義ニ於テノEmslandニハ屬セヌ、其西北部ノミガEmslandノMoorgebietニ屬シテ居ルノミデアアル。此EmslandハRobert Kochガソコノ結核率ノ高イコトヲ指摘シテキル。Jokobハ其前1911年ニ地方ニ於ケル結核ト地方衛生的缺陷ト題シテコノEmslandヲ例ニアゲテキル。

此G村ハ570名ノ人口ヲ有シテ其4分ノ3ハ不潔ナ非衛生的生活ヲナシテ居ル。

著者ハ此ノ死亡率ヲ年代的ニ集メテ見ルト1904年カラ1919年迄ハ相當高死亡率ヲ示シテ居タカ1919年以來著明ニ死亡率減少シテ居ル。

ソコテ此原因ヲ尋ネル爲メニ3種ノ時代ニ分ケテ73家族ニ於テ各家族カラノ結核死亡者ヲ檢シ、3種時代即チ祖父母時代、父母時代、子時代ノ何レニ夫レカアツタカラ檢シタ、所カ祖父母時代及父母時代ニ多クシテ子時代ニハハルカニ少數ニナツテキル。

又死亡ノ年齢ヲ檢シ之ヲPreussenノ死亡年齢ト比較シテ見ルトG村テ少年時代ニ多ク青年時代ニ少クナリ壯年時代ニ再ビ上昇シテ居ル、Preussenテハ青年

時代ニ最モ多ク壯年時代ハ減少シテ居ル點ガ非常ニ異ルコトヲ發見シタ。

又「ツバルクリン」反應ハ陽性ナモノガ少年時代ニ少ク幼時カラ餘リ増加シテ居ラス之ガ都會ト異ル。又移動「レントゲン」器械ヲ使用シテ「レントゲン」検査ヲ行フト570名中466名ニ就テハ廣範ナ重イ結核症ハ少年ニハ少ク、初感染癰痕、肋膜炎痕モ成人ニ多イヲ見ヌ。

ソコテ著者ハ之ヲ此ノ地方ガ一體體ノ都會ト交通ガ非常ニ遅レテキル爲メト説明シテ居ル、ソコテ成年者ニ多イノ殊ニ壯年者ニ然ルノハ都會ト交通ガ近來多クナツタ爲メアルト考ヘテキル。

(東京市療 太田抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 74 H. 6. 1936

肺結核ノ場合ノ個人的特徴ヲ現ハス時間指數

Prof. Dr. Siegfried Gräff: Ein Zeitindex zur individuellen Kennzeichnung eines Falles von Lungentuberculose.

臨床家及病理解剖學者ノ種々ナル努力ニ依ツテ肺結核ノ病狀ヲ附隨ノ表示ニ依ツテ分類セラレテキル。Turban, Albrecht und Fraenkel, Aschoff-Nicol, Liebermeister, Ranke 等ノ分類ハ形態ノ見地ヨリ、其病態ノ擴リ、病型ヲ或ハ免疫生物學的特色、或ハ熱、赤沈ノ如キ臨牀症狀等ヲ考慮シテキル。是等分類ノ目的ハ個々ノ病例ヲ一定ノ型ニ當テ嵌メテ治療法、豫後、作業能力等ヲ考察スルノ便ニ供セン爲ナリ。然シ最良ノ分類テモ病狀變化シテ所屬ノ變ツタ時、個々獨特ノ經過ガ整理者ヨリ失ハル、事ハ免レナイ、醫師ノ個々ノ病例ヘノ感情移入(Einführung)ハ病歴ヤ記憶ヲタドル事ニナリ不精細トナル。

ソコテ著者ハ肺結核ノ個々ノ例ノ特性ヲ特別ナル内容ノ「時間指數」(Zeitindex)ニ依ツテ保持スル事ヲ考案シタ。此指數トハ數ト最短イ符號ニ依ツテ個人的ナ既往ノ特徴ヲ表ハス。但シ之ハ肺結核ノミニ關シタモノデアル。

此指數ノ表現法ハ分數式ノ如クシテ表ハシ臨牀的ノ發病ヨリ現在ニ至ル期間ヲ分子ニ記シ分母ニハ此ノ間ニ於ケル個々ノ要治療發症ノ期間ヲ「;」ニテ連續シテ表シ期間ノ長サハ年ヲ整數テ、月ヲ小數テ示シタ(10ヶ月ハ0.9、11—12ヶ月ハ1.0トス)、空洞ノ存

在ハ肺結核ノ經過ノ影響ニ特ニ重大ナル因子トナル故之ヲ記載スル事トシタ。其記載方法ハCヲ分子トシ其發現ヨリ現在迄ノ期間ヲ分母トセリ、氣胸療法、外科的療法モ同様ニ記載ス。然シテ終リニ符號記載ノ年月ヲ()内ニ記ス、例ヘバ $\frac{7,3}{0,3}; 1,0; 0,1,0,6$ (IX, 1931)ハ1931年9月迄ノ經過ハ發病ヨリ7年3ヶ月トナリ此ノ間3ヶ月、1ヶ年6ヶ月ノ3回治療ヲ要スル發症アリ空洞ヲ證明セル時ヨリ6ヶ月ヲ經タト云ノ事ヲ現ハス。

要スルニ此指數ハ如何ナル立脚點カラモ作成出來、次第ニ發展サセテ行ク事ガ出來ルモノデアル。既往ハ擴大テ一望セラレナイガ時間指數ハ其點醫家ニトツテ有用ナモノデアル。此指數ハ結核ノ外ノ型ニモ又慢性再發性疾患ニモ之ヲ應用スル事ガ出來ル。

(刀根山 山中抄)

小兒期ニ於ケル血行性粟粒結核ノ治癒ノ問題

Dr. Heinrich Ludeke: Zur Frage der Abheilung der haematogenen miliaren Tuberkulose im Kindesalter.

急性全身粟粒結核ノ疾疫概念、ハ病理解剖的關係ニ於テ、Weigertノ論說以來根本ニ於テハ變化ヲ見ザル所ニシテ著者ハ次ノ諸點ヲ論ジ、即チ

1. 急性汎發性粟粒結核ガ Generalisationstbc. ノ内ニ於テ境界判然タル特殊型ナルコト。
2. 粟粒結核ノ診斷ニ於ケル「レントゲン」像ノ價値。
3. 血行性粟粒結核(小兒期ニ於ケル)ノ治癒例ノ文

獻。

4. 臨牀上 Versteckt = 經過セル 治癒性粟粒結節ハ 剖見上見逃シ易ク粟粒播種ノ 質的診斷ハ 病理解剖ニ 於テモ尙ホ困難ニシテ質的診斷及ビ Altersdiagnoseニ 對シテ組織學的ノ 検査ヲ必要トス。

5. 急性全身粟粒結核及ビ良性粟粒播種ノ 病理。

Redeker, Simon 及ビ Duken ノ 主張スル小兒期ニ於ケル治癒性粟粒播種性結核ノ 類繁ナルコトニ賛同スル爲ニハ解剖學的ニ 徹底的檢索ヲ 必要トシ治癒ノ 型及ビ治癒ノ 條件ヲ 組織學的ニ 確實ニ 檢シ得ル様ナ 豐富ナル材料ヲ 必要トス。依ツテ著者ハ 2 例ノ 剖檢例ヲ 追加補遺ス。

結 論

血行性粟粒結核ノ 二治癒例ノ 解剖的所見ノ 記載

1. 生後 12 ヶ月ノ 女兒、3 ヶ月以來上氣道ノ 加答兒入院時疾現現象極ク 輕度、「ツ」反應陽性、「レ」像ヲ 見ルニ 右側上葉下部ニ 陰影アル外全肺ニ 粟粒播種アリ、其陰影密度ハ 次ノ 2 ヶ月ニ 於テ増加シ引續キ 觀察セルニ 完全ニ 消失セリ、入院後 7 ヶ月ニシテ 結核性股關節炎ニ 罹患、次イテ 3 ヶ月ニシテ 結核性腦膜炎ニテ 死亡。

2. 15 歳ノ 少年、1 年來一般狀態不良、4 ヶ月前ニ 脊髓結核ヲ 確診サレ 結核性腦膜炎ニテ 死亡。

解剖ニ際シテ 發見サレタル 陳舊ナル 粟粒全身播種ノ 時期ハ 知ルヲ 得ズ。

兩例ニ於ケル解剖的檢査ノ 結果肺、脾、肝臟ニ 治癒セル或ハ 癩痕性ノ 結節ノ 沉發的ニ 播種セルヲ 見ル。單獨病竈ハ 兩例トモ 厚イ 癩痕性被膜ニ ヨリテ 包マレ、而モ中心ハ 強度ニ 結締織性 靱退ヲ 示セル 上皮様細胞結節ヨリ 成ル。而シテ 癩痕性粟粒結節ニハ 最早ヤ 抗酸性ノ 桿菌ヲ 證明シ得ズ。小兒期ニ於ケル 血行性粟粒結核ノ 治癒可能性ニ 關シテ 次ノ 見解ヲ 得、即チ 小兒期ニモ 全身血行性粟粒結核ガ 來ルガ 其ハ 慢性經過ノ 後ニ 現レル 治癒過程ガ 見ラレルガ 全治ハ 蓋然的ノ モノナリ。粟粒播種ノ 診斷ハ 今日迄例外ナク「レ」像ノ 助ケヲ 得テ 爲サレタ。

重篤ナル 疾疫像ヲ 缺クガ 如キ 比較的 僅少ナル 播種ハ 治癒的 血行性粟粒播種ガ 僅少ナル 菌量ノ 緩漫ナル Schubweise Eindringenニ ヨリテ 現レルト云フコトヲ 恐ラク 示スモノナラム。良性ニ 經過スル 粟粒播種ノ 大部分ハ 早期播種群ニ 屬ス。是等ノ 例ハ 病理ヲ 異ニシ 播種ノ 密度ガ 小デアリ、臨牀的ノ 症狀ガ 僅少ナル 爲メニ

急性全身粟粒結核ニ 屬セズ 轉移ノ 擴大ト 位置ノ 拍子ニ ヨリテ 之ノ 如キ 良性ノ 血行性粟粒播種ノ Trägerノ 以後ノ 運命ハ 定メラレルモノナリ。(刀根山 杉田抄)

成人肺結核ノ 小兒型適應型ノ 病理解剖

Dr. W. I. Pusik: Pathologische Anatomie der den Kindheitsformen entsprechenden Formen der Lungentuberculose des Erwachsenen.

小兒ノ 肺臟ノ 構造ハ 年齡ニ 相當シナイ 場合ガ アル事ヲ 著者等ノ 仕事ガ 報告レタ所デアル。Strukowノ 検査テハ 肺臟ノ “Histoarchitektonik”ノ 發育ハ 4 ヲノ 年齡期ニ 區別セラレ、其内初メヨリ 3 ヲノ 年齡期ハ 肺臟組織要素ノ 種々ナル 分化期デアリ、第 4 期ハ 分化部位ノ 發育ガ 完成セラレル時期デアル。2 歳迄ノ 小兒肺テハ 淋巴道多キ 分化完全ナル 間組織豐富ナリ、此處ニ 出來ル 結節モ 從ツテ 境界不鮮明、大サ大、増殖性ヲ 缺ケル 淋巴球性病變トシテ 現ハル。

前者同様 結核性病竈ノ 構造モ 5 ヶ月ヨリ 12 歳迄ノ 年齡期ヲ 4 ヲノ 年齡群ニ 分チ得。最初ノ 2 群(0—1 歳、1 歳—3 歳)ハ 大ナル 淋巴性結節ガ 存在スル事ガ 特徴テ 第 2 年齡群ニ 於テハ 病竈ハ 規則正シイ 圓形輪廓ヲ 有シ、第 3 年齡群(3 歳—7 歳)ニテハ 徐々ニ 結核ノ 増殖性性質ヲ 認メ、病竈ハ 大ナル 直徑ヲ 有シ細胞モ 大テ約 7 歳ノ モノテハ 特異ナ 纖維莖膜ノ 出現アリ、病竈周圍圓形細胞浸潤帶ガ 十分ニ 廣マツテキル。第 4 群(約 10 歳)ニテハ 直徑ノ 小ナル 病竈テ 小細胞要素ト 定型の 増殖性性質ヲ 有シ成人病竈構造ヘノ 移行デアル。著者ハ 20 歳—45 歳ノ 19 例ニ 就イテ 小兒様肺構造及ビ 小兒型結核機轉ヲ 認メ 検査シタ。體質的關係ニテハ 種々ナル 型ノ 發育不全型ガ 優勢ア、此結核過程ノ 小兒型ハ 68%デアル。例ノ 20% (25—27 歳)ハ 胸腺ノ 殘存ガアリ 肺臟ノ 組織局所標本及顯微鏡標本ニテ 検査スルト 其構造ハ Infantil 型又ハ Pueril 型テ 各部分ニ 於テ 一様テ 時々多少ノ 相違ヲ 認メル。著者等ノ 材料ノ 結核感染ハ 陳舊性肺助膜再感染ヨリ 起リ、淋巴液ノ 停滞及ビ 淋巴管炎ヲ 來ス、又時ニハ 肺小葉間隔壁ノ 淋巴道ヨリ 傳播ス。

成人ノ 小兒型ノ 顯微鏡的解剖學的記載ノ 時ハ 結核結節ノ 性質ト 大葉型ノ 蔓延道及ビ 空洞型及 2、3ノ 病理解剖學的特徴ヲ 注意スベキデアル。其結核結節ノ 性質ハ 淋巴様肺炎様デアリ、蔓延道ハ 主ニ 淋巴型カ 淋巴血行型デアル。空洞ハ 小サク 壁ハ 厚ハ 膜様テ 結締織膜ガ ナク 肺胞中ノ 落屑現象ノ 強イ 滲出性結核ヘノ 移行デア

リ是等ノ空洞ヨリノ傳播モ亦淋巴性ニ來ル。病理解剖的特徴ハ副行性炎症ヲ伴フ、細葉性氣管枝肺炎ノ病竈ガ細葉性増殖性病竈ヘノ移行デアツテ、著者ノ多クノ例ニ於テモ肉眼ノ一様ニ見ユル大葉性病竈（「ゲラチン」様及ビ脱落性肺炎）ノ内ニ巨大細胞ヲ有スル増殖性結節ノ病竈ヲ見出シ得、肺組織ハ肺胞隔厚ク淋巴腔

擴大セリ、又或ル例ニ於テハ小葉性病竈ヲ圍ム增幅セル隔壁ニ淋巴腔ノ擴張、浸潤等ヲ見、小葉性病竈ハ脱落性肺炎及乾酪性肺炎ヲ呈ス、之モ淋巴性ニ蔓延シテ淋巴停滯ニヨリ特別ノ肺炎病竈ヲ呈セルモノニシテ共ニ肺ノ組織的構造ノ特有ナルニ因セル特有ナル病的變化ナリ。（刀根山 山中抄）

Tubercle. September (1935) — March (1936)

小兒開放性肺結核ノ經過合併症竝ニ豫後ニ就テ

E.; Cochrane: Course, Complication and prognosis of open Pulmonary Tuberculosis in Children, (Tubercle. Okt. 1935)

3歳ヨリ 15歳迄ノ開放性肺結核 710人ニ就テノ調査デアル。第 1群ハ慢性ノ經過ヲ取ツタモノ、即チ死亡迄ニ 2年—10年ニ互ルモノハ 158名デアル。コノ中テモ有熱、速脈ノモノハ概シテ豫後不良ナリ。第 2群ハ急性ノ經過ヲ取ルモノテ 138名デアル。コレハ女子ニ多ク 9ヶ月以内ニ死ノ轉機ヲ取ルガ多イ。コノ中テモ亞急性ノモノハ比較的長命デアル。第 3群ハ 131名ノ治愈又ハ輕快者デアル、第 4群ハ一旦良好ニ見エタモノガ又不良ノ經過ヲ取ルモノテ 31名デアル、第 5群ハ經過不明ナ 41名デアル。臨牀事項トシテハ發熱ヨリモ脈數ト體重トガ豫後ニ關係ガアル。合併症トシテ見ラレタモノハ咯血ガ第一テ 92、咽頭炎ガ 66、濕性肋膜炎 16、自發性氣胸 24等ガ主ナモノデアル。豫後ニ關シテハ女子ハ平均 23.8ヶ月テ男子ハ 29.6ヶ月テ死亡シテキル。豫後ニ對スル影響因子トシテ咯血ハ兩性共ニ惡影響ヲ來ス、頸部淋巴腺ヲ前史ニ有スルモノハ却ツテ豫後佳シ。患側ニ就テハ吾等ノ觀察ハ兩性共ニ左側ニ多シ。女子ノ月經ニ就イテハ今迄重大視サレテキタ程ノ影響ハナイガ、一旦月經閉止ヲ來シタモノガ再發現スルノハ概シテ良イ徵候デアル。

（有馬内科 金井抄）

金鹽類治療ニヨル Chrysiasis ニ關スル知見

W; C. Fowler., M. D.: A. Note on the Occurrence of Chrysiasis Following Treatment by Gold-Salts; (Tubercle, Okt. 1935.)

結核ノ金鹽類ニヨル治療後起ル皮膚ノ變色ヲ Chrysiasis ト言フガコレハ屢々治療終後 1年後ニ於テモ起ツテ來ル、著者ハソノ 4例ニ就テ知見ヲ述ブ。

（有馬内科 金井抄）

胸部レントゲン像ノ臨牀的重要サ

By Kennon Dunham: The Clinical Value of the Chest Radiogram. (Tubercle, Okt. 1935.)

肺結核ノ臨牀ニ於テレントゲン像ノ重要ナコトハ言フ迄モナイガ、然シコレハ飽ク迄モ陰影デアツテ肺結核ニ特殊ノモノデハナイ、故ニ他ノ臨牀事項ヲ輕視シテコレヲ過重視又ハコレノミヲ專用スル傾ガアルガコレハ誤ツテキル。肺野ニ於ケル陰影ヲ見テモ喀痰ヲ検査セヌ時ハソレガ結核カ肺炎カ氣管枝擴張カラ決スルコトガ不能デアルコトガ屢々デアル。（有馬内科 金井抄）

兩側扁桃腺ノ浩範ナ結核ノ一例ニ就テ

Bernard Hadson: A Case of Massive Tuberculosis of the Tonsils. (Tubercle, Okt. 1935.)

21歳ノ慢性肺結核ヲ有スル婦人ニ於ケル稀有ナ廣範ニ侵サレタ扁桃腺結核ノ臨牀竝ニ摘出セル病竈ノ病理解剖所見デアル。特有ナルハ扁桃腺全體ガ Massiveニ侵サレテキル點デアル、摘出後ハ經過ハ良好デアル。（有馬内科 金井抄）

石肺ニ起ツタ鱗屑性肺癌ノ二例

S. Roodhouse Gloyne: Two Cases of Squamous Carcinoma of the Lung Occurring in Asbestosis. (Tubercle, Okt. 1935.)

35歳竝ニ 71歳ノ婦人ニ起ツタ 2例ノ剖見ニ就テ示説シテキル。

（有馬内科 金井抄）

咯血後ノ肺ノ態度

Dr. Oscar Orszagh: The Condition of the Lung after Haemoptysis (Tubercle, Okt. 1935.)

咯血ヲ反復シタ患者ノ肺ノ「レントゲン」像ハ大多數ニ空洞ヲ發見シ又喀痰中ニ菌ヲ見タ、又咯血中ハ大多數ニ 39°Cノ高熱ヲ見タ、全數ニ浸濕性變化又ハ周核炎症ノ像ヲ見タ、咯血ニ繼發シタ急性粟粒結核ハ僅カニ 1例デアル。浸濕型變化モ結局ハ終熄シテ咯血ノ爲メ豫後ガ不良トハ一概ニ言ヘヌ。

(有馬内科 金井抄)

肺結核ニ於ケル血液像

L. E. Houghton: The blood picture in pulmonary tuberculosis, (Tubercle. Nov. 1935.)

約 1000 名ノ肺結核患者ニ就テ、ソノ血液像殊ニ白血球像ノ分類ニ就テ、又、赤血球沈降速度ニ就テモ觀察シテキル。活動性ノ診斷ヲ血液像ヨリ見ルト大體ニ次ノ如ク言ヒユル、(1) 淋巴竝「エオジン」嗜好球ノ減少ト單核細胞ト中性細胞ノ増加、(2) ホンズドルノ指數ノ低下、(3) 赤血球沈降速度ノ昂進等。

(有馬内科 金井抄)

イングランド竝アイルランド人中肺結核病原**菌ノ菌型ニ就テ**

W. Melrose Cumming: The type of the causal organism in 1502 recent English and 320 recent Irish cases of pulmonary tuberculosis. (Tubercle Nov. 1935)

英蘭人肺結核 1502 人愛蘭人 320 人中ニ於ケル結核菌ノ菌型ノ分類ニ就テ報ズ、英蘭人中ニ於テハ人型菌對牛型菌ハ 1468:34 テアル。

愛蘭人結核 320 中 97 ハ牛型ト稱サレツ、材料ヲ送ツテキルガ其ノ實ハ牛型ハ 1 例モナク、凡テ人型菌ノミテアツタ。愛蘭ハ殊ニ家畜ト密接ナ關係ヲ有スル生活ガ多イガ稍ニ意外テアル。

家畜ヨリ殊ニ牛ヨリ感染シテ肺結核ニナルコトハ周知ノ事實テアルガ、牛型ノ肺結核ガ實際更ニ人ヨリ人ニ感染ヲ起シテ行クカ否カト言フ事ハ速斷ハ容サレナイ。

(北大有馬内科 金井抄)

腸結核ノ臨牀的診斷ニ於ケル“Triboulet”法ノ價值ニ就テ

J. T. Nicol: Intestinal tuberculosis-comparative value of triboulet test and clinical findings; (Tubercle, Nov. 1935)

此ノ診斷法ハ血清「アルブミン」ガ糞便中ニ存在スルカ否カニヨリテ腸結核潰瘍ノ存在ヲ想像セシメルモノテアル。コレハ最初 Bonnamour ニヨリテ提唱サレタモノテアル。

方法ハ糞塊約胡桃大ヲ 20cc ノ蒸留水ニ混和シ、濾過シ濾液ヲ 3 cc = 12cc ノ溜水ヲ加フ、コレニ 20 滴ノ Triboulet 試薬ヲ加ヘ對照ニハ加ヘズニオク、24 時間後ニ檢ス、雲様ノ灰色乃至褐色ノ沈澱ヲ作ルモノハ陽性テアル。

コノ試薬ハ(昇汞 3.5、醋酸 1、蒸留水 100 cc)、臨牀例 53 例中 25 例ハ適中、17 例ハ不適中、12 例ハ疑問ノ域ニ在ルモノテアツタ。(有馬内科 金井抄)

結核菌ノ濾過性物質ノ測定ニ就テ

Prof. E. M. Fraenkel: Measurements of filterpassing particles of the tubercle bacillus, (Tubercle Dec. 1935)

著者ハ自己ノ實驗ニ於テ結核濾過性病原體ノ存在ヲ肯定シテキル、實驗方法ハ牛型菌ノ液體培養ヲ用ヒ又牛型菌ニ感染セル海狗ノ肋膜、肝、肺、淋巴腺等ヨリ Chamberland ヲ用ヒテ病原體ヲ濾過シ得タ、コレヲ健康海狗ニ(頸腺)ニ注射シテ局所的結核ヲ得タ、更ニコノ淋巴腺ヲ用ヒテ第 2 ノ健康海狗ニ試ル時ニハ全身結核ヲ起シテ來ル。

唯注意スベキハ著者等ノ用ヒタ Collodion filter ハソノ膜目ガ最小 0.3 μ テアリ、Chamberland ハ L₂ テアツタ、若シ Morton Kohn ノ言フ様ニ結核菌顆粒ノ大サ及若小結核菌ガ 0.1 μ 乃至 0.3 μ テアルナラバ當然コレ等モ通ジナケレバナラス譯テアル。

(有馬内科 金井抄)

肺結核ニ於ケル空洞形成ニ就テ

R. Y. Keers: Cavitation in pulmonary tuberculosis. (Tubercle Dec. 1935)

空洞形成ト結核豫後トノ關係ニ關セル調査テアル、Tor-na-Dec 「サナトリウム」ニ於ケル 1924 ヲリ 1930 ニ到ル間ノ 100 例ニ就テテアル。

空洞ヲ有スル結核ノ豫後ハソノ病型ト深イ關係ガアル。

(有馬内科 金井抄)

S 型及 R 型ヲ「アンチゲン」トセル結核補體結合反應

G. B. Reed: Komplement-fixation in pulmonary tuberculosis with S. and R. antigens. (Tubercle. Dec. 1935)

臨牀的ニ良好ナル 144 人ノ肺結核ノ S 對 R 抗體ノ比率ハ 1.27、0.15 テアル。186 人ノ不良ナル豫後ノ結核ニ於ケル S 對 R ハ 1.65、0.25 テアル。抗體ハ S 型ニ反應スル度合ガ強イ様ニ思ハレルノテアル。

(有馬内科 金井抄)

肺結核ニ於ケル前側胸廓整形術ニ就テ

Joseph Thevalthundil: Antero-lateral thoracoplasty in pulmonary tuberculosis, (Tubercle. Jan. 1936)

コノ方法ハ最初 ローマノムツソリニ Institute ノ

Forlanini 等ニヨリテ行ハレタモノデアル。

ソノ實施方法及ソノ理論ニ就テ述べ、更ニ著者ノ行ツタ 41 例ニ就テ觀察セリ。(有馬内科 金井抄)

結核菌檢出ニ喉頭鏡ヲ利用スル方法

W. Burton. Wood: A note on the laryngeal mirror test for the detection of tubercle bacilli. (Tubercle. Jan. 1936)

X線ニヨル胸廓ノ検査法ニ歴セラレテ喀痰検査カ輕視セラレルコトノ不當ヲ述べ、喀痰中ノ菌ノ檢出コソ永久ニ重要ナ意義ヲ有スルト主張セリ。

喀痰ヲ全然訴ヘヌ患者ニ就テハ喉頭鏡ヲ用ヒ、ソノ鏡面ニ喀出セシメタ滴狀ノ喀出物ヲ集メテ検査スルコトヲ推奨ス。(有馬内科 金井抄)

氣道ニ於ケル結核

Sir St Clair thomsom: Tuberculosis of the air passage. (Tubercle. Jan. 1936)

全肺結核中ニ於ケル氣道味ニ喉頭ノ結核ノ統計的數字ヲ述べ、ソノ治療方法ニ就テ著者ノ經驗ヲ例擧シテ述べ。(有馬内科 金井抄)

人工氣胸ニ續發スル合併症ト肺結核ノ豫防問題

Felix Baum: A questionnaire on complications following artificial pneumothorax in pulmonary tuberculosis and their prevention by collapse therapy of early diagnosed cases. (Tubercle. Feb. 1936)

著者ハ人工氣胸ノ合併症問題ニ對シテ世界各地(all over the World)ノ著名ナ結核病學者ニ下記ノ如キ問題ヲ發シ 82 名ヨリノ返答ヲ得タ。

(1)入院患者氣胸ニ於ケル致命的ノ合併事故ノ大略 63ノ答中 33(=53%)ハ 0%、平均シテ 0.17%。

(2)外來患者ニ於ケル致命的の合併症、69 人ノ返答中 53(=77%)ハ 0%、平均 0.1%。

(3)何ガソノ原因デアルカ? 48ノ返答ヲ得タ、多數順ニアゲルト、(1)空氣栓塞、(2)自發氣胸、(3)肋膜炎「ショック」、(4)心臟衰弱 (5)癒著、(6)肺損傷、(7)膿胸、(8)過失。

(4)何レノ場合ニモソレヲ豫防シ得ルカ? 然リ 10(12%)然ル場合モアリ、9(11%)、否 43(53%)免レザル場合多シ 6(=7%)、返信ナキモノ 14(=17%)。

(5)胸水ノ滲出ヲ伴フ場合 (a)肋膜癒著ヲ有スル場合、(b)癒著無キ場合。

(a)ニ對スルモノ 43.3%、(b)ニ對スルモノ 33.7%。

(6)滲出液ノ瀦溜ヲ防ギウルカ? (a)横隔膜神經切

除ニヨリテカ、(b)他ノ方法ニヨリテカ。

(a)50(60%)ハ防ギ得ヌ、3(=4%)防ギ得ル、8(=10%)防ギ得ルト言ノコト疑ハシイ、20(=24%)返答不能、1(=0.8%)ハ場合ニヨル。

(b)12(=51%)ハ否定、1: 疑問、1: 可能 20 返答ナシ。

(7)滲出液ハ排除スルカ?ニ對シテ、然リ 49(60%)、24(29%)ハ時ト場合ニヨル、他ハ返答ナシ。

(8)氣胸ニ續發スル膿胸ニ就テノ治療法ニ關シテハ種々ノ報告アリ。

(9)(a)他ニ合併症ナキ膿胸ハソノマ、放置ヘルカ。

(b)ソノ自然吸收率ニ就テ。

a 放置スルモノ 37、否 30

b 37%(35ハ返信ナシ、6 吸收ハシ難イ)

(10)コレ等ノ合併症ハ初期ニ於ケル系統的氣胸療法ヲ防ギウルカ 42.51%ハ然リ、21(26%)ハ否。

(有馬内科 金井抄)

肺結核ノ豫後ニ對スル赤沈ノ度合、血液指數、脈搏ト血壓等ノ意義

K. S. Sandivi: The significance of the sedimentation rate bloodindex, pulse and bloodpressure in the prognosis of the pulmonary tuberculosis. (Tubercle. Feb. 1936)

上記ト諸項ト豫後トノ統計的觀察ナリ。

(有馬内科 金井抄)

肺結核ノ片側人工氣胸ニ於ケル横隔膜麻痺ノ徵候ニ就テ

R. N. Tandon: Some indications for paralysis of the diaphragm in the pneumothorax treatment of uniraterale pulmonary tuberculosis.

氣胸時ニ於ケル横隔膜ノ麻痺ハ當然ノ現象デアリ且ツ目的デアル、ソノ動キノ有様ト麻痺ノ徵候トニ就イテ述べ。(有馬内科 金井抄)

實驗的海環結核ニ於ケル「ヴィタミン」D

J. Zeyland: Vitamin D in the experimental tuberculosis of guinea-pigs. (Tubercle. Feb. 1936)

「ヴィタミン」Dノ結核ニ對スル作用ヲ知ランガ爲メニ著者ハ下記ノ如キ實驗ヲセリ。

40 匹ノ海環ヲ 2 群ニ分ケテ第 1 群ニハ結核菌ヲ 0.05 mg ヲ皮下ニ注射シ翌日ヨリ照射「エルゴステロール」國際 25 單位ヲ隔日ニ投與シタ、第 2 群ハ同様ニ感染

セルモノー結晶「ヴ」D國際單位750ヲ一滴宛隔日ニ與ヘタ。

是等ノ動物ノ生存期間ヲ對照感染動物ニ比スルニ「ヴ、タミン」D投與群ハ極メテ僅カ生存カ長イ様ニ思ハレルガ明瞭ナ差異ハナイ、殊ニ少量投與ノモノハ對照ト何等變ツタコトヲ示サス。(有馬内科 金井抄)

眼結核

R. E. Bickerton: Tuberculosis of the eye. (Tubercle Feb. 1936)

著者ノ經驗セル752人ノ公立盲人學校ノ生徒ニ就イテ結核性ノモノ、主トシテ practical ナ事柄ニ就イテ述ベル。(有馬内科 金井抄)

工業ト結核

P. Heffernan: Industrialism and tuberculosis. (Tubercle. March. 1936)

社會衛生學的ナ立場カラ醫師ハ、ソノ患者ノ職業トシ

レニ特殊ノ關係ヲ有スル疾患ニ深い理解ヲ有タメバナラヌコトヲ強調ス、殊ニ職業ト結核トニ就テ論ジ諸種ノ工業ニ關係シテ文獻ヲ稍；多量ニ掲ゲテキル、

(有馬内科 金井抄)

工業ト結核

E. L. Middleton: Industrialism and tuberculosis

Derbyshire ノ結核技師アアツタ著者ノ體驗ニ基ク報告ナル、同洲ニハ4萬人ノ炭坑夫ガキル同地方ニ於ケル8ヶ年中ニ於ケル肺結核ノ爲メニ同州立「サナトリウム」ニ來タ坑夫ハ385人ナル、中65人ハ45歳以上アアツタ、何レモ硅肺ノ像ハ見ラレナカッタ。コノ比率ハ1000人ニ就キ1.12%ノ割合ニテ平均ヨリ少シク低率ヲ示ス。

炭坑夫ガ何故ニ肺結核ニ罹リ憎イカ、コレハ炭灰ノ微粒子ガ結核菌毒素ヲ吸着又ハ無毒化シテシマフコトニ依ルト prof. Lyle ハ云フ。(有馬内科 金井抄)

結核外専門雜誌

原發性腔結核

Joseph, L. Mc Goldrick (Americ. Journ. of Obst. and Gynec. Vol. 31, No. 4)

著者ハ原發性腔結核ニシテ治療ニヨリ全治セル1例ヲ報告シ居レリ。

患者ハ39歳、既婚ノ夫人。

主訴、5年前ヨリ始マリタル交際時ノ疼痛、腔性白帶下、中等度ノ月經過多。

家族ニ結核ナク又結核患者ニ接シタルコトナシ。

月經過多以外月經、妊娠、分娩共ニ異常ヲ見ズ、腔部ヲ除ク身體他部全テ正常ナリ。

腔粘膜ノ兩側壁及後壁ニ腔穹窿部ヨリ處女膜痕ニ汎ル幅1.5—2.0 樞顆粒狀ノ3ノ潰瘍アリ、表面粘液膿性物質ニテ覆ハル、モ容易ニ除去シ得。邊緣滑ニシテ周圍ニ炎症アリ。觸診スルニ容易ニ出血シ壓痛アリ。膿潰部邊緣ヨリ採リタル切片標本ヲ見ルニ、粘膜ニ小圓形細胞及「プラズマ」細胞ノ浸潤アリ、粘膜下組織ニ小圓形細胞及内皮細胞ヨリ成ル孤立小結節存在シ、且其ノ數個ニ定型的ラングハンス氏巨細胞ヲ含有セリ。腔結核ノ診斷ノ下ニ日々重曹水ヲ以テ洗滌セシメタルニ約5ヶ月ニシテ潰瘍ハ全治セリト。

(名古屋醫科大學産婦人科學教室 松尾龍雄抄)

喉頭結核ノ Cemach 燈療法

A. Connor: Lichttherapie bei Kehlkopf-Tuberculose mit der Cemach-Lampf (Folia oto-laryngologica II. 1935. Bd. 41. H. 6)

Cemach 燈ハ從來ノ間接太陽光線照射法或ハ Kromayer 燈ニ比シ、ソノ構造ノ點ヨリ使用簡單ナル事、患者ガ樂テアル事、喉頭ノドノ部分殊ニ後壁ニモヨク照射シ得ル等ノ利點アルヲ述ブ。

コノ燈ノ效驗ハ勿論照射時間、距離、局所ノ如何ニ關スルモ、粘膜ニテハ希望ノ第一度反應ヲ得ルタメハ接著照射ニテ10秒、壓迫照射ハ3秒、數「ミリメートル」離レテ20—30秒ヲ要ス。

照射過量ナル時ハ水疱形成、火傷起リ頸部ノ燒灼感アリ。嚥下困難ハステニ1回ノ照射ニテ輕快スル事アリ。照射量ハ局所ノ状態、病理解剖の性質、全身免疫生物學的抵抗、肺病變等ニ依リ各人一ツキ決定ス。著者ノ80例テハ免疫の關係ニ悪マレタルモノハ初期ニ用フレバ著效アリ、更ニ進行セル喉頭結核テ増殖性ノモノニハ良ク、増殖性潰瘍ニハ確實ニ奏效ス。滲出性ノモノニハ注意シテ用ヒ、軟骨膜炎ハ無效或ハ禁忌ナリ。

(東大耳鼻科 切替抄)

弧光燈ニヨル喉頭結核療法

I. Romanowska, T. Wasowski: Das Licht der Bogenlampe in der Behandlung der Kehlkopftuberculose (Monatschr. Ohrenheilk. 1936. 70. Jahrgang. 1. H) Wilno 市立病院ニテ著者等ハ Landecker 燈ニテ喉頭ノ局所照射ヲ行ヘリ、照射時間ハ 3—5 分ヨリ 15—30 分ニ及ブ、60 例ニオイトテ、「カタル」性變化、表在性潰瘍或ハ限局性浸潤、及ビ軟骨膜炎アルモノ、3ニ分ケルト約半数ハ輕快ヲ見、軟骨膜炎テ效ナカリシハ肺病變ノ不良ナリシニ歸スベキナラン。

以上ノ症例ヲ肺病變ニヨリテ初期ノモノ、更ニ進行セルモノ、絶望期ニ 3 別スルニ、全身狀態、肺病變ノ進行度ト喉頭照射結果ノ良否トハ大體平行ヲ見ルモ、重要ナルハ全身竝ビニ肺病變ノ惡化ニモ拘ラズ、喉頭ノ輕快ヲ來セル症例アル事ナリ。

肺結核ガ bronchogene Form カ hämatogene Form カニヨリテ喉頭照射ノ結果ニ差ナシ、嚥下困難ニハ效果ナカリキ、病變惡化ノ時ハ一般ニ Biernacki 氏反應高價ヲ示シ、Formel u. Schilling ニハ照射後變化ナシ。
(東大耳鼻科 切替抄)

口腔結核

佐藤重一：(大日本耳鼻咽喉科會會報 41 卷 12 號)
口腔結核ハ甚ダ少ク、ソノ理由ヲ述べ、中ニテ舌最も多シ。

1. 舌結核 自家症例 3、病型ヲバ硬結トシテ生ジ後ニ潰瘍トナル事アル腫瘤狀ノモノ及ビ、潰瘍性、輝裂性散在性多發性ノモノ、4ニ別ツ。男性、壯年ニ多シ豫後ハ必ズシモ不良ナラズ。
2. 舌以外ノ口腔粘膜結核、齒齦ニモ潰瘍性、或ハ増殖性結核來リ、齒牙ハ又口腔結核ノ原因トナル。
3. 唾液腺結核 稀、耳下腺最多、次テ顎下腺アリ。相當硬度ヲ有スル浸潤トシテ現ハレ、時ニ乾酪變性ヲ起シ、囊腫瘻孔ヲ形成スルモ診斷容易ナラズ。
4. 結核患者ノ口内炎 亞布答性口内炎稀ナラズ。
5. 診斷、豫後、治療、癌トハ多發性潰瘍、炎性發赤、頸部淋巴腺ノ模様ニテ、徹毒トハ U 氏反應、局所所見ニテ區別シ、豫後ハ咽喉頭ニ病變アルモノハ不良、治療ニハ藥液塗布、外科的處置、光線療法ヲ全身狀態ニ應ジテ用ヒ、全身療法ニ意ヲ用フルハ言フマタズ。
(東大耳鼻科 切替抄)

鼻結核

佐藤重一：(大日本耳鼻咽喉科會會報 41 卷 12 號)
口腔粘膜ニオケルト同様甚ダ稀ニテ肺結核患者ノ 0.1

—0.2%ノ割合ニ發生ストノ報告多シ。

鼻結核 5 例、鼻狼瘡 3 例合セテ 8 例ヲ報ズ。

考察トシテ男子ヨリ女子ニ多シト云ハル、モ鼻結核ハ著者ノ場合全部男ニテ、年齢ハ 17 ヨリ 51 歳ニ及ビ鼻結核ハ肺結核ノ相當進行セルモノニ合併スル事多シ。

自覺症狀ハ初期殊ニ狼瘡ニテハ現ハレズ進行セバ乾燥感緊張感、痂皮形成、疼痛、出血、鼻閉、流涙、下眼瞼浮腫等ヲ來ス。

腫瘍型、潰瘍型ノ 2 ツニ分ツガ破壊作用顯著ニテ上顎竇、篩骨蜂窩ニマテ及ブモノアリ。

診斷ハ原發性ノトキ最も困難ニテ、濕疹、乾性前鼻炎、特發性穿孔、徹毒、肺瘍ト區別スベシ。

豫後ハ鼻結核ニ惡ク狼瘡ハ可良、治療ハ外科的處置最も良ク其他藥劑塗布、光線療法ヲ行フ。

(東大耳鼻科 切替抄)

疣贅型紅斑性狼瘡

Glaubersohn: Über die verruköse Form des Lupus erythematodes (Dermat. Wschr. Bd. 102. Nr. 6. S. 172. 1936)

疣贅型紅斑性狼瘡ハ比較的稀ナル。此處ニ報告スル患者ハ 48 歳ノ農夫デアリ、問診ニ依レバ最初ノ妻ハ結核ヲ死亡シ、小兒期ニ患者ハ麻疹痘瘡「ロイマチス」等ニ侵サレ、長ジテ感冒、「コレラ」ニ侵サル。

現症ハ三年前兩頬ニ小發疹ヲ生ジ次第ニ擴大シ、終ニ鼻背ヲ侵ス。軟膏療法、蒼鉛注射ハ共ニ效果ガ無イ。局所所見トシテ、貨幣大ヨリ小兒手掌大ノ病竈ガ鼻背、兩頬、兩耳翼、下顎關節、胸骨部等ニ在リ、胸骨部、兩耳翼、下顎關節等ハ定型的ノ紅斑性狼瘡ナル。之ニ反シ、兩頸ニ於テハ卵圓形、或ハ圓形ノ病竈テ、大サハ 3×5 cm 汚穢灰白色ヲ呈シ、中心部ハ高度ノ疣贅狀肥厚ヲナシ、皮溝著明ナル。病竈ノ周圍ハ小鱗屑ヲ有スル狭イ赤色ノ邊縁アリ、此兩病竈ヲツナグ鼻背ノ病竈ハ萎縮ス。

血液検査ノ結果ハ血球數竝ニ種類ニ變化無ク、U 氏反應陰性、Billker 氏反應陰性ナル。組織的検査ニ依レバ角質増殖、乳頭體肥大ガアル。

斯クノ如キ形ノ紅斑性狼瘡ハ非常ニ稀デアリ、診斷ニモ困難ナル。何故ニ疣贅狀ニナルカト云フ原因ニ就テハ色々議論ガアリ一定シナイ。(例ヘバ、局所ニ肥厚スル性質アリトナシ、或ハ先天的素因、或ハ光線ノ作用、毒素ノ作用等々)。(千葉醫大皮膚科 齋藤抄)

非定型的全身性紅斑性狼瘡ト Auro Detoxin ヲ

以テスル紅斑性狼瘡及ビ其他ノ皮膚疾患ノ治療

A. Pillokat: Ein ungewöhnlicher Fall von Lupus erythematodes generalisatus, zugleich ein Beitrag zur Therapie des Lupus erythematodes und anderer Dermatosen mit Auro-Detoxin Dermat Wschr. Bd. 102. Nr. 7. S. 193. 1936)

紅斑性狼瘡ノ診斷ハ屢ニ非常ニ困難ナル場合ガアル。此處ニ報告スル症例ハ一部分ハ定型的ノ紅斑性狼瘡ヲ有シ、大部分ノ皮膚ハ診斷不明デアツタガ Auro-Detoxin ナル同一ノ製劑ニ依ツテ共ニ治療シ、逆ニ紅斑性狼瘡ナリト推定シタ興味アル症例デアアル。

患者ハ 12 歳ノ男子ニシテ衰弱ス。4 年前屢ニ日光浴ヲナシタル後右眼上方竝ニ背部ニ癢痒性ノ皮膚ヲ生ジ次第ニ顔面全體ニ擴ガリ、又胸部及ビ兩上膊ニ處々同一ノ皮膚ヲ生ジ、當時患者ハ輕度ノ全身症狀ヲ訴フ。

現在ノ皮膚ハ顔面、頭部有髮部、胸部、背部、兩上膊、兩手背等ニアリ、顔面竝ニ頭部ニ於ケル皮膚ハ定型的ノ紅斑性狼瘡デアアル。胸部、背部ハ一面ニ皮膚ヲ生ジ兩上膊ハ少數デアアル。個々ノ皮膚ハ貨幣大テ中心ハ灰白色ニ萎縮シ、灰褐色ノ線ニカコマレ、此又周圍ニ落屑ヲ有スル稍ニ廣イ部分ガアリ、最後ニ廣サ約 2 mm ノ堤狀ノ紅褐色ノ邊緣ガアル。

内科的ニハ結核ノ疑ナク、ワ氏反應、ビルケー氏反應共ニ陰性、赤血球沈降速度ハ進行ス。血液ヨリノ培養成績ハ常ニ陰性デアツタ。血液像ニ於テハ高度ノ二次的貧血ヲ呈シ、且ツ高度ノ赤血球不同症(anisocytose)多色染色性(Polychromasie)アリ、時々正常赤血球母細胞(Normoblasten)竝ニ核ノ無イ巨大赤血球(Megalocytin)ガ表ル。斯カル結果カラシテ内科醫ハ慢性傳染病ヲ考ヘ、病理學者モ頸部淋巴腺ノ組織的検査ニ依リ同様ニ慢性傳染病ヲ考ヘタ。

然ルニ顔面、頭部有髮部位ノ皮膚ハ定型的ノ紅斑性狼瘡デアアル。背部ノ皮膚ニ就テハ我輩ハ Erythema perstans annulare et gyratum ニ屬スル慢性中毒性紅斑ヲ考ヘタ。組織的ニハ顔面ノ皮膚ハ紅斑性狼瘡ノ定型的像ヲ呈スルガ、背部ノ組織ハ全然ト別個ニシテ診斷不明ナリ。

斯クシテ此モノニ對シテ金製劑ナル新藥、Auro-Detoxin ヲ試ミタル處、從來ノ金製劑ニ比較シテ數等卓越セル效果ヲ示シタ。定型的紅斑性狼瘡ノ症狀ヲ呈セル

顔面、頭部等ノ病竈ハ輕度ノ癢痕ヲ殘シテ完全ニ治療シ、背部、胸部其他診斷不明ノ病竈モ完全ニ消失シタ。同時ニ又血液所見ニ於テモ皮膚ノ消褪ト共ニ健康像ニ歸ツタ。

此結果カラ考ヘテ逆ニ總テノ病竈ハ紅斑性狼瘡デアツタデアラウト考ヘタ次第デアアル。

尙 Auro-Detoxin ヲ以テ紅斑性狼瘡 7 例、天疱瘡 3 例、壞疽性丘疹狀結核疹 1 例、鼠蹊淋巴肉芽腫 1 例ノ治療ヲ試ミタルニ皆好結果ヲ得タ。

(千葉醫大皮膚科 齋藤抄)

狼瘡ノ太陽光線竝ニ高山療法

A. Rollier: Sonnen-und Höhenluftbehandlung des Lupus (Derm. Ztschr. Bd. 71. Heft. 6. S. 237)

Finsen 氏ハ狼瘡ノ太陽光線竝ニ高山療法ノ創始者デアアルガ、又 Bernhard 氏ハ Samaden ニ於テ狼瘡患者ノ局所ヲ太陽光線ヲ以テ照射シテ好結果ヲ得テ居ル。余ハ狼瘡患者ノ局所ノミナラズ、全身ノ日光光線ノ照射ヲ行ヒ極メテ顯著ナル治療ヲ來タシタ。

元來日光光線ノ照射ハ局所ノ血管ノ擴張ト血液ノ充滿ヲ來タシ、又血流ノ遲延ヲモ來タシ、局所竝ニ其周圍ノ皮膚ノ溫度ヲ高メル。此作用ハ細菌ヲ殺シ、有毒物ヲ無毒ニスル作用ガアル。傳染性疾患ニ對シテ皮膚ハ又保護作用ヲナス。Müller 氏ノ實驗ニ依レバ皮膚ノ刺戟ハ内臟器ト皮膚トノ間ノ白血球分布狀態ノ變調ヲ來タシ、皮膚ニ白血球ノ増加スル事が見ラレテ居ル、尙多クノ學者ニ依レバ皮膚ハ免疫體ノ生成サレル場所デアアルト云ハレ、E. Hoffmann 氏ハ「ホルモン」ノ分泌サレル場所デアアルト云ヒ、Bloch 氏ハ「アレルギー」ノ發生スル場所デアアルト云フ。Hoffmann 氏ノ「エソフィラキシー」(Esophylaxie) ナル見解ニ從ヘバ皮膚ハ外來刺戟ニ對シテ保護作用ヲ有スルバカリテナク、又傳染性疾患ノ場合ニ之ヲ治療セシメル物質ヲ分泌スル。

斯クシテ余ハ狼瘡ノ局所ノミナラズ、全身ノ日光浴ヲ用フル次第デアアル。Finsen 氏ハ氏ノ療養所ニ於テ全身浴ヲ用フル事ニ依ツテ以前ヨリ 20—30% 治療成績ヲ向上セシメタト云ツテ居ル。

從來ノ余ノ經驗ニ從ヘバ次ノ 3 點ガ主要點ヲナシテ居ル。(1) 全身ノ日光浴。(2) 局所ノ照射。(3) 適度ノ營養。

(1) 全身日光浴ハ常ニ大氣療法ト結合シテ考ヘナケレバナラナイ。

照射ノ方式ハ初メ四肢ヨリ始メ、第 1 日ハ兩足ヲ 5 分間ツツ 10 分間ノ間隔ヲ置イテ 3 回照射スル。第 2 日ハ同様ノ間隔ヲ以テ兩足 10 分間、3 回照射ノ外、兩下腿ヲ 5 分間ツツ 3 回照射スル。第 3 日ハ兩足 15 分間 3 回、兩下腿 10 分間 3 回、兩大腿 5 分間 3 回照射スル。斯クシテ次第ニ上方ニ及ビ、終ニ頭部ヲ除キ全身ヲ照射スル。背面モ同様ニシテ照射スル。斯クシテ皮膚が適當ニ色素ヲ有スル様ニナレバ最長夏期 2—3 時間、冬期 3—4 時間マデ漸次時間ヲ延長スル肺結核ヲ合併シテ居ルモノハ時間ヲ少クハルガ、輕度ノ體温上昇ハ日光浴ニ對シテハ禁忌トナラナイ。

(2) 局所ノ日光照射ハ永イ期間ノ内ニ徐々ニ習慣ツケル必要ガアル。2—3 日間ノ照射ヲ以テ始メ、之ヲ繰返シ、次第ニ時間ヲ延長シテ 15—20 分位 3 回照射シ、終ニハ全身浴ノ約 $\frac{1}{3}$ 位ヲ最長ノ照射時間トシテ用フ。粘膜炎ハ直接照射シ、或ハ擴張器ヲ用ヒ、或ハ反射裝置ヲ應用スル。

(3) 榮養ハ主ニ野菜食ヲ以テ取り、酒、煙草ヲ禁ズル。

以上余ノ方法ニ依ル成績ヲ見ルト、日光療法ハ潰瘍ヲ乾燥セシメ、充血ハ去リ、狼瘡結節ハ消失スル。瘻痕ハ軟カク下部組織ト癒著シナイ。粘膜炎痕跡ナク治癒スル。局處ノミナラズ筋肉ハ發育シ、皮膚健康トナリ、血液像ハ健康トナツタ。(附、症例數ハ記載ナキモ 3 例ノ寫眞ヲ掲ゲ、治療前後ヲ比較シ完全治癒ノ狀ヲ示セリ)。(千葉醫大、皮膚科 齊藤抄)

尋常性狼瘡上ニ生ジタ巨大細胞肉腫

Stephan Epstein: Riesenzellen-sarkom auf Lupus vulgaris. (Derm. Ztschr. Bd. 73. Heft 2. S. 66)

尋常性狼瘡上ニ肉腫ノ生ズル事ハ極メテ稀デアアル。患者ハ 68 歳。30 年前ヨリ鼻尖部ニ尋常性狼瘡ヲ生ジ翌年鼻尖竝ニ左頬部ノ潰瘍性狼瘡ナル診斷ノ下ニ我々「クリニック」ニ於テ治療シタ。治療ハフィンゼン燈水銀石英燈、竝ニ「レントゲン」ノ照射ヲ行ヒ、約 8 ヶ年後ニ一旦治癒ス。翌年再發シテ其後 9 ヶ年間再ビ治療ヲ行フ。然ルニ 3 年前鼻尖ニ一ツノ腫瘍ヲ生ジ次第ニ増大ス。

鼻尖ニハ貨幣大ノ狼瘡ノ病竈ガアリ、此病竈ノ上ニ 3 ヶノ櫻實大ノ結節アリ、一部分潰瘍トナリ、色ハ紫色ヲ帶ベル赤褐色デアアル。結節ハ境界明瞭テ下部トハ移動シナイ。此外左頬竝ニ右下顎ニハ舊狼瘡ノ病竈ガアリ、口蓋ニハ狼瘡結節ガアル。

内科的ニハ兩側殊ニ左側ニ硬變セル結核病竈ト肋膜炎後ノ癒著ガアル。「ツベルクリン」反應ハ陽性デアアル。

組織學的ニハ健康部トノ境ニ表皮ノ異常ナル増殖アリ、之ニ續イテ腫瘍ノ増殖ガアル。腫瘍ノ表面ハ潰瘍トナリ、腫瘍ハ巨大細胞ヲ多數ニ有スル紡錘細胞ヨリナル。巨大細胞ハラングハンスノ巨大細胞ニ似テ居ル。核分裂ハ處々ニ之ヲ見ル。

治療ハ「デアテルミー」ヲ以テ切除シ、基底部ヲ凝固セシメタ處、治療後ノ瘻痕ハ極メテ良好テ、且ツ再發モ見ナイ。

即チ本症例ハ狼瘡上ニ發生シタ肉腫デアリ、特ニ巨大細胞ノ多數ニ存在スル事ガ組織的ニ狼瘡肉腫ノ特徴デアアル。本症例ニ於テハ以前「レントゲン」照射ヲ多ク行ツテアルノテ、或ハ肉腫發生ノ原因トナツタノテハナカロウカト思ハル。(千葉醫大、皮膚科 齊藤抄)

皮膚疣贅結核ト疣狀紅色苔癬トガ同時ニ表レタル例

H. Hruszek: Über gleichzeitiges Vorkommen von Tuberculosis verrucosa cutis und Lichen ruber verrucosus. (Derm. Ztschr. Bd. 73. Heft 2. S. 71)

患者ハ 59 歳ノ屠殺業ノ男子。今ヨリ 7 年前屠殺中ニ右中指ニ傷ヲ受ケタ事ガアツタ。之ハ瘻痕ヲ以テ治療シタガ直チニ此瘻痕ヨリ疣贅ヲ生ジタ。翌年ニハ同様ノ疣贅ガ兩手、兩指ニ生ジテ今日ニ到ル。此外副所見トシテ右側下腿ニモ皮疹ガアル。

體格ハ中等度、榮養狀態良好テ内景竝ニ粘膜炎ニ異常ヲ認メナイ。

兩手竝ニ指ノ皮疹ハ一部ハ孤立シ、一部ハ集合シテ疣狀ノ變化ヲナシテ居ル。病毒ノ侵入シタト思ハレル右中指ハ全體ニ互ツテ皮疹ヲ生ジテ居リ、左手ニ於テハ疣狀ノ皮疹ハ散在性デアリ、母指基部竝ニ示指、中指、小指等ノ基部ニ存在ス。

是等ノ疣狀皮疹ハ臨牀的竝ニ組織學的ニ明ニ手指皮膚疣狀結核デアアル。

右側下腿ニアル病竈ハ手掌大テ不正形ヲナシ、色ハ褐色デアアル。此中ニ半圓形ノ丘疹、或ハ疣狀ノ皮疹ガアリ、大キハ扁桃大ヨリ豌豆大テ病竈ノ中心部ハ集合シ周邊ハ孤立性ニ存在ス。是等ノ皮疹ハ臨牀的竝ニ組織學的ニ下肢疣狀紅色苔癬デアアル。

ワ氏反應陰性。「ツベルクリン」反應ハピルケー陽性ナタンニカロー陽性デアアル。

文獻のニ皮膚疣狀結核ト疣狀紅色苔癬トガ屢々同時ニ發生スル事ガ述ベラレテ居ルガ、之ハ唯一ツノ原因ニ依ルモノテナク、少クトモ3ツノ因子ガ考ヘラレル。其一ハ結核菌ノ慢性刺戟竝ニ紅色苔癬ノ病毒(?)

ノ慢性ノ刺戟ナアリ、其2ハ局所ノ因子即チ四肢デアルト云フ事ナアリ、其3ハ先天ノ素因ナアル。

(千葉醫大、皮膚科 齋藤抄)

一般學術雜誌

結核ニ起因スル漿液性肝炎ハ存在スルヤ

W. Berger, O. Riml & F. Hausbrandt: Gibt es eine Hepatitis serosa mit tuberkulöser Ätiologie? (Zeitschr. f. Klin. Med. Bd. 129, H. 5/6, S. 637-658, 1936)

レスレ、エツピンゲン等ニヨリテ唱導セラル、漿液性肝炎ハ肝臟病理ニ一新生面ヲ招キタルモノト云フベシ。多クノ臟器ニ於テ漿液性炎症ノ原因トシテ第1ニ舉ゲラル、モノハ結核ナリ。從ツテ漿液性肝炎モ亦結核ニヨリテ惹起セラル、コトナキヤ。著者等ハ先ヅコノ問題ノ解決ニ對シテ興味アル3例ノ臨牀例ヲ掲ゲタリ。

1. 結核性關節「ロイマチスムス」ニ現ハレタル所謂加答兒性黃疸。

30歳ノ男子。關節疾患ノ遺傳的關係アリ。患者ハ10歳ノ時第1回ノ關節疾患トシテ一過性ノ左側股關節炎ヲ訴ヘ10日間就牀ス。21歳ノ時外科ノ結核病棟ニ勤務中腰椎關節炎ニ罹ル。當時又左側肺尖ノ變化ヲ發見セラレ「ツベルクリン」療法ヲ行フ。24歳ノ時腕關節及ビ指關節ノ疼痛ヲ訴フ。28歳ノ時認ムベキ食餌上ノ過失ナクシテ加答兒性黃疸ニ罹リ、約8週間皮膚ノ黃染アリ。同時ニ第4回目ノ關節疾患トシテ多數ノ指關節ノ疼痛腫脹ヲ來シ、第3週ニハ兩側腕關節モ侵サレタリ。關節ノ變化ハ黃疸消滅後モ繼續シ、兩側ノ肩關節、膝關節ニモ波及シテ遂ニ翌年ニ及ビ(29歳)、更ニ左側股關節及ビ腰椎ヲモ侵カシ、コレト共ニ無熱性氣管-氣管枝炎現ハレ咯痰中ニ結核菌ヲ證明シ、レントゲン検査ニテ右肺尖下ニ櫻實大ノ空洞ヲ發見ス。結核菌血ヲ見ズ。靜養ニ努メ良好ナル經過ヲトレリ。著者等ハ開放性結核ニ先行セル黃疸及ビ多發性關節炎ヲバ結核ニ關係アリトナシ、黃疸ノ基礎ヲバ、結核ニヨル漿液性肝炎ニ求メタリ。

2. 空洞性肺結核症ニ續發セル黃疸性肥大性肝硬變

症。

40歳ノ男子。結核ノ遺傳的素因アリ。20歳、22歳ノ時發熱、倦怠、咳嗽、心臟障礙アリ。39歳ノ頭初ヨリ又同様ノ訴ヘアリ、6月閉鎖性肺結核、筋炎ノ診斷ノモトニ4週間某病院ニ入院輕快セルモ、爾來以前ノ健康ニ復セズ。40歳ノ2月盜汗、羸瘦、咳嗽、咯痰、夜盲症ヲ訴ヘ、8月ニ至リ増惡、コレト共ニ黃疸出現シ3月末再ビ某病院ニ入院ス。當時ノ診斷ハ夜盲症、黃疸、開放性結核ニシテ、38°C以上ノ發熱ヲ見ル。右肺尖野ニ空洞アリ。肝ハ肋骨弓下4横指ニ觸レ、脾濁音ハ肋骨弓ニ達ス。側腹下部ニ靜脈ノ擴張ヲ證明ス。5月末輕快退院セシガ、1週間ノ後夜盲症ノタメグラーツ大學眼科ニ入院、更ニ内科ニ移サル。當時發熱(38.5°C)、肺所見ノ外皮膚ハ強ク黃染シ、高度ノ肝性口臭アリ。上腹部ハ膨隆シ、靜脈ハ怒張ス。肝ハ肋骨弓下手幅大ニ觸レ壓痛アリ。脾モ少シク觸ル。糞便ハ脫色シ尿ニハ多量ノ「ビリルビン」、痕跡ノ「ウロビリノーゲン」、弱陽性ノ「ミロン氏反應」ヲ證明セルモ沈渣ニ「ロイチン」、「チロジン」ノ結晶ヲ見ズ。「カラクトーゼ」、「レブローゼ」反應ハ共ニ陰性ナリ。血液ワ氏反應ハ陰性ナレ共、血液中ヨリ結核菌ヲ證明ス。著者等ハ種々ナル考案ノ結果コノ例ヲバ結核ニヨル漿液性肝炎ヨリ肥大性肝硬變症ニ移行セルモノトナセリ。

3. 「ロイマチスムス」性僧帽瓣膜障礙患者ニ於ケル「ツベルクリン」塗擦ニヨル加答兒性黃疸ノ誘發。

50歳ノ男子。結核ノ素因アリ。15歳ノ時肺尖結核、20歳以來強壯トナレリト雖モ、潛行性ニ僧帽瓣膜障礙發生ス。近來血管性障礙(眩暈、扁頭痛、狭心症)、關節ノ「ロイマチスムス」性疼痛ヲ訴フ、レントゲン所見ニテハ肺ニ陳舊ナル初期變化群、兩側肺門部ノ硬化ヲ證明ス。心臟ニハ僧帽瓣閉鎖不全ニ相當スル雜音ヲ聽ク。著者等ハ患者ノ結核性ノ遺傳的關係ヨ

り、ソノ關節及ビ心臟ノ變化ヲバ結核性ナルベシト思惟シ、試ミニ1%「アテパン」ノ塗擦ヲ行ヒタルニ7週間ニ亙ル重キ黃疸ヲ惹起シタリ。惟フ一本例ノ關節ノ障礙ハ結核ニヨル漿液性炎症ニシテ、コレト共ニ肝臓ニモ潜在性漿液性炎症存在セシガ「アテパン」ノ作用ニヨリテ黃疸ヲ誘發セシメラレタルモノナルベシ。以上ノ觀察ヨリ著者等ハ結核ニヨル漿液性肝炎ノ存在ヲ肯定セントシ、且コレト關聯シテ肝臓ニ來ルベキ結核ノ種々ナル病型ニ就キテ詳述セリ。

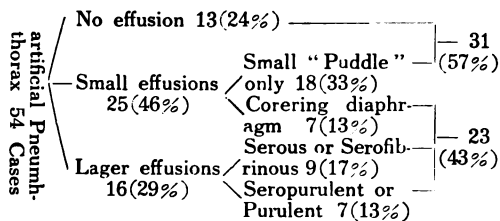
(長崎醫大、内科 角尾抄)

人工氣胸ニ於ケル肋膜滲出液ノ出現

David B. Rosenthal: The Incidence of pleural Effusion in artificial Pneumothorax (Brit. med. Journ., Jan. 18 th 1936. No. 3915)

人工氣胸ノ際ニ於ケル肋膜滲出液ノ發生ハ、Burrellニヨルト、309 例中 128 例ニ於イテ(42%)ソノ中、36 例ニ於イテ膿胸ヲ發生シ、Riviereニヨルト、50%ニ於イテ、Saugmanニヨルト 67.2%ニ於イテ、Weinsteinニヨルト 7.0%ニ於イテ、Rist 及ビ Naveanニヨルト 52%ニ於イテ、Braunsニヨルト唯 5%ニ於イテ、Morrison Daviesニヨルト少クモ 50%ニ於イテ、Jamesニヨルト通常 40%ニ於イテ之ヲ見テキル。

著者ノ 54 例ノ人工氣胸ノ例テハ次ノ通りデアツタ。



滲出液出現ノ主ナル原因トシテハ、

- (1) 肋膜ヲ度々刺穿スル刺戟ニヨリ、
- (2) 肋膜腔内ニ種々ノ外物、例ヘバ、空氣、酸素、窒素、炭酸瓦斯等ノ注入ニヨリ、
- (3) 肋膜腔内ノ高壓ニヨリ、
- (4) 癒著ノ剝離ニヨリ、

等ガ考ヘラレルガ、更ニ、滲出液ガ少量ナル場合ハ單ナル外傷ニ原因シ、多量ノ場合ハ外傷ニ感染ガ伴フコトガ考ヘラレル。

治療ニ就テハ、先ヅ豫防法テハ、

- (1) 注意深ク適應例ヲ選ブコト、

- (2) 腸壓ヲ避ケルコト、
 - (3) 虚脱ガ充分行ハレズ時ハ中止スルコト、
- 等デアツテ、(1)、滲出液ガタマツタ場合ニハ、
- (1) Cacl₂ノ注射、
 - (2) 液ガ少量デアラナラバ、氣胸ヲ續ケ、場合ニ依ツテハ、少量ヲ吸引スル、
 - (3) 液ガ大量デアラナラバ、液ヲ吸引シテ空氣ヲ入レネバナラス。虚脱ガ不充分デアラナラバ、外科的ノ手段ニ待ツ。
 - (4) 液ガ、膿狀トナツタラ、外科的治療ニ依ル。

(小野寺内科 貝田抄)

片側性肺「フ、プロージス」ニ基ク嚥下困難症

Alex. T. Doig: Dysphagia due to unilateral Pulmonary Fibrosis. (But. Med. Journ. March. 7th 1936. No. 3922)

著者ハ一側、殊ニ左側ノ肺「フ、プロージス」ニ依ツテ起ツタ嚥下困難ノ例ニ就イテ記述シ、是等ハ食道ノ變位及ビ振轉ニヨツテ起ルモノデアツテ、症狀ガ高度ノ場合ニハ、胸廓成形術ハ少クモ理論的ニハ合理的デアラウト述ベテキル。

スタツホードシヤニ於ケル牛型結核菌ニ由

來スル人結核ニ就イテ

A. Stanley Griffith and J. Menton: Human Tuberculosis of Bovine Origin in Staffordshire. (Brit. Med. Journ. March 14th. 1936. No. 3923)

著者等ハ、6 例ノ頸部淋巴腺結核、29 例ノ骨及ビ關節結核、12 例ノ腦膜炎、2 例ノ腎臓結核 230 例ノ肺結核ニ就イテ、各ソノ膿汁、腦脊髄液、尿、喀痰ニ就イテ細菌學的ノ検査ヲ施行シ、次ノ結果ヲ得タ。

頸部淋巴腺結核ノ 6 例、腦膜炎ノ 5 例、骨及ビ關節結核ノ 10 例ハ牛型結核菌ニ基クモノデアリ、肺結核テハ僅ニ 2 例ガ牛型菌デアツタ。

(小野寺内科 貝田抄)

肺結核ノ治療ニ於ケル胸廓成形術ニ就イテ

F. H. Young: Thoracoplasty in the Treatment of Pulmonary Tuberculosis. (Brit. Med. Journ. April. 4th. 1936. No. 3926)

英國ニ於イテ、近來、數年ノ間ニ肺結核治療ニ於ケル胸廓成形術ノ例數ハ、非常ナル増加ヲ示シタ。從ツテ又、手術ニ適應シナイ患者ニ、胸廓成形術ガ施行サル危険ガ増シタコトハ否メヌコトデアル。本手術ハ他ノ何レノ手段モ奏效シナイ凡テノ肺結核ニ於イテ考

ヘラレネバナラメカ、然シ、次ノ條件ヲ満足スルカ否カニ、先ヅ十分考慮カ拂ハレネバナラメ。

- (1) 胸廓成形術ニヨリ病竈ガ癒リ得ルモノテアルカ否カ、
- (2) 若シ他側ノ肺ニ病竈ガアルナラバ、非活動性ノモノテアルカ否カ、
- (3) 見掛ケ上健康ノ肺野ニ、新鮮ナル病變發生ノ危懼ナキヤ否ヤ、
- (4) 患者ハ手術ニ堪エ得ルヤ否ヤ、
- (5) 患者ノ状態ハ手術ニ最適ノ時期テアルヤ否ヤ、
- (6) 更ニ手術者側ノ條件ニ申シ分ナキヤ否ヤ、
- (7) 手術ノ結果機能障礙ヲ起シテモ、患者ニ異論ナキヤ否ヤ。

(小野寺内科 貝田抄)

潜伏性成人結核

R. C. Wingfield and A. Margaret C. Macpherson: Latent adolescent pulmonary Tuberculosis (Brit. Med. Journ, April 11 th, 1936. No. 3927)

吾々ノ結核療養所ヲ訪レル若成年ノ比較ノ大部分ノモノガ、既ニ高度ノ結核ニ侵サレテキルト云フ事實ハ忽セニナラス。カ、ル患者ノ大多數ノモノハ、肺ノ病變ニ比較シテ、症状ガ軽度テアルノヲ普通トスル。即チ、多クノ患者ハ病氣ガ十分擴ル迄治療ヲ受ケニ來ナイノテアル。コノ原因ハ、肺結核ガ、ソノ進行ノ永イ間ニ於イテ、屢々、症状ヲ示サナイコトニ基ク。余等ハ14歳カラ21歳迄ノ都會及ビ半都會ノ勞動階級ノ青少年2,381例ニ就イテ、「レントゲン」検査ヲ行ツタ。ソノ結果、0.65%ニ於イテ、明ニ結核性ノ變化ヲ認め、尙結核ノ疑ハシキモノヲ合ハセルト1.08%ニ達シタ。

翻ツテ、他ノ諸國ニ於ケル検査ノ結果ヲ見ルト、合衆國ニ於イテハ、H. Hetherington 及ビ F. McPhedran ハ學生ノ3.9%ニ、W. B. Scoper 及ビ J. Wilson ハ1.8%ニ、R. H. Steihm ハ1.5%ニ於イテ潜伏性結核ヲ見、New York テハ求職勞動者ノ1%ニ之ヲ見タ。獨逸テハ2%ニ、スウェーデンテハ4—5%ニ、支那テハ17.9%ノ多キニ達シテキル。

以上ノ事實ハ、十分考慮カ拂ハレル可キ問題デアラウ。

(小野寺内科 貝田抄)

陰性「ツベルクリン」皮下反應試驗ノ價值ニ就イテ

Robert Carswell: Value of the negative Subcutaneous Tuberculin Test. (Brit. Med. Journ. May 16th, 1932. No. 3932)

N. Lindborg が Swedisch Journal Hygiea ニ於イテ「ツベルクリン」皮下反應陰性ノ肺或ハ肺内部ノ活動性結核ヲ疑ハシメル患者66例ノ中、11例ハ後程活動性ノ結核ヲ起シタガ、ソノ中、5例ハ1年以内ニ發病シ、而モ1例ハ3ヶ月以内ニ肋膜炎ヲ起シ、1例ハ陰性反應後3ヶ月—シテ、肋膜炎ヲ起シテ死亡シタトノ興味アル統計ヲ發表シタ。

Lindborg ハ論及シテ、是等ノ5例ノ實例ヨリ見ルモ、陰性ノ反應ガ常ニ臨牀ノ所見ト一致スルトハ限ラズ、尙又、近キ將來ニ於イテ結核性疾患ガ勃發スル可能性ヲ除外スル譯ニハ行カスト述ベテキル。Lindborg ノコノ論說ハソノ後、Parker ソノ他ノ人達ノ支持ヲ得テキルト冒頭シ、Koch ガ1901年ニ發表シタ、例ノ「ツベルクリン」ハ適當ニ使用スレバ97—98%ノ適中率ヲ得ルトトノ原著ニ就キテ批判スル所アリ、更ニ、夫等ニ關シテ Kettelkamp, Lawrason Brown and F. Heise, McFadyeau 等ノ見解ヲ参照トシテ紹介シテキル。

(小野寺内科 貝田抄)

肺膿毒ニ就イテ

武井右馬之輔: 滿洲醫學雜誌第24卷第1號(昭和11年1月11日)

著者ガ經驗シタル1例ニ就テ報告シ、併セテ從來本邦—テ報告セラレタル51例ト外國例45例トニ就テ統計ノ觀察ヲ行ツテキル。

(大連 佐々抄)

滿洲ニ於ケル氣候ト疾病ニ關スル統計學的研究

川人定男: 滿洲醫學雜誌第24卷第3號(昭和11年3月11日)

本論文ハ著者ガ標題ニ就テ爲シタル廣汎ナル研究報告ニシテ興味深キモノテアル。

内結核ニ關シテハ次ノ如ク述ベテキル、即チ、「結核ハ氣温ト逆相關、濕度トハ順相關アリテ、何レモ有意義ナリ。即チ平均氣温低キ都市程結核多ク、濕度低キ程結核少ナキ事ハ略々確實ナリ。較差トハ順相關アルガ如キモ氣温ヲ一定ニスレバ無意トナル」。尙、「呼吸器病ハ各氣候要素トノ相關低ク何レモ無意ナリ。但シ肺炎ハ氣温ト逆相關、濕度ト順相關ヲナス點結核ト同様ナリ」ト云ツテキル。

(大連 佐々抄)

抗酸性菌ノ靜脈内注入ニ因ル海猿諸臟器ノ早期組織反應並ニ菌ノ分布ニ就テ

林明、久持義明、山元盛弘: 滿洲醫學雜誌第24卷第4號(昭和11年4月11日)

著者等ガ本實驗ニ用ヒタル菌ハ人型結核菌、牛型結核

菌、鳥型結核菌、BCG、鼠痲菌及「チモテ」菌ノ6種ニシテ、詳細ナル實驗ノ結果次ノ如ク結論ス。

(1)菌ノ檢出ハ各菌種ヲ通ジ24時間以內肺、肝及脾臟ニ多シ、而シテ肝及脾臟ニハ時間ト共ニ其數増加スレドモ肺臟ニアリテハ然ラズ。7日以後ニハ菌種ニヨリ其成績區々タルモ人型結核菌及牛型結核菌ハ増加シ、其他ノモノハ減少又ハ檢出陰性トナル。(2)各菌種共ニ初期肺臟毛細管内ニ滯留シ、之ニ多核白血球が蟻集シ、且、之ヲ貪喰ス。次テ單核細胞出現シ漸次其數ヲ増シ、喰菌ス。7日以後ノ所見ハ菌種ニ因リテ異リ人型結核菌竝ニ牛型結核菌ハ結核竈ヲ形成スルニ反シ、其他ノモノハ結節吸收セラル。(3)肝臟ニテハ菌ハ先ツ星芒細胞ニ攝取セラル。其他多核白血球内ニモ存ス。人型結核菌及牛型結核菌ニ因ル結節ハ進行性ナルニ反シ其他ノモノハ早晚吸收セラル。(4)脾臟ニテハ初メ菌ハ網狀織内被細胞ニ喰菌セラル脾竇ハ充盈ス。7日以後脾髓組織ハ増殖シ、人型結核菌及牛型結核菌ニテハ結核竈ガ形成セラル。(5)腎臟、菌ノ檢出少ク、血管ノ充盈セルヲ見タルノミ。(6)骨髓、菌ハ網狀織内被細胞ニ攝取セラシ、骨髓巨態細胞ハ初メ減少シ後増加ス。

(大連 佐々抄)

結核菌及ビ非病原性抗酸性菌ノ「味ノ素」加Kirchner氏培地内發育ニ及ボス金屬鹽類ノ影響

滿洲醫學雜誌第24卷第5號(昭和11年5月11日)

本研究ニヨル著者ノ總括及考按ハ次ノ如シ。

10種ノ金屬化合物ニ就キテキルヒナー氏液體培養基上ニ於ケル結核菌竝ニ非病原性抗酸性菌ノ發育阻止力ヲ檢シタリ。

是等金屬鹽化物ヲキルヒナー氏液體培地ニ加フル時、

BaCl₂, ZnCl₂, AlCl₃, MnCl₂, FeCl₃, CoCl₂ニハ沈澱ヲ生ズ。CuCl₂, MgCl₂, NiCl₂ノ3種ニ於テハ沈澱ヲ生セズ。

金屬鹽類ハ其種類ノ異ナルニ從ヒ各菌株ノ蒙ル影響モ亦同一ナラズ。概シテ金屬鹽類ニ對スル抵抗力ノ強サハ「K151」菌、「チモテ」菌、鳥型菌、蛙結核菌、牛型菌、人型結核菌ノ順位ニアリ。

一般ニ結核菌ニ對シ發育阻止力強キモノハ非病原性抗酸性菌ニ對シテモ亦強シ。唯鹽化「カドミウム」ハ蛙結核菌ニ對シ、他ノ菌種ニ比シ強ク作用スルモノ、如シ。

是等金屬鹽類ニ對スル結核菌竝ニ非病原性抗酸性菌ノ發育閾價ヲ見ルニ、多クノ研究家ニ依テナサレタルモ各自ソノ價ヲ異ニス。之ハ實驗ニ使用シタル培養基竝ニ培養法及ビ菌株ノ異ナルニ依ル可シ。從ツテ余ノ場合ニ於テモ發育閾價ヲ確定スルコトハ不可能ナレド總括的ニ觀察シ發育閾價ヲ示セバ前表ノ如シ(表ハ略ス)。但シ鹽化「マグネシウム」、過「クロール」鐵ニ於テハ原培養基ニ於テモ發育ヲ見タル故實際價ハソレ以上ナル可シ。

金屬鹽類加キルヒナー氏液體培養基ニ於テ表面培養ハ深部培養ニ比シ金屬鹽類ニヨル發育阻止作用ヲ受クルコト弱シ。

各種金屬鹽類加キルヒナー氏培養基ニ培養シ、發育完全阻止ヲ蒙リタルモノ及ビ發育抑制セラレタル菌苗ニ於テモ、是等ヲ新培養基(Petragnani氏培地)ニ移植スル場合ニハ2、3ノモノヲ除ク他發育増殖スル能力アルヲ認ムルナリ。

(大連 佐々抄)

會報並雜報

七月中新入會者

三 好 晴 之 東京帝國大學青山外科醫局
上 條 秀 介 東京市荏原區中延町二〇一六昭和

醫學專門學校
比 企 能 達 東京市本郷區弓町二丁目一番地

會員ノ訃

右記會員ノ訃報ニ接ス謹テ用意ヲ表ス

鳥 湯 豐(評議員) 竹 山 正 男

杉 村 民 藏 中 島 喜 七